

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

—1995・1996年度—



愛媛大学埋蔵文化財調査室

2001

愛媛大學埋蔵文化財調査室年報

—1995・1996年度—

愛媛大學埋蔵文化財調査室

2001

序 文

愛媛大学は、松山市および愛媛県内各所に大小のキャンパスをもち、敷地総面積は464ヘクタールにおよぶ。その敷地の中で、本部事務局と4つの学部を抱える城北地区には文京遺跡、農学部と附属高等学校がある樽味地区には樽味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地では鷹子遺跡など、数多くの遺跡が営まれている。埋蔵文化財調査室では、こうした埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合、影響度に応じて、本格的な全面調査、試掘調査、立会調査の方法で発掘調査を実施し保護処理を講じている。また、1992年度からは、大学構内における埋蔵文化財の有無や精度の高い分布状況を把握するために、確認調査を始めている。

こうした調査の成果は、客観的な資料化を進めて調査報告書にまとめて公開する必要がある。つい最近の旧石器捏造問題でも取り上げられたように、この報告書の作成を通して初めて、遺跡の評価が行われるのであり、文化庁からも、調査終了後速やかな発掘調査報告書の刊行が促されている。ところが、本格的な全面調査については、調査報告書刊行には調査と同等、あるいは出土遺物量やその質によってはそれ以上の時間を要することになる。愛媛大学の場合も、膨大な出土遺物量と、頻繁な発掘調査の実施で、速やかな報告書刊行を容易に行えない状況である。そこで、文化庁からの指導でもある、概要報告書を、本格的な全面調査については作成することとし、試掘・立会・確認調査といった小規模調査についても、その成果を報告することとした。後者については、先に1987～1994年度の小規模調査について『愛媛大学構内遺跡調査集報I』を刊行しているところであるが、この『集報』に替え、大規模調査の概要報告と小規模調査の正式報告を併せた『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報』を、今後逐次刊行していくこととする。なお、年度当初から、1995年度以降の累積した未報告資料の整理を進めってきたが、当初計画にない補正予算事業への対応などにより、今回は1995、1996年度の報告に留まらざるを得なかった。1997年度以降に関しては、来年度中に発刊する予定である。

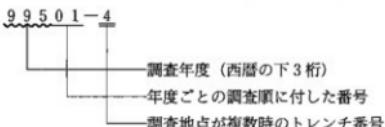
本書をまとめるにあたり、発掘調査から記録・遺物類の整理、そして報告書の刊行にいたるまでには、多くの機関・部局・個人の方々から協力を得た。それらに深く感謝するとともに、本書が多くの人々に利用・活用されることを祈念します。

平成13年3月1日

愛媛大学埋蔵文化財調査室 室長
下條 信行

例　　言

1. 本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が1995年度と1996年度に愛媛大学構内で実施した大規模事前全面調査の概要と、試掘・立会・確認などの小規模調査の成果を報告する愛媛大学埋蔵文化財調査室年報であり、愛媛大学埋蔵文化財調査報告VIIにある。
2. 埋蔵文化財調査室では、1975年から始まった大学構内の発掘調査まで遡って調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下3桁の後に各年度ごとの調査順に1から2桁の通し番号を加えた5桁の番号で表示している。調査番号に加えて、複数の地点(トレンチ)を調査した場合、本書ではーの後に地点番号を付している。本書挿図中では、この調査番号+調査トレンチ番号で調査地点を表示している。



3. 本書の巻末には、これまで愛媛大学構内で行われてきた調査一覧を付している。
4. 本書では、遺構番号に冠して、掘立柱建物：SB、竪穴式住居跡：SC、溝：SD、炉跡・竈：SF、土壙：SK、柱穴・小穴：SP、自然流路：SR、その他の遺構：SXの記号で遺構の種別を表している。
5. 本書で表示した方位・標高数値は、全面調査においては、すべて平面直角座標IV系にしたがった。ただし、試掘・立会調査・確認調査で座標系が利用できなかった場合は、調査地点周囲の平板測量成果を掲載し、磁北を表示した。
6. 城北団地と樽味団地では、既往の調査成果から、団地全域にわたる基本層序を設定し、個々の調査地点の個々の特徴は大区分を基本層序に準拠し、それを構成する土層群ごとに細かな特徴や構成を観察し記録化している。本書で報告する城北団地と樽味団地の調査報告では、この基本層序に基づく層序関係の表記を行っている。
7. 土色・遺物の色調は、1991年以降、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』(1967)に準拠したが、本文中ではマンセル記号は省略した。
8. 本書に使用した遺構図は、田崎博之・吉田広・三吉秀充・宮崎直栄が作成し浄写を行った。
9. 本書に使用した遺物図は、山村芳貴が作成し浄写を行った。
10. 本書で使用した写真は、田崎・吉田・三吉が撮影した。
11. 本書は田崎・吉田・三吉・山村が執筆し、編集を下條信行の指導のもとに吉田が行った。
12. 本書に報告した調査に係わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管されている。

目 次

序 説	1
1 愛媛大学における埋蔵文化財調査と体制	1
①1995年度までの調査と体制	
②1996年度以降の調査と体制	
2 愛媛大学における埋蔵文化財の普及活動	2
3 愛媛大学における埋蔵文化財の把握状況	3
4 愛媛大学における埋蔵文化財の基本層序と区割り	4
I 1995年度の調査	5
99501 教育学部運動場内鉄棒移設工事に伴う調査	7
99502 教養部テニスコート（事務局北側）改修工事に伴う調査	7
99503 工学部南側調障工事に伴う調査	10
99504 理学部構内井戸工事に伴う調査	11
99505 山越団地防球ネット取扱工事に伴う調査	12
99506 地域共同研究センター新営工事に伴う調査（文京遺跡13次調査）	13
99507 公共下水道桿取設工事に伴う調査	18
99508 北吉井宿舎公共下水道設置工事に伴う調査	19
99509 城北団地（北西）通用門改修工事に伴う調査	20
99510 埋蔵文化財調査室改修工事に伴う調査	22
99511 城北団地基幹整備（電線管等）工事に伴う調査	23
99512 城北団地事務局ガス管改修工事に伴う調査	28
II 1996年度の調査	30
99601 工学部校舎新営（II期）工事に伴う調査（文京遺跡14次調査）	31
99602 1996年度構内遺跡確認調査（文京遺跡15次調査）	38
99603 附属農業高等学校校舎新営工事に伴う調査	54
99604 附属農業高等学校温室新営工事に伴う調査	61
99605 農学部構内光ケーブル敷設工事に伴う調査	63
99606 教育学部附属中学校プール改修その他工事に伴う調査	64
付. 卷 末 表	68
愛媛大学構内における調査一覧	

本文挿図目次

図1 埋蔵文化財調査室の体制	1	(縮尺1/4,000)	31
図2 1995年度城北団地調査地点 (縮尺1/4,000)	5		
図3 1995年度山越団地調査地点 (縮尺1/4,000)	6		
図4 1995年度樽味団地・北吉井団地調査地点 (縮尺1/4,000)	6		
図5 99501-2・3トレンチ土層柱状図 (縮尺1/40)	7		
図6 99502-1～4トレンチ土層柱状図 (縮尺1/40)	9		
図7 99503調査区東壁土層柱状図(縮尺1/40)	10		
図8 99504-1・2トレンチ土層柱状図 (縮尺1/40)	11		
図9 99504-1トレンチ出土遺物実測図 (縮尺1/4)	12		
図10 99505調査区西壁土層柱状図(縮尺1/40)	12		
図11 99506(文京遺跡13次調査)遺構配置および SB-51遺構実測図(縮尺1/200、1/40)	15-16		
図12 99507調査区東壁土層柱状図(縮尺1/40)	19		
図13 99508調査区平面および土層断面図 (縮尺1/40)	20		
図14 99508調査区SK-1出土遺物実測図 (縮尺1/4)	20		
図15 99509-1～3トレンチ土層断面図 (縮尺1/4)	21		
図16 99510調査地点土層柱状図(縮尺1/40)	23		
図17 99511-1トレンチ位置および遺構・土層断面 図(縮尺1/400、1/40)	24		
図18 99511-1トレンチ出土遺物実測図 (縮尺1/4)	26		
図19 99511-2・3トレンチ位置および土層柱状図 (縮尺1/400、1/40)	26		
図20 99512-1～3トレンチ位置および土層柱状図 (縮尺1/400、1/40)	29		
図21 1996年度城北団地調査地点 (縮尺1/4,000)	30		
図22 1996年度樽味団地調査地点			
図23 1996年度持田団地調査地点 (縮尺1/4,000)	31		
図24 99602(文京遺跡15次調査)-1～3トレンチ 遺構配置および土層断面図 (縮尺1/200、1/20)	39-40		
図25 99602(文京遺跡15次調査)-1トレンチ SR-01出土遺物実測図(縮尺1/4)	41		
図26 99602(文京遺跡15次調査)-4・5トレンチ 遺構配置および土層断面図 (縮尺1/200、1/20)	44		
図27 99602(文京遺跡15次調査)-5トレンチ 出土遺物実測図(縮尺1/4)	46		
図28 99602(文京遺跡15次調査)-6トレンチ 遺構配置および土層断面図 (縮尺1/200、1/20)	46		
図29 99602(文京遺跡15次調査)-7・8トレンチ 遺構配置および土層断面図 (縮尺1/200、1/20)	49-50		
図30 99602(文京遺跡15次調査)-7トレンチ 出土遺物実測図(1)(縮尺1/4)	52		
図31 99602(文京遺跡15次調査)-7トレンチ 出土遺物実測図(2)(縮尺1/4)	53		
図32 99602(文京遺跡15次調査)-8トレンチ 出土遺物実測図(縮尺1/4)	53		
図33 城北団地および周辺の既往の調査地点位置図 (縮尺1/2,500)	55-56		
図34 城北団地および周辺の土層断面図 (縮尺1/2,500、1/125)	57-58		
図35 99603-1～5トレンチ位置および土層断面・ 柱状図(縮尺1/400、1/40)	59		
図36 99604-1～3トレンチ位置および土層柱状図 (縮尺1/400、1/40)	62		
図37 99605調査地点位置および土層柱状図 (縮尺1/400、1/40)	64		
図38 99606調査地点位置および土層柱状図 (縮尺1/400、1/40)	65		

本文写真目次

写真1	99506 (文京遺跡13次調査) 遺構切り取り 作業風景.....	2	写真31	99511-3 トレンチ全景 (南から)	28
写真2	99601 (文京遺跡14次調査) 仮囲いと 広報活動.....	2	写真32	99512-1・2 トレンチ (北から)	28
写真3	99502調査地点 (南東から)	8	写真33	99512-1 トレンチ土層断面.....	28
写真4	99502-1 トレンチ東壁土層.....	9	写真34	99601 (文京遺跡14次調査) 中央部 造構検出状況 (南から)	34
写真5	99502-2 トレンチ北壁土層.....	9	写真35	99601 (文京遺跡14次調査) 完掘全景 (南西から)	34
写真6	99502-3 トレンチ北壁土層.....	9	写真36	99601 (文京遺跡14次調査) 表土除去後 全景 (東から)	35
写真7	99502-4 トレンチ北壁土層.....	9	写真37	99601 (文京遺跡14次調査) 表土出土 薬莢.....	35
写真8	99503調査風景	10	写真38	99601 (文京遺跡14次調査) SC-136、137 床面検出状況 (北東から)	35
写真9	99503土層	10	写真39	99601 (文京遺跡14次調査) SC-136 鋤痕検出状況 (北東から)	35
写真10	99504-1 トレンチ東壁土層.....	11	写真40	99601 (文京遺跡14次調査) SC-136 北東部鋤痕検出状況 (北から)	35
写真11	99504-2 トレンチ東壁土層.....	11	写真41	99601 (文京遺跡14次調査) SC-136 完掘状況 (北東から)	35
写真12	99505調査区東壁土層	12	写真42	99601 (文京遺跡14次調査) SC137P41 滑石製鋸鉋出土状況 (北から)	35
写真13	99506 (文京遺跡13次調査) 建物本体部分 (CX～DE11～15区) 全景 (西から)	14	写真43	99601 (文京遺跡14次調査) SC-61 カマド土器出土状況 (東から)	35
写真14	99506 (文京遺跡13次調査) DB～DD13～ 15区の竪穴式住居跡群	14	写真44	99601 (文京遺跡14次調査) SC-50 カマド検出状況 (西から)	35
写真15	99506 (文京遺跡13次調査) DF・DG12～ 15区 (北東から)	17	写真45	99601 (文京遺跡14次調査) SC-71・96・97 完掘状況 (北から)	36
写真16	99506 (文京遺跡13次調査) DF・DG22・ 23区 (南東から)	17	写真46	99601 (文京遺跡14次調査) SC-17、-18 完掘状況 (東から)	36
写真17	99506 (文京遺跡13次調査) DBI1・12区 SD-3 土層断面 (北東から)	17	写真47	99601 (文京遺跡14次調査) SC-51 造成状況 (南西から)	36
写真18	99506 (文京遺跡13次調査) DG16区 土器溜り (東から)	17	写真48	99601 (文京遺跡14次調査) SC-94 土器出土状況 (西から)	36
写真19	99506 (文京遺跡13次調査) DF11区 鍛冶炉 (北から)	17	写真49	99601 (文京遺跡14次調査) SK-67、-68、 -69、-70土器出土状況 (北から)	36
写真20	99507調査地点 (南西から)	19	写真50	99601 (文京遺跡14次調査) SK-53 土器出土状況 (北から)	36
写真21	99507東壁土層	19	写真51	99601 (文京遺跡14次調査) 西側北半部 完掘状況 (南から)	37
写真22	99508調査風景	20			
写真23	99508調査区SK-1 (南東から)	20			
写真24	99509-1 トレンチ北壁土層.....	21			
写真25	99509-2 トレンチ西壁土層.....	21			
写真26	99509-3 トレンチ東壁土層.....	21			
写真27	99511-1 トレンチ遠景 (北西から)	25			
写真28	99511-1 トレンチ南端東壁土層.....	25			
写真29	99511-2 トレンチ全景 (北西から)	27			
写真30	99511-2 トレンチ樹部分土層.....	27			

写真52	99601（文京遺跡14次調査）中央北半部 完掘状況（南から）	37	全景（南から）	45	
写真53	99601（文京遺跡14次調査）西側南半部 完掘状況（南から）	37	写真64	99602（文京遺跡15次調査）-4トレンチ 東壁土層	45
写真54	99601（文京遺跡14次調査）完掘状況 (北西から)	37	写真65	99602（文京遺跡15次調査）-5トレンチ 全景（東から）	45
写真55	99601（文京遺跡14次調査） 現地説明会風景	37	写真66	99602（文京遺跡15次調査）-5トレンチ 出土遺構（南から）	45
写真56	99601（文京遺跡14次調査） 現地説明会風景	37	写真67	99602（文京遺跡15次調査）-6トレンチ 全景（北から）	47
写真57	99602（文京遺跡15次調査）-1トレンチ 西壁土層	41	写真68	99602（文京遺跡15次調査）-6トレンチ 出土遺構（南から）	47
写真58	99602（文京遺跡15次調査）-2トレンチ 全景（南から）	41	写真69	99602（文京遺跡15次調査）-7トレンチ 全景（南から）	51
写真59	99602（文京遺跡15次調査）-2トレンチ 南端（北から）	41	写真70	99602（文京遺跡15次調査）-7トレンチ 北半部の土層	51
写真60	99602（文京遺跡15次調査）-2トレンチ 北端（南から）	41	写真71	99603-3トレンチ土層	60
写真61	99602（文京遺跡15次調査）-3トレンチ 全景（北から）	42	写真72	99603-5トレンチ全景（西から）	60
写真62	99602（文京遺跡15次調査）-3トレンチ 南端（南から）	42	写真73	99603-4トレンチ全景（西から）	60
写真63	99602（文京遺跡15次調査）-4トレンチ		写真74	99603-4トレンチ東壁土層	60

付 図

付図1 99410（文京遺跡12次調査）、99601（文京遺跡14次調査）、99701（文京遺跡16A次調査）、99702（文京遺跡16B次調査）遺構配置図（縮尺1/200）

序　　説

1 愛媛大学における埋蔵文化財調査と体制

① 1995年度までの調査と体制

これについては、「愛媛大学構内遺跡調査集報Ⅰ」において詳述しており、以下では略記するにとどめておく。

愛媛大学構内における埋蔵文化財については、1951年頃から知られるようになり、本格的な埋蔵文化財調査は、1975年の文京遺跡1次調査に始まる。以後1984年の文京遺跡5次調査までは松山市教育委員会が担当し、1986年度はこれを開設まもない人類考古学研究室が担った。

埋蔵文化財調査室において構内遺跡の調査を担当する体制が発足したのは、1987年6月であり、法文学部から当面の室員として宮本一夫（法文学部・物質文化論・助教授）が着任し、鷹子遺跡1次調査・樽味遺跡1次調査・文京遺跡8~11次調査などの調査が行われた。1991年4月~12月には埋蔵文化財調査室が一旦閉鎖状況に陥るが、1992年1月に田崎博之が教養部教官（歴史学・助教授）として着任し、樽味遺跡2、3次調査・文京遺跡12、13次調査などが行われた。また、大學構内における埋蔵文化財の有無や分布状況を把握する確認調査も開始し、そこに通常の試掘・立会が加わることとなり、調査件数は年間10~15件を数えるようになった。1994年度までのこれら確認・試掘・立会調査の成果は「愛媛大学構内遺跡調査集報Ⅰ」として刊行している通りである。

ところが、1994年度以降、城北団地における工学部校舎新工事や地域共同研究センター建設などの大規模な全面調査が計画されると、現行の体制では、発掘調査への対応だけでなく、既往の調査成果の整理・報告に支障となることが予測される状況となつた。文京遺跡12次調査・13次調査まではそれでも現行の体制で望んだが、自転車操業的な発掘調査の一方で、出土遺物整理のために臨時職員を雇用して実際の整理作業を進め、その指示・指導を行うという状況であった。これは大きな負担であり、また新たな埋蔵文化財調査室の体制整備が図られることとなつた。

② 1996年度以降の調査と体制

1996年4月に吉田広（法文学部・原始文化論・講師）と三吉秀充（法文学部・先史考古学・助手）が室員に加わり、同じ4月には、教養部廃止に伴い、室員の田崎も法文学部へ異動している。これによって、田崎・宮崎直栄（非常勤職員）と、吉田・三吉という2パーティ一体制が整備されたことになった。また併せて埋蔵文化財調査室も改修され、狭いながらも整理作業スペースと収納スペースを確保することができるようになった。

吉田・三吉は着任後すぐ文京遺跡14次調査にあたることになるが、予想以上の遺構密集と豊富な出土遺物により、予定外の時間を調査に費やすこととなる。結果、1997年3月には、工事着工部分のみを終え、残る区域を16B次調査として、そのまま調査を継続することになり、1997年4月からの田崎・宮崎による文京16A次調査と約4ヶ月間同時並行することとなった。その後も、試掘・立会など小規模調査から、樽味遺跡4次調査に到り、十分な整理時間をとれないまま、吉田・三吉は調査に忙殺されることとなる。また、その後連年の補正予算事業による発掘調査の頻発により、報告書刊行に向けた整理作業に専念できないことが現在まで慢性化してしまっている。

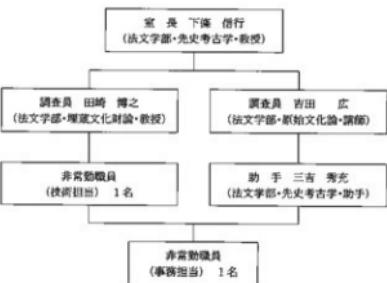


図1 埋蔵文化財調査室の体制

体制を整えたとは言え、このような状況に陥った要因の一つには、遺跡の広がり・濃度を的確に把握していないかったこともある。このような反省もあって、より大きな規模で確認調査を実施したのが1996年度の文京遺跡15次調査であり、1997年度にも継続している。

1995、1996年度に実施してきた調査は、全面調査が

3件（文京遺跡12、13、14次調査、ただし12次調査は1994年度からの継続）、試掘調査6件、立会調査9件、確認調査1件（文京遺跡15次調査）にのぼる。またその間に刊行した報告書は、『樽味遺跡III』と『愛媛大学構内遺跡調査集報I』の2冊である。（吉田）

2 愛媛大学における埋蔵文化財の普及活動

埋蔵文化財調査室の調査体制が、まがりなりにも整備されたのに伴い、構内の埋蔵文化財に対する周知を図るために方策も幾らか講じてきた。

まず、発掘区周りの仮囲いができる限り金網とすることで、調査期間中の公開性を高めようと心がけている（写真2）。その上で、見学者への配慮はその都度、作業に支障のない範囲で行ってきた。また、その公開の最大の機会である現地説明会についても、本格全面調査については、これを実施してきた。文京遺跡12次調査では1995年6月9日に、文京遺跡13次調査では1996年4月2日に、文京遺跡14次調査では1997年2月28日に学内向け、そして翌3月1日に主に学外に向けて実施し（写真55、56）、学内外から多くの参加をいただいた。

一方、学内教職員への周知を図るために、埋蔵文化財調査室から、全面調査の速報を『学報』に寄せててい

る。その掲載記事は以下の通りである。

竪穴式住居跡 379号（1995.4）

文京遺跡12次調査が終了 382号（1995.7）

文京遺跡13次調査が終了 394号（1996.7）

文京遺跡14次調査で遺構を発見 397号（1996.10）

弥生時代のマツリー平形銅劍一 398号（1996.11）

糸をつむぐ 399号（1996.12）

重なり合う住居跡 400号（1997.1）

竈（カマド）を掘る 401号（1997.2）

ガラス玉が出土 402号（1997.3）

他、田崎博之「文京遺跡の弥生時代集落」（『愛媛大学工業会会誌』第9号、1995年）もある。

なお、今後の普及活動の資料として、重要遺構の土層転写や一部切り取りについても、行っていることを付記しておきたい（写真1）。（吉田）



写真1 99506 (文京遺跡13次調査) 遺構切り取り作業風景



写真2 99601 (文京遺跡14次調査) 仮囲いと広報活動

3 愛媛大学における埋蔵文化財の把握状況

愛媛大学の敷地は松山市および愛媛県内の各所に分散し、敷地の総面積は464ヘクタールにおよぶ。2000年度時点で、把握できている埋蔵文化財の分布は以下の通りである。調査が進展し、確認調査なども行われているが、そのほとんどが城北団地・檜味団地に限られているのも事実で、既往の調査がなく、遺跡の有無すら確認されていない団地もあり、今後とも確認調査などを進めていく必要がある。

城北団地：松山市道後樋又10番、文京町2・3番
法文学部・教育学部・理学部・工学部・大学事務局が所在する。前節でも述べたように、1951年から遺物が採集され、文京遺跡として周知化されている。これまで、1～3・5～22次にわたる全面調査と確認・試掘・立会調査で、绳文時代後期～中世の集落遺跡・生產遺跡であることが確認されている。

持田団地：松山市持田町1丁目5番22号

教育学部附属中・小・幼・養護学校が所在する。1929年に旧制松山高等学校10周年陳列会では、旧グラウンドから採集された弥生時代前期の木葉文をもつ壺や石庖丁が展示されている。最近、団地北東側の隣接した地点で、松山市埋蔵文化財センターが14世紀を前後する水田跡を調査しており、その水田層が持田団地内にも広がると推測される。既往の調査成果を含めて、団地北半部には遺跡が分布していると考えられる。

檜味団地：松山市檜味3丁目5番7号

農学部・附属高等学校・附属研究施設が所在し、檜味遺跡として周知化されている。これまでに1～5次の全面調査と小規模調査によって、一帯に古墳時代と中世の集落遺跡が広がることが明らかになっている。

御幸団地：松山市御幸町2丁目3番15号

学生寄宿舎が所在する。既往の調査で、団地西半部には、中世以前の水田層の分布を確認している。

米野団地：松山市米野町乙184-1

農学部附属演習林が所在するが、既往の調査はなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

梅津寺団地：松山市梅津寺1861

大学課外活動施設が所在するが、既往の調査はなく、埋蔵文化財の有無は未確認。

北持田団地：松山市北持田町128-1

職員宿舎が所在しているが、既往の調査はなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

東長戸団地：松山市東長戸4丁目3番1号

職員宿舎が所在する。丘陵部裾の段丘の落ち際に位置し、団地東半部を中心として遺跡が営まれている可能性がある。

喜与団地：松山市喜与町1丁目8番8号

職員宿舎が所在しているが、既往の調査はなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

北吉井団地：松山市桑原2丁目9番8号

職員宿舎が所在している。既往の調査で、古墳時代の集落遺跡が団地全面に展開していることを確認している。

鳷子団地：松山市鳷子町40

国際交流会館が所在する。鳷子遺跡1次調査では、弥生時代中期後葉、7～8世紀、中世の土壌や溝が確認されている。

山越団地：松山市山越4丁目11番10号

大学課外活動施設の野球場・馬場・サッカーグラウンドなどの施設がある。丘陵部裾からびる段丘の落ち際に位置し、団地東半部では弥生時代以降の水田層、西半部では古墳時代に埋没した自然河道が確認されている。

中島団地：温泉都中島町大字小浜字瀬戸木

理学部附属臨海実験所が所在する。既往の調査はなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

重信団地：温泉都重信町大字志津川

医学部および附属病院が所在する。既往の調査の成果では、団地東北部分には遺跡が営まれている可能性が残されている。

溝辺団地：松山市溝辺町乙298

農学部附属高等学校の校舎があるが、既往の調査はなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

横河原団地：温泉都重信町大字横河原字横川

職員宿舎が所在する。現在の重信川の氾濫原上にあり、埋蔵文化財は分布していない。

北条団地：北条市八反地字伊利甲498

農学部附属農場が所在するが、既往の調査はなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

津田山団地：松山市北斎院町津田山

教育学部附属養護学校の施設が所在する。1996年度までに2件の調査を実施したが、埋蔵文化財の分布は確認されていない。

伊予団地：伊予市森字下新田729

大学課外活動施設が所在するが、既往の調査はなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

大井野団地：松山市大井野町乙145-2

農学部附属演習林が所在するが、既往の調査はなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

東野団地：松山市東野4丁目222

農学部附属演習林・短期学生宿舎が所在する。団地および周辺は、東野古墳群として周知化されている。

(吉田)

4 愛媛大学における埋蔵文化財の基本層序と区割り

既往の調査データが蓄積された城北団地と樽味団地については、遺跡が営まれた土地環境を把握・理解するために、団地全域にわたる基本層序を設定している。個々の調査地点の層序は、大区分を基本層序に準拠し、それを構成する細かな土層ごとに枝番号を付けて特徴や構成を観察し記録化している。また、包含層が厚く堆積する場合の多い城北団地については、その出土遺物取り上げのための区割りを行っている。

[城北団地]

基本層序を上位からⅠ～Ⅶ層に区分している。

Ⅰ層：表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分。

Ⅱ層：造成以前の灰色系の近世～近代の水田層。

9～11次調査で報告されている赤褐色土層

は、Ⅱ層の床土部分にあたる。

Ⅲ層：弥生時代～古墳時代の遺構・遺物を包含する黒色～暗褐色系の土層である。

IV層：黄褐色系のシルト～砂質土層で、下部には礫が混じる。縄文時代後期から晩期の遺構・遺物が確認されている。

V層：IV層下の花崗岩を主体とする砂礫ないし礫層である。

また、城北団地全域をカバーする区割りを設定して

いる。すなわち、一万交差点にほど近い国土座標軸上の点(X = 93900.00 Y = -66800.00)を基点に、その北西側に5m方眼区画を設定する。方眼区画は東西方向に東から西へAA・AB・AC～AZ・BA・BB～BZ・CA・CB～、南北方向に南から北へ1・2・3～と呼称している。さらにこの区画内の細分についても、1m方眼とし、その南東隅から西に1～5、そして北側列を6～10と、北西隅の25に到るよう細分呼称する。

[樽味団地]

基本層序を上位からⅠ～Ⅴ層に区分しており、北吉井団地においても同様の層序を確認している。

Ⅰ層：表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分。

Ⅱ層：造成以前の灰色系の近世～近代の水田層。

2次調査のⅡ層と対応する。

Ⅲ層：遺物を包含する黒色～黒褐色系の土層。2次調査のⅣ層と対応する。

IV層：黄褐色系のシルト～砂質土層で、下部には礫が混じる。2次調査のV～IX層と対応する。

V層：IV層下の花崗岩を主体とする砂礫ないし礫層。2次調査のX～XII層。

(吉田)

I 1995年度の調査

1995年度には、7月26日まで工学部研究・実験棟建設（Ⅰ期）工事に伴う文京遺跡12次調査を前年度から継続するとともに、立会調査8件（城北団地6件、樽味団地1件、北吉井団地1件）、試掘調査3件（城北団地2件、山越団地1件）、全面調査1件（文京遺跡13次調査）を実施した（図2～4）。とくに、立会調査・試掘調査は、文京遺跡12次調査の合間にねって行われねば

ならず、これまでになく調査に追われる忙しい年度であった。

そうした中で、埋蔵文化財調査室は、施設部企画課と協議を行い、年度当初に営繕工事等の年間工事計画を関係部局から集め、年間を通じた計画的で円滑な調査を行うことを努めることとした。ところが実際は、計画外の工事が生じ、突然、施設部から立会・試掘調

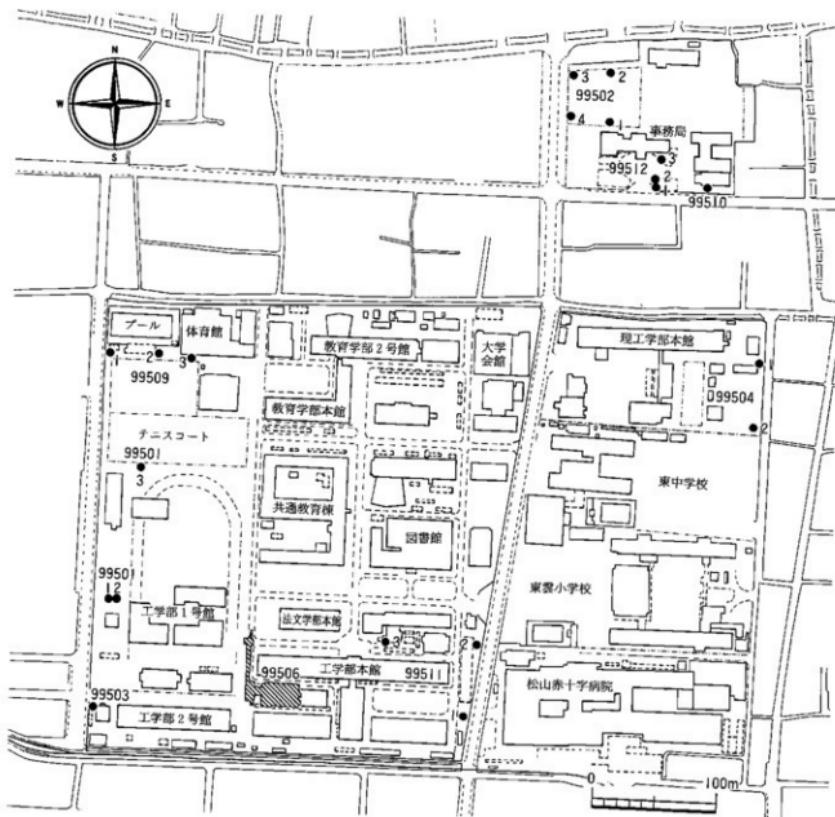


図2 1995年度城北団地調査地点（縮尺1/4,000）

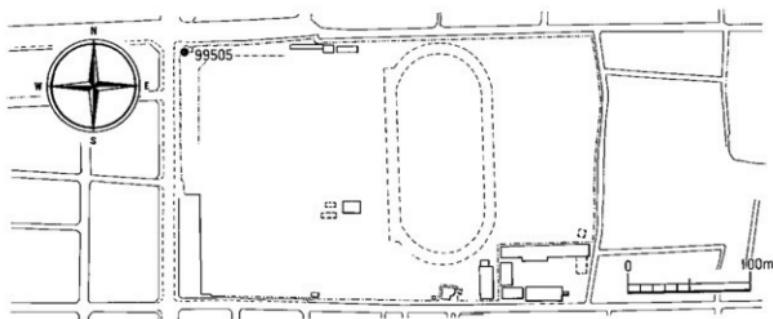


図3 1995年度山越団地調査地点（縮尺1/4,000）

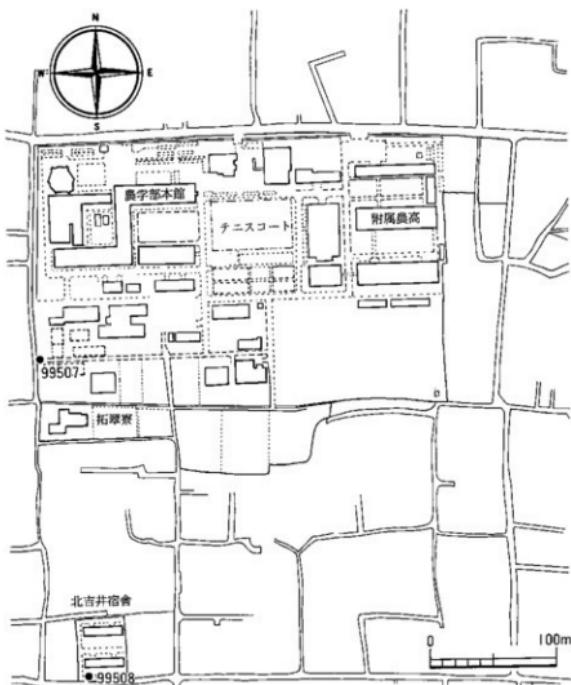


図4 1995年度拂味団地・北吉井団地調査地点（縮尺1/4,000）

査が依頼され、やむなく全面調査を一時中断して、対応せざるをえなかった。こうした突然の工事計画の提

示は、計画的で円滑な発掘調査の実施を阻害するもので、この点について改善が強く望まれる。（田崎）

99501 教育学部運動場内鉄棒移設工事に伴う調査

調査地点 松山市文京町3番

愛媛大学城北団地内

調査面積 48m²

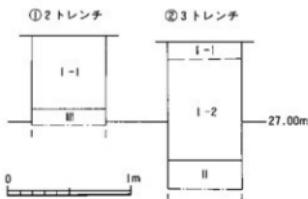
調査期間 1995年4月11日～4月12日

調査の種別 立会調査

調査担当 田崎博之

調査補助 宮崎直栄

依頼文書 愛大教発第296号（平成7年5月25日）



【調査にいたる経緯】

工学部1号館（Ⅰ期）建設工事に伴い、グラウンド西側中央に設置されている鉄棒設備の移動が必要となった。埋蔵文化財調査室では、継続中の文京遺跡12次調査のスケジュールを変更して、鉄棒移設元と移設先での立会調査を緊急に実施した。

移設元の鉄棒は2ヶ所あり、西側支柱部分を1トレンチ、東側支柱部分を2トレンチとした。また、グラウンド北端の移設先を3トレンチとした。

【調査の記録】

1・2トレンチでは、黒褐色(10YR3/2)砂質シルト層をG.L.-0.6mで確認した（図5-①）。この土層は、文京遺跡全城における基本層序のⅢ層に相当し、弥生時代～古墳時代の遺物を包含する。ただし、今回の調査では、遺物は出土しなかった。

3トレンチでは、鉄棒支柱を設置する根切り面まで擾乱層が続く。東端部分を深掘りして、下層の土層堆積状態を確認した（図5-②）。表土および擾乱層がG.L.-0.95mまで続く。その下層では褐色砂質シルト層があらわされた。この土層は、大学会館北側（調査番号：

図5 99501-2・3トレンチ土層柱状図（縮尺1/40）

I層：表土層、I-1層は真砂土、I-2層は造成時の擾乱層。
II層：褐色砂質シルト層。
III層：黒褐色(10YR3/2)砂質シルト層。

99305）や、付属図書館北側（調査番号：99405）で確認されている堆積物と土色・土質が共通する。文京遺跡全城における基本層序のⅡ層と対応するもので、キャンパス北東から中央にかけてのびる谷状の窪地内に堆積する土層である。遺構・遺物は出土しなかった。

【調査後の対応と問題点】

土層の確認後、慎重工事を依頼し、調査を終了した。

この調査は突然依頼されたものである。しかし、こうした工事は、工学部1号館（Ⅰ期）建設工事の着手以前に想定可能である。今後、施設部には、校舎建設工事の計画立案時から関連諸工事を把握した上で埋蔵文化財調査室への計画案の提示と、調査日程を含めた協議が求められる。今回は、どうにか調査を終えることができたが、場合によっては対応できない場合も予想される。今後、こうした点の改善を強く望みたい。（田崎）

99502 教養部テニスコート（事務局北側）改修工事に伴う調査

調査地点 松山市文京町3番

愛媛大学城北団地内

調査面積 9m²

調査期間 1995年8月1日

調査の種別 試掘調査

調査担当 田崎博之

調査補助 宮崎直栄

依頼文書 愛大教養発第159号（平成7年6月28日）



写真3 99502調査地点（南東から）

【調査にいたる経緯】

城北団地事務局の北側にある教養部テニスコートの改修が計画され、工事に先立って試掘調査を行い、埋蔵文化財の有無、深度を確認し、設計変更によって埋蔵文化財を保護することとなった。

改修が計画されているテニスコートは、西側2面である。その四隅に試掘トレンチを設け、調査順に南東隅を1トレンチ、北東隅を2トレンチ、北西隅を3トレンチ、南西隅を4トレンチとした（写真3）。

【調査の記録】

4ヶ所のトレンチとともに、造成土が厚く客土されている。造成土をI層、その下層には灰青色～灰オリーブ色の土層が堆積する。文京遺跡全域における基本層序のII層に相当するが、各トレンチごとに土層の性格が異なり、II-1～II-7層とした。

1 トレンチ （図6-①、写真4）

表土層（1層）下でII-1～II-3層を確認した。II-1層は灰青色(5B6/1)砂礫層。II-2層は灰青色(5B6/1)粘質シルト層で、下層のII-3層との境界は不明瞭である。II-3層は灰青色(5B6/1)粘質シルトと黄褐色

(2.5Y5/6)粘質シルトが混交した土層である。下部は部分的に灰青色(5B6/1)細砂に変化する。II-1～3層の層厚は95cmほどで、表土下1.85mで、文京遺跡全域における基本層序のIV層にあたる黄褐色シルト層があらわれた。粘性が強く縮まっており、上層のII層からの鉄・マンガンの染み込みが著しい。IV層上面で、遺構の確認に努めたが、調査範囲が狭いためか、遺構・遺物は出土していない。

2 トレンチ （図6-②、写真5）

表土層（I層）下で確認したII層は2層に分層できる。上層からII-4層とII-5層とした。II-4層は、灰オリーブ色(7.5Y5/2)砂質シルト層で、小礫を多く含む。下部はII-5層へ漸移的に変化する。II-5層は、灰オリーブ色(7.5Y5/2)粘質シルト層である。下部の5cmほどには鉄・マンガンの集積層がみられる。II層の下層、表土下1.77m以下では、褐色(10YR5/1)砂礫が互層状態で堆積している。河川堆積物と考えられる。遺物は出土していない。

3 トレンチ （図6-③、写真6）

3トレンチで検出したII層は35cmほどの厚さで、灰

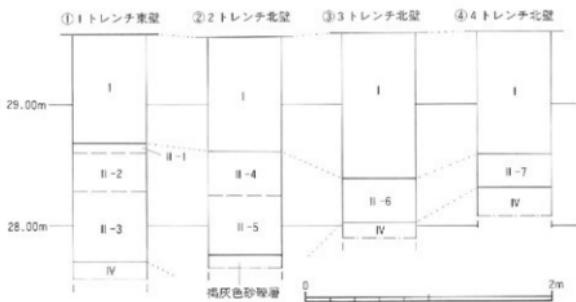


図 6 99502-1～4 トレンチ土層柱状図 (縮尺1/40)

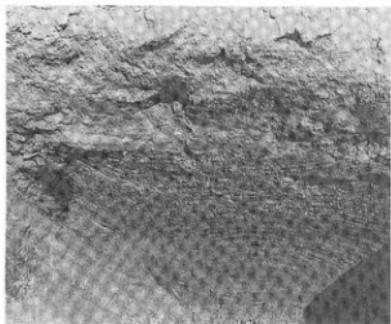


写真 4 99502-1 トレンチ東壁土層

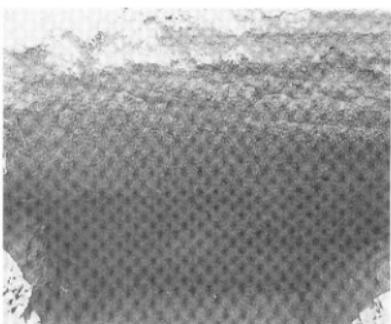


写真 5 99502-2 トレンチ北壁土層



写真 6 99502-3 トレンチ北壁土層

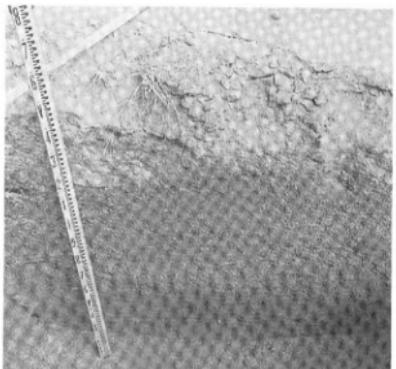


写真 7 99502-4 トレンチ北壁土層

オリーブ色(7.5Y5/2)シルト層である。上部は2トレンチのII-4層と同じく砂質が強く、下部はII-5層と近似して粘質が強い。II-6層とした。表土下1.55mで、基本層序のIV層にあたる黄褐色シルト層を確認した。1トレンチと同じく、粘性が強く縮まっており、上層からの鉄・マンガンの染み込みが著しい。IV層上面で遺構の確認に努めたが、遺構・遺物は出土していない。

4 トレンチ (図6-④、写真7)

4トレンチで確認できたII層も、層厚28cmほどで、灰オリーブ色(7.5Y5/2)粘質シルト層である。小礫を多く含み、下部にはマンガン・鉄の集積が観察され、

II-7層とした。城北キャンパスが造成される以前の水田層と考えられる。II層下では、表土下1.25mで基本層序のIV層にあたる黄褐色シルト層があらわれた。1・3トレンチと同じく、粘性が強く縮まり、上層からの鉄・マンガンの染み込みが著しい。IV層上面で遺構の確認に努めたが、遺構・遺物は出土していない。

【調査後の対応】

調査終了後、施設部と協議し、最も深く掘り下げられるテニスコート支柱部分の掘削深度をG.L.-1.2mまでとする設計変更を行い、埋蔵文化財の保護を図ることとした。
(田崎)

99503 工学部南側開障工事に伴う調査

調査地点 松山市文京町3番
愛媛大学城北団地内

調査面積 3m²

調査期間 1995年8月1日

調査の種別 立会調査

調査担当 田崎博之

調査補助 宮崎直栄

依頼文書 愛大工発第294号 (平成7年5月31日)

【調査にいたる経緯】

城北団地南側で囲隙の改修と外灯の設置が計画されていることが、施設部企画課から埋蔵文化財調査室に提示された。工事予定地周辺では、調査番号: 99215-2・3トレンチで、遺物を包含する黒褐色土層がG.L.-0.4mで確認されている。施設部と協議を行い、囲隙部分の根切り面をG.L.-0.4mまでとして慎重工事をを行い、根切り面が1mをこえる外灯部分のみを立会調査することとした。

【調査の記録】

調査地点は西門南側に位置する(写真8)。I層は表

土層で、I-1層はアスファルト部分、I-2層は砂疊層。I-3層は、礫石を多く含む褐色(10YR4/4)シルト層



写真8 99503調査風景



写真9 99503土層

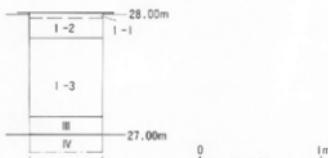


図7 99503調査区東壁土層柱状図 (縮尺1/40)

で、調査番号：98301の工事による搅乱部分。G.L.-0.85mであらわれた小礫をわずかに含む黒褐色(10YR3/2)砂質シルト層は、文京遺跡全域における基本層序のⅢ層に相当する。弥生土器が出土するとともに、炭化物を比較的多く含み、何らかの遺構の埋土と考えられる。下層では、基本層序のⅣ層のにぶい黄褐色(10

YR5/4)砂質シルトを確認した(図7、写真9)。

【調査後の対応】

調査後、施設部と協議を行い、外灯を設置する範囲をできるだけ小さくすることで、埋蔵文化財への影響を最小限にとどめることとした。(田崎)

99504 理学部構内井戸工事に伴う調査

調査地点 松山市文京町2番5号

愛媛大学城北団地内

調査面積 4m²

調査期間 1995年8月2日

調査の種別 試掘調査

調査担当 田崎博之

調査補助 宮崎直栄

依頼文書 愛大理発第157号(平成7年5月30日)

【調査の記録】

1トレンチ (図8-①、写真10)

理学部東北の通用門西側に位置する。I層は、造成土である表土層。G.L.-0.45mほどであらわれたII層は、城北キャンパスが造成される以前の水田層である。上部の褐色(10YR4/4)砂質シルト層部分であるII-1層、砂礫混じりの下部のII-2層に分層できる。II-1層は、鉄・マンガンの集積層が縞状に観察できる。水田層は1枚だけではなく、何枚かが重なっていると考

【調査にいたる経緯】

理学部敷地の南東地点で井戸を掘削し、理学部本館への給水管路を埋設する計画が、埋蔵文化財調査室に提示された。給水管路の掘削計画深度はG.L.-0.4mであるが、理学部東端では、周辺の調査番号：99406の調査成果もあるが、既往の調査が少ないとても、理学部西通用門近くの管路部分を試掘調査することとした。また、掘削深度が深い井戸本体部分については、事前に調査することとなった。

調査は、理学部西通用門近くの管路部分に1トレンチ、井戸本体部分を2トレンチとして進めた。

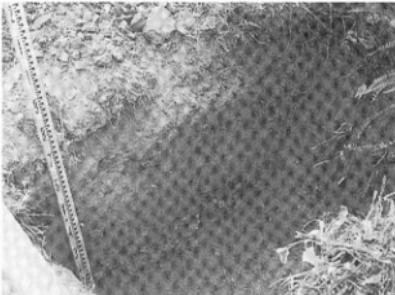


写真10 99504-1トレンチ東壁土層

① 1トレンチ東壁



② 2トレンチ東壁

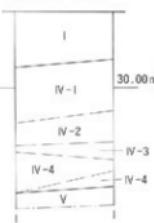


図8 99504-1・2トレンチ土層柱状図 (縮尺1/40)

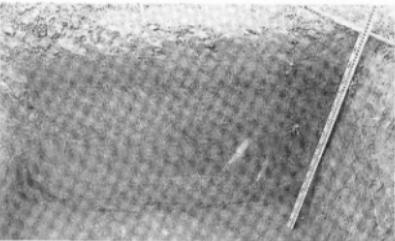


写真11 99504-2トレンチ東壁土層

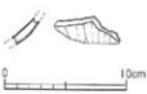


図9 99504-1トレンチ
出土遺物実測図
(縮尺1/4)

えられる。II-2層は、下層の砂礫層との漸移的な土層で、連弁文をもつ龍泉窯系青磁碗の小片が出土した(図9)。

II層の下位では、G.L.-0.75mで、3~5cm大、まれに人頭大の円礫を含む灰

色砂礫層があらわれた。河川流路の堆積物である。

2 トレンチ (図8-②、写真11)

理学部構内東南隅に位置する。表土・造成土層であるI層の直下で、黄色～黄褐色の土層があらわれた。文京遺跡全域での基本層序のIV層である。上位から、

IV-1～IV-5層に細分できるが、層界は漸移的である。IV-1層は明黄褐色(2.5Y7/6)砂質シルト層。IV-2層はにぶい黄色(2.5Y6/4)細砂層。IV-3層はオリーブ褐色(2.5Y4/6)粗砂層。IV-4層はにぶい黄色(2.5Y6/4)粘質シルト層。IV-5層はオリーブ褐色(2.5Y4/6)細砂層である。IV層の下位、G.L.-1.45~1.5mからは灰色(5Y4/1)砂礫層が堆積している。基本層序のV層である。調査区が狭いこともあり、出土遺物はない。

【調査後の対応】

調査後、施設部と協議し、管路部分の掘削深度を、埋蔵文化財に影響の及ばないG.L.-0.45mに設計変更することになった。
(田崎)

99505 山越団地防球ネット取設工事に伴う調査

調査地点 松山市山越4丁目11番10号

愛媛大学山越団地内

調査面積 7 m²

調査期間 1995年8月2日

調査の種別 試掘調査

調査担当 田崎博之

調査補助 宮崎直栄

依頼文書 愛大学発第138号(平成7年6月28日)

【調査にいたる経緯】

山越団地の野球練習場に防球ネットを設置することになったが、支柱を打ち込んで取設される計画が提示された。山越団地では既往の調査がほとんどなく、遺

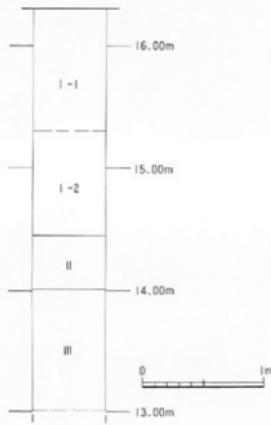


図10 99505調査区西壁土層柱状図(縮尺1/40)



写真12 99505調査区東壁土層

跡確認調査の意味もあり、防球ネットが取設される回地北西隅で調査を実施した。

【調査の記録】

グラウンド造成時の客土である表土層のI層がG.L.-1.85mまで続く。その下層で、黒褐色(10YR3/2)粘質シルト層であるII層、灰青色(5B6/1)の粘質土と

砂層の互層状態で堆積したIII層を確認した。II層は、周辺の水田面とほぼ同じ標高であり、山越畠地が造成される以前の水田層である。G.L.-3m前後(標高13m)で湧水がわき出し、安全の確保のために掘り下げを中止した(図10、写真12)。(田崎)

99506 地域共同研究センター新営工事に伴う調査 (文京遺跡13次調査)

調査地点 松山市文京町3番
愛媛大学城北団地内

調査面積 890m²

調査期間 1995年10月17日

～1996年4月12日

調査の種別 全面調査

調査担当 田崎博之

調査補助 宮崎直栄

依頼文書 愛大学発第138号(平成7年6月28日)

【調査にいたる経緯】

城北キャンパス南側の工学部本館と機械実習工場の間に、地域共同研究センターが建設されることとなり、建設予定地全面を調査することとなった(図11)。施設部と協議を行い、建設工事の都合から、調査区を建物本体部分と共同溝部分に分け、建物本体部分から調査を開始した。

【調査の記録】

今回の調査で確認できた主な遺構は、堅穴式住居34軒、掘立柱建物11棟、大型土壙3基+α、鍛冶炉1基、溝4条、土器溜まり1ヶ所である(写真13)。これらのうちSR-2・3は、文京遺跡全域の基本層序III層にあたる黒褐色シルト層を人力で掘り下げ中に確認し、他は基本層序IV層にあたる黄褐色シルト上面で検出した。また、溝および流路を除く遺構は、黒褐色系の埋土であるが、黒褐色シルトの埋土の遺構と、砂礫を比較的多く含む黒褐色砂質シルトの埋土のもの2者がある。前者は弥生時代～古墳時代前期、後者は古墳時代後期の遺構埋土である。

(1) 堅穴式住居

34軒の堅穴式住居跡には、弥生時代中期後葉、古墳時代前期と後期のものがある(SC-4～8、10～18、

21～28、30～35、37、38、40、48、50、55、355)。この中で、SC-31は、他の堅穴式住居跡と比べて遺構出土面からの深度が深く、貯蔵穴の可能性も残す。SC-24、32は部分的にしか検出できず、SC-23を含めて小型の土壙とするべきかもしれない。また、共同溝部分DG18、19区で確認したSX-48は、柱間の長さから考えて、4本柱の堅穴式住居跡である可能性がある。

堅穴式住居は、出土遺物と埋土の特徴から、SC-4、5、6、7、8、11、12、27、31、32、33、34、35、38、48、355は弥生時代中期後葉～後期前半のものと考えられる。SC-6、8、27、34、35は円形もしくは不正円形、他は長方形あるいは方形の堅穴式住居跡である。円形のSC-8は、直径6.5mを測る6本柱の中型の円形住居跡であるが(写真15)、他は2本ないしは4本柱の住居跡で、小型のものが多い。

SC-10は、古墳時代前期の土師器が床面から比較的まとまって出土した当該期の堅穴式住居跡である。

SC-13、14、15、16、17、18、21、22、23、24、25、26、28、30、37、40、50は、埋土に砂礫を多く含み、出土遺物から古墳時代後期と考えられる。建物本体部分北西部のDB～DD13～15区には、当該期の堅穴式住居跡が集中し、幾重にも切り合う(写真14)。SC-25、28、30では、住居が廃棄された後に鉄滓や焼土・灰が投げ込まれたような状態で、埋土上部から出土している。いずれも方形もしくは隅丸方形である。SC-28は6本柱、他の多くは4本柱の住居跡と考えられる。

(2) 掘立柱建物

11棟の掘立柱建物を確認できた(SB-42～47、49、51～54)。埋土の特徴から、シルト質土の埋土をもつSB-51～53と、砂礫を多く含む埋土のSB-42～47、49、54に大別できる。SB-51～53の一群は、弥生時代中期後葉～後期初頭の遺物しか出土せず、当該期のものと考え

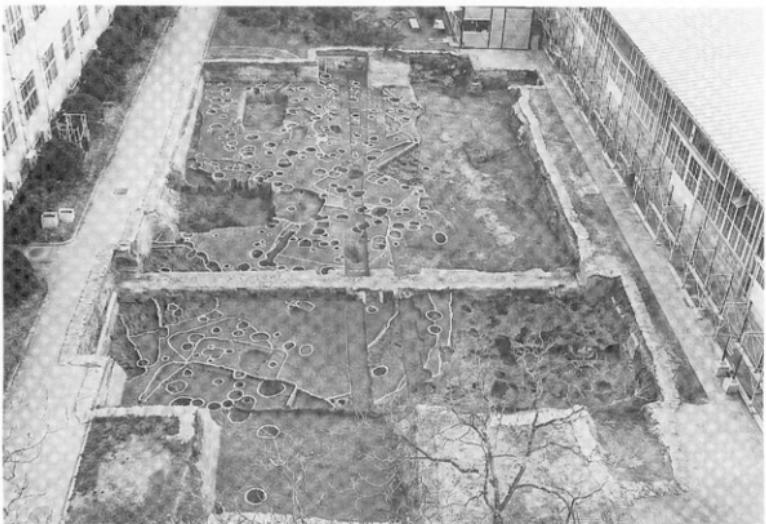


写真13 99506（文京遺跡I3次調査）建物本体部分（CX～DEII～I5区）全景（西から）

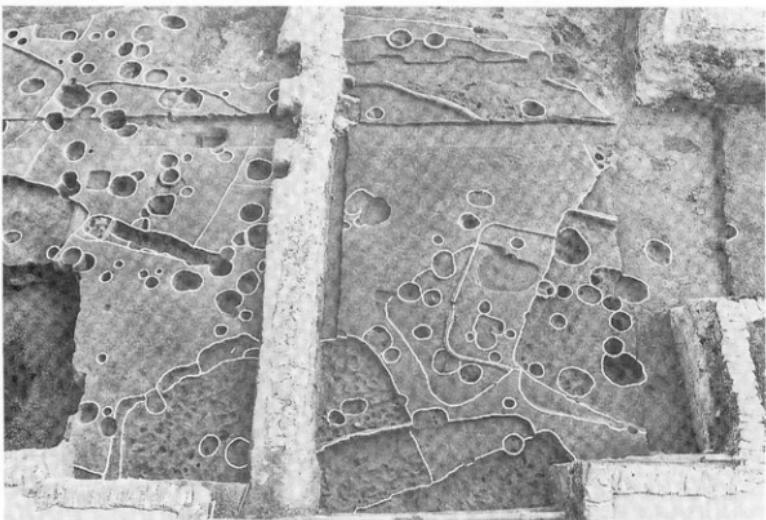


写真14 99506（文京遺跡I3次調査）DB～DD13～I5区の竪穴式住居跡群

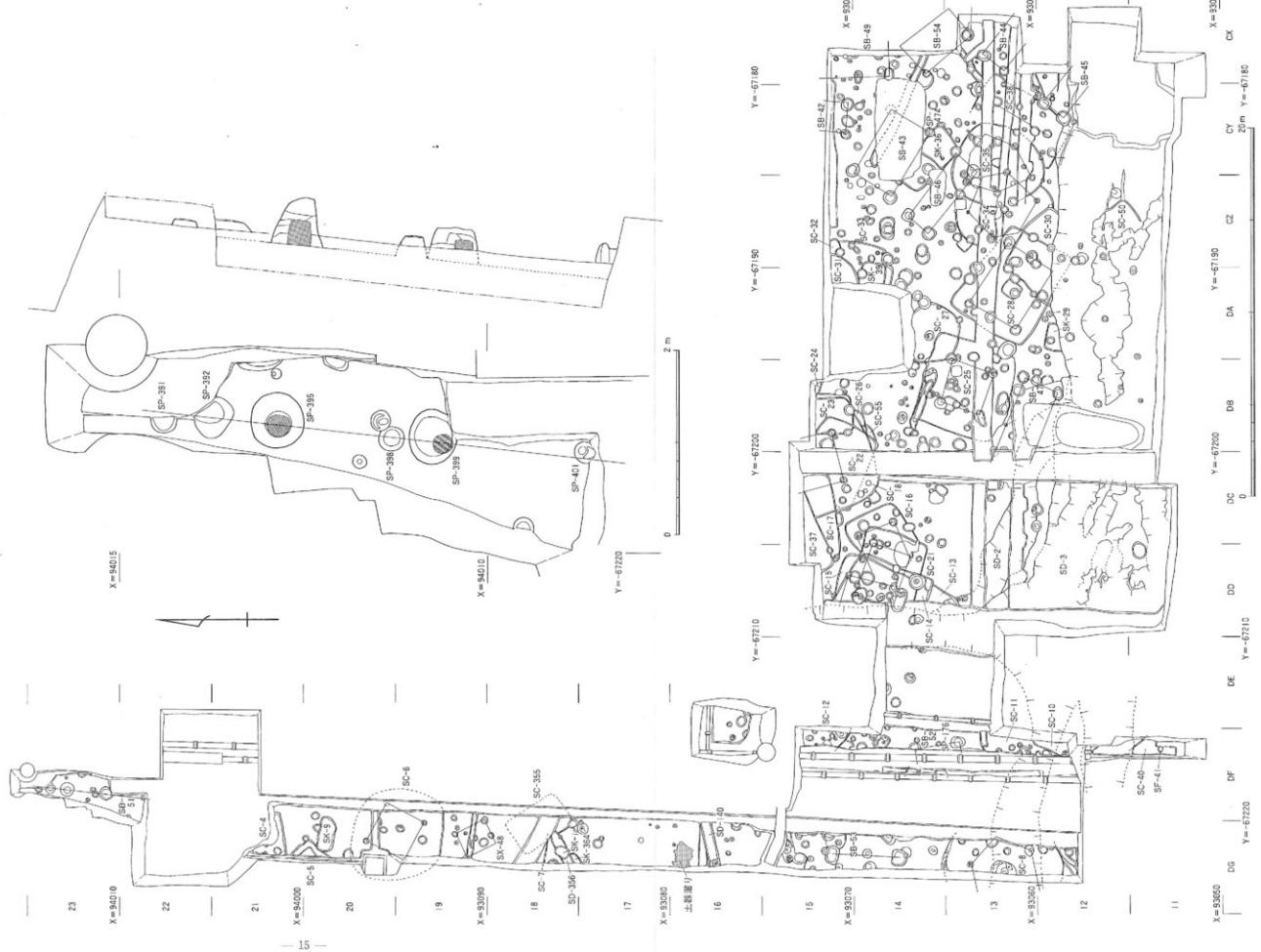


図11

99506 (文常清漸 3次復興案) 清漸配設および (SB-5) 清漸配設測図 (縮尺 1/200, 1/40)

X = 950.0 | CY | CX |

X = 950.0 | 25m |

Y = 590.0 | 25m |

Y = 570.0 | 25m |

Y = 550.0 | 25m |

Y = 530.0 | 25m |

Y = 510.0 | 25m |

Y = 490.0 | 25m |

Y = 470.0 | 25m |

Y = 450.0 | 25m |

Y = 430.0 | 25m |

Y = 410.0 | 25m |

Y = 390.0 | 25m |

Y = 370.0 | 25m |

Y = 350.0 | 25m |

Y = 330.0 | 25m |

Y = 310.0 | 25m |

Y = 290.0 | 25m |

Y = 270.0 | 25m |

Y = 250.0 | 25m |

Y = 230.0 | 25m |

Y = 210.0 | 25m |

Y = 190.0 | 25m |

Y = 170.0 | 25m |

Y = 150.0 | 25m |

Y = 130.0 | 25m |

Y = 110.0 | 25m |

Y = 90.0 | 25m |

Y = 70.0 | 25m |

Y = 50.0 | 25m |

Y = 30.0 | 25m |

Y = 10.0 | 25m |

Y = 0.0 | 25m |

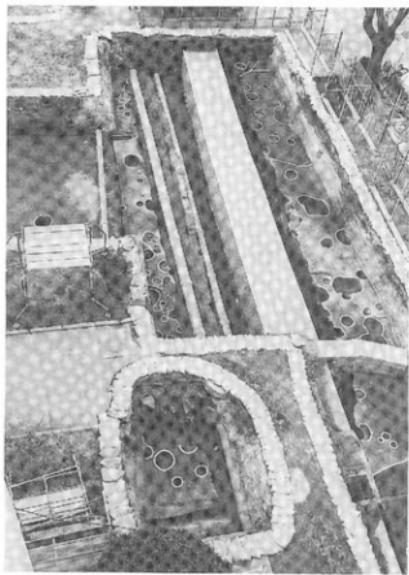


写真15 99506（文京遺跡13次調査）DF・DG12～15区
(北東から)



写真17 99506（文京遺跡13次調査）DBII・I2区
SD-3 土層断面 (北東から)



写真18 99506（文京遺跡13次調査）DG16区
土器溜り (東から)



写真16 99506（文京遺跡13次調査）DF・DG22・23区
(南東から)



写真19 99506（文京遺跡13次調査）DF11区
鋳冶炉 (北から)

られる。ただし、幅の狭い調査区西側の共同溝部分での発見であり、擾乱された部分も広いため、規模は不明である。柱穴掘り方は隅丸方形で、SB-52、53は柱痕跡が直径15~20cmであるのに対し、DF23区で発見されたSB-51は、柱痕跡が25~30cmと比較的大きい。他の竪穴式住居跡や掘立柱建物の柱痕跡の直径が12~17cm、近接する法医学部本館西端の7次調査地点で発見された大型掘立柱建物の柱痕跡が40cm前後であることから、比較的大型の建物を想定できる(図11、写真16)。

SB-42~47、49、54の一群は、SB-49を除き、1ないし2間×1間の比較的小規模な掘立柱建物群である。SB-45、46は、弥生時代中期後葉~後期前半のSC-35、38を切っており、出土遺物と合わせ、古墳時代後期のものと考えられる。南~北方向のSB-42、49と、北西~南東方向のSB-43~47、54に分けられ、とくにSB-44~46は、柱穴掘り方や桁行き・梁行きも共通しており、同時並存する掘立柱建物群と考えられる。

(3) 土壌

大小の土壌があり、その中には弥生時代中期後葉~後期前半の貯蔵穴と考えられるSK-29、36、39が含まれる。SK-29の埋土中からは、焼成時に器表の一部が薄く剥け飛んだ弥生時代中期後葉の壺が出土している。SK-29、39は、やや浅い長方形の土壙で貯蔵穴の可能性が考えられる。

(4) 鋼治炉

共同溝部分から南へのびる管路部分DF11区で、SC-40の上面で鋼治炉を1基検出した(写真19)。炉底付近しか残存していない。SC-40は、時期の確定できる遺物を出土していないが、埋土が黒褐色シルトであることから、弥生時代~古墳時代前期と考えられる。そして、古墳時代後期の竪穴式住居跡の埋土上部から鉄滓が出土していることから、鋼治炉の時期は古墳時代後

期と考える。なお、この鋼治炉は切り取り保存している(写真1)。

(5) 溝

4条の溝を確認した。SD-140は、黒褐色シルトの埋土であることから、弥生時代の遺構。建物本体部分の南半部でSR-2・3が出土した。DC11~15区に既存の電気通信管路を利用して残した土層観察用畔部分では、数条の溝が重複していることが確認できた(写真17)。SR-3の溝底からは、13~14世紀の中国陶磁器、土師器の三足付きの土鍋、壺、小皿、馬と考えられる下顎骨と歯などが出土した。

(6) 土器溜り

共同溝部分のDG17区では、III層を掘り下げ中に、弥生時代中期末の大型壺などの破片が集中する土器溜りを確認した(写真18)。

【調査のまとめ】

今回の調査では、共同溝部分北端のDF23区では、弥生時代中期末~後期初頭の比較的大型の掘立柱建物を構成すると考えられる柱穴を確認できた。大型掘立柱建物群が確認された7次調査地点に近く、それらと関連する建物であろう。また、これまで、文京遺跡では、弥生時代中期後葉~後期前半の竪穴式住居跡、掘立柱建物や貯蔵穴とともに、古墳時代の土師器や須恵器などが単発的に出土しており、古墳時代の集落跡の存在が予想されていた。今回の調査では、その集落の一部を明らかにでき、さらに、竪穴式住居跡や掘立柱建物は、かなりの密度で幾重にも重なって発見され、鋼治炉の出土から鐵器製作が行われていたことが明らかになった。文京遺跡では、弥生時代だけではなく、古墳時代後期にも大規模な集落遺跡が営まれている可能性が強くなってきた。

(田崎)

99507 公共下水道樹取設工事に伴う調査

調査地点 松山市樽味町3丁目5番地

依頼文書 愛大農発第424号(平成7年8月24日)

愛媛大学樽味団地内

調査面積 2m²

【調査にいたる経緯】

調査期間 1995年11月14日

農学部が所在する樽味団地内から公共下水への取り付け部分に下水樹が設置されることとなり、立会調査を実施した。調査地点は、南北に構造物基礎があり、その間をぬって調査するかたちになった(写真20)。

調査種別 立会調査

調査担当 田崎博之

調査補助 宮崎直栄

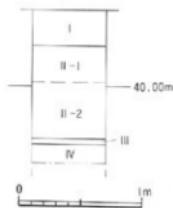


図12 99507調査区東壁土層柱状図（縮尺1/40）



写真20 99507調査地点（南西から）

【調査の記録】

表層の腐植土層であるI層下では、G.L.-0.3mで、樽味団地造成前の旧水田層を確認した。樽味団地全城での基本層序のII層にあたる。II層は比較的厚く堆積し、II-1層とII-2層に分層できる。II-1層は、黄灰色(2.5Y5/1)砂質シルト層で、炭化物・砂・小砾などを多く含む。擾乱を受けたII層部分か。II-2層は、黄灰色(2.5Y5/1)砂質シルト層で、マンガンの沈着層を3枚ほど確認した。その下部には灰黄色細砂の薄いブロックが混じる。団地造成以前の旧水田層である。G.L.-1.05mで、黒褐色(10YR3/2)粘質土層を確認した。層厚は5cmと薄い。樽味団地全城での基本層序のIII層である。須恵器大甕の鋸部細片が1点出土した。III層の下位では、にぼい黄色(2.5Y6/3)粘質土層がG.L.-1.1mで、樽味団地全城での基本層序のIV層があらわされた。



写真21 99507東壁土層

われた。IV層上部には部分的に風化が著しく進んだ花崗岩塊が散見される。出土遺物はない(図12、写真21)。

【調査後の対応】

調査終了後、工事を続行した。

(田崎)

99508 北吉井宿舎公共下水道設置工事に伴う調査

調査地点 松山市桑原2丁目9番8号

愛媛大学北吉井団地内

調査面積 1.6m²

調査期間 1995年11月15日

調査種別 立会調査

調査担当 田崎博之

調査補助 宮崎直栄

依頼文書 愛大企発第77号（平成7年10月11日）

調査番号：99401地点と隣接しているので、層位番号もこれに対応させた。

【調査の記録】

表土層下に宿舎建設に伴う造成以前の水田層であるII層を確認した。暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質土のII-1層と、マンガンが沈着した褐色(10YR4/4)シルト質土に分層できる。II-1層は水田耕作土、II-2層は床土層である。II層の直下では、G.L.約-0.5mで、暗褐色(10YR3/3)粘質土のIV層があらわされた。調査番号：99401地点で検出した遺物を包含する黒褐色シルト質土であるIII層はみられなかった（図13、写真23）。

調査区北西隅では、IV層上面において土壌SK-1の一部を検出した。埋土は、黒色(10YR2/1)粘質シルト

【調査にいたる経緯】

北吉井団地内の下水を公共下水と繋げる工事が行われるため、掘削深度が深い下水樹木本体部分の立会調査を実施した（写真22）。調査地点は、団地入り口東側で、

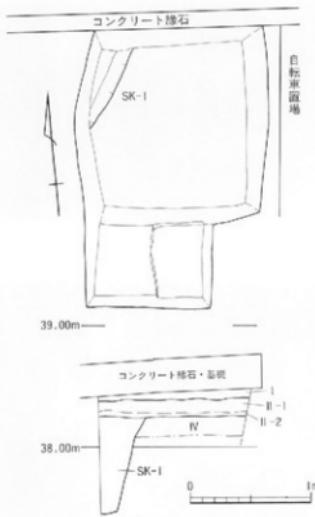


図13 99508調査区平面および土層断面図（縮尺1/40）

で、炭化物を非常に多く含む。土壤の最上面から土師器部小片、下層から須恵器壊身の口縁部破片(図14)が出土した。

〔調査後の対応〕

調査終了後、下水樹本体部分は工事を続行し、管路部分の掘削に際しては慎重工事を依頼した。(田崎)



図14 99508調査区SK-1出土遺物実測図（縮尺1/4）



写真22 99508調査風景



写真23 99508調査区SK-1（南東から）

99509 城北団地(北西)通用門改修工事に伴う調査

調査地点	松山市文京町3番 愛媛大学城北団地内
調査面積	3 m ²
調査期間	1995年11月16日
調査の種別	立会調査
調査担当	田崎博之
調査補助	宮崎直栄
依頼文書	愛大企発第77号（平成7年10月11日）

〔調査にいたる経緯〕

城北団地北西隅の通用門改修に伴う外灯設備改修工

事が行われることとなったが、施設部との協議で、周辺での既往の調査成果から電線管路部分の掘削をG.L.-0.4mにおさめ、埋蔵文化財に影響がおよばないよう設計を変更した。しかし、掘削深度が深い外灯本体が設置される3地点を、西側から1・2・3トレングチとして立会調査を進めた。

〔調査の記録〕

1トレングチ（図15-①、写真24）

城北団地北西隅の通用門近くに位置する。I層の表土層下に、G.L.-0.55~0.6mで、小礫を多く含むオリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質シルト層があらわされた。文



図15 99509-1～3トレンチ土層断面図（縮尺1/4）

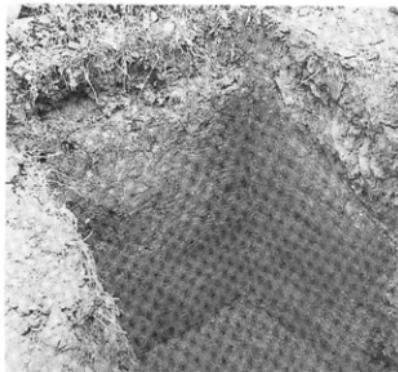


写真24 99509-1トレンチ北壁土層



写真25 99509-2トレンチ西壁土層

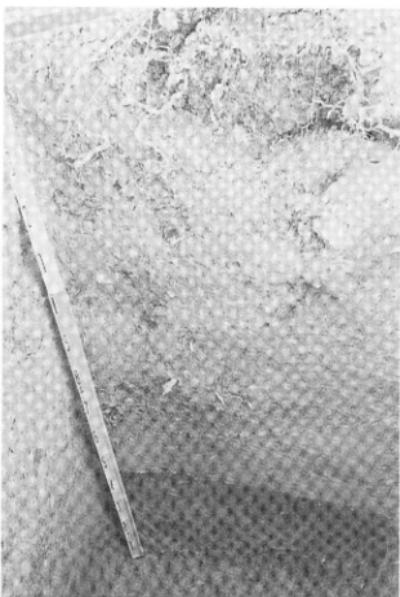


写真26 99509-3トレンチ東壁土層

京遺跡全域における基本層序のII層に対応し、土質・土色は、学生会館周辺の調査番号：99305地点などで確認されたオリーブ褐色の砂質シルトと共に通る。比較的新しい流路が埋没し、その最上面に堆積した土層と考えられる。断面で、II層中位から掘り込まれた遺構を確認した。埋土は黄褐色砂質シルトである。

II層の下位には、厚さ50cmほど灰色砂礫層が堆積している。上部は粗砂・小礫、中部は細砂、下部は粗砂・小石を多く含む。流水の跡を示す薄いレンズ状の細砂・粗砂層が互層となっている。層厚は45cmほどで、その下層には、基本層序のIV層に対応する黄褐色(2.5Y5/4)粘質シルトがみられる。後述する2・3トレンチのIV層の検出面はかなり低く、灰色砂礫層は谷状の低地に流れる自然流路跡と考えられる。また、IV層は、砂層の薄いレンズ状ブロックを多く含み、2・3トレンチのIV-2層に対応する。炭化物が点々と出土するが、他に出土遺物はない。

2 トレンチ (図15-②、写真25)

造成土である表土層のI層を掘り下げるとき、G.L.-0.5~0.55mで、黄褐色砂質シルト層があらわれる。最下部と中位の2ヶ所に帶状にマンガンの沈着する部分がみられ、城北キャンパス造成前の旧水田層で、基本層序II層に対応する。

II層下は、厚さ6cmほどの黒褐色粘質土がみられる。文京遺跡全域での基本層序のIII層であるが、この地点では、下部に向かって漸移的に土色が明るくなる。上部の黒褐色(10YR2/2)粘質土層をIII-1層、下部のIV-1層への漸移的な土層をIII-2層とした。III-2層が一部、落ち込んだ部分がみられるが、これは遺構ではない。遺物は出土していない。

III層下は、文京遺跡全域での基本層序のIV層である褐色～黄褐色の粘質土ないし砂質シルト土層である。

IV-1～IV-3層に分層できる。IV-1層はオリーブ褐色(2.5Y4/4)粘質土層。IV-2層は黄褐色(2.5Y5/4)砂質シルト。砂礫・小石が少量混じり込む。IV-3層はIV-2層に小礫・3~5cmの大いな小石を大量にまじえる。かなりしまった土層である。IV-1層下部は、周辺の文京遺跡9次調査(調査番号：98706)で繩文時代後期の遺物が出土した層準にあたる。そのため精査したが、遺物は出土していない。

3 トレンチ (図15-③、写真26)

3トレンチは、城北団地第2体育館の南西隅付近に位置する。西側壁際の幅10cmほどを除き、擾乱されており、西壁の土層断面の観察を行った。表土部分であるI層下では、他のトレンチと同じく、黄褐色(2.5Y5/1)砂質シルト層があらわれた。最下部および中位の2ヶ所に、厚さ3cm前後の帯状にマンガンが沈着する。造成前の旧水田層である。

II層下には基本層序のIII層である黒褐色(10YR2/2)粘質土がみられる。さらに下位には、基本層序のIV層に対応する褐色～黄褐色系統の土層が堆積する。オリーブ褐色(2.5Y4/4)粘質土層のIV-1層と、黄褐色(2.5Y5/4)砂質シルト層のIV-2層に分層できる。III層からIV-1層への変化は漸移的である。2トレンチと同じく、繩文時代後期の遺物が出土する層準であるIV-1層下部まで精査したが、遺物は出土しなかった。

また、北西部分において、IV層上面でIII層の落ち込み部分を確認した。何らかの遺構である可能性が強いが、調査範囲が狭く確証は得られなかった。また、出土遺物はない。

【調査後の対応】

調査終了後、外灯本体部分は工事を続行し、電線管路部分については慎重工事を依頼した。 (田崎)

99510 埋蔵文化財調査室改修工事に伴う調査

調査地点 松山市道後通り10-13
愛媛大学城北団地構内

調査面積 1m²
調査期間 1996年1月31日
調査の種別 立会調査
調査担当 田崎博之
調査補助 宮崎直栄・橋本麻紀

依頼文書 愛大企発第77号(平成7年10月11日)

【調査にいたる経緯】

埋蔵文化財調査室の改修に伴って下水管が取設されることになった。施設部と協議し、周辺の調査成果から埋蔵文化財に影響を及ぼさないように、管路部分はG.L.-0.4mまでに掘削をとどめるようにしたが、掘削

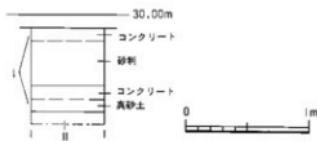


図16 99510調査地点土柱層状図(縮尺1/40)

深度を最低G.L.-0.8m確保しなければならない下水
樹部分は立会調査を実施した。

[調査の記録]

調査地点は、城北団地北東部に位置する。G.L.-0.7

mで灰黄褐色(10YR4/2)粘質土層があらわれた。0.3cm~0.5cm大の小石を少量含み、褐色(7.5YR4/4)砂質土の0.2cm~0.3cm大の粒状ブロックや、0.5cm大の角張った炭化物が極少量混じる。粘性が強くしがある。この土層は、城北団地が造成される以前の水田層で、文京遺跡全域での基本層序のII層にあたる。出土遺物はない。(図16)。

[調査後の対応]

調査は下水樹取設根切り面のG.L.-0.8mにとどめた。そのため、下層の堆積物の状況や遺構の有無は確認できていない。その旨を口頭で施設部に確認して、工事を続行した。

(田崎)

99511 城北団地基幹整備(電線管等)工事に伴う調査

調査地点 松山市文京町3番

愛媛大学城北団地構内

調査面積 34m²

調査期間 1996年2月13日~2月20日

調査の種別 立会調査

調査担当 田崎博之

調査補助 宮崎直栄・橋本麻紀

依頼文書 愛大企発第1号(平成8年1月9日)

[調査にいたる経緯]

大学構内の基幹整備に伴い、城北団地内に電線管路が設けられることになった。施設部と協議し、既往の調査成果を踏まえ、掘削深度がG.L.-0.4mまで及ばない管路や樹部分では、埋蔵文化財に影響がないものと判断し、掘削がG.L.-0.4mをこえる3ヶ所で調査を実施することとなった。統合車庫南側の調査地点を1トレンチ、正門守衛室南東の地点を2トレンチ、法文学部2号館南側の調査地点を3トレンチとした。

[調査の記録]

1トレンチ (図17、18、写真27、28)

1トレンチは、城北団地南東部、正門南側にある統合車庫の南端付近に位置する逆L字形の調査区である。北側の西にのびる部分は破壊・攪乱されており、回廊に沿って南北にのびる部分で、溝1条と土塹2基を確認した。

表土層であるI層(I-1層はアスファルト層、I-2層は砂利層、I-3層は造成土層)下で、文京遺跡全域

での基本層序II層にあたる土層を確認した。II-1層とII-2層に分層できる。II-1層は灰黄色砂質シルト層で、城北団地造成直前の旧水田層である。II-2層は褐色シルト層で、城北団地北東部の大学会館北側で確認される谷状の窪地の最上面に堆積し、水田化された土層と近似する。

トレンチ南端では、II-1層の中位から黄灰色砂質土層がレンズ状に堆積する。上部はややシルト質で、シルト・細砂が互層状態でみられ、流路を埋める堆積物と考え、SR-1とした。後述する2トレンチの流路下部の堆積物や、文京遺跡13次調査区南側の流路を埋める堆積物に近い。

II層およびSR-1下位には、褐色~黒褐色シルトが堆積する。基本層序のIII層にあたる。南に向かって急激に落ち込み、厚さを増す。上部の褐色シルト層のIII-1層、中部の黒褐色シルト層であるIII-2層、下部の黄色味が強くなるシルトのIII-3層に分層できる。土質は、下部ほど締まりが弱く、粒子も細かくなる。III-1層からは、四線文を脚襟に巡らす高环(図18-2)や大形脚台付き鉢(図18-3)、甕の胴部の大形破片などが出土した。III-2層には小砾や小石が混じり、弥生土器の細片が少量出土した。III-3層は小砾や小石が混じり、後述するIV層との漸移層である。

トレンチ北半部では、III層は削平され、基本層序のIV層にあたるにぶい黄褐色砂質シルト土があらわれた。その上面で、溝1条(SD-2)と土塹2基(SK-3、4)を検出した。また、II層とIV層の境界部から、須

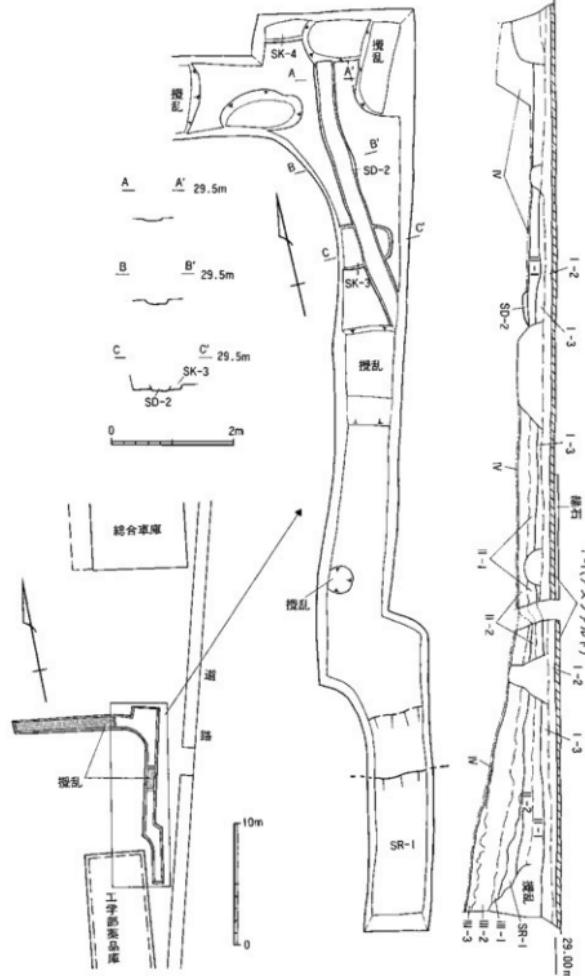


図17 99511-1トレチ位置および造構・土層断面図（縮尺1/400、1/40）

恵器（図18-1）や近世以降の青磁碗の小片が数点出土した。SD-2は、ほぼ南北にのびる幅35cm前後の溝で、検出面（IV層上面）からの深さ5~8cmを測る。埋土は黒褐色シルトで、出土遺物はない。SK-3は、トレチ北半部で、SD-2に切られた平面橢円形の土壌である。検出面（IV層上面）からの深さは7cmを測る。埋土は黒褐色シルトで、遺物は出土しなかった。SK-4

は、トレチ北端に位置する土壌で、東側を擾乱壌に切れられ、南辺のみを確認した。検出面（IV層上面）からの深さは4cmほどと浅い。埋土は黒褐色シルトで、出土遺物はない。

1 トレチの出土遺物で図化できたものは、以下の3点である（図18-1～3）。1は、北半部のII・IV層界から出土した須恵器裏の洞部片である。内面には背



写真27 995II-1トレンチ遠景（北西から）



写真28 995II-1トレンチ南端東壁土層

海波文が残る。2は、南端部のIII-2層最下部から出土した弥生時代中期後葉の高环脚部である。矢羽透かし孔は、6方向に施されるが、貫通するものと一部しか貫通しないものがある。据部の凹線は緩やかな丸みを持つが、凹凸の境にはやや鋭い稜が入る。3は、南端部のIII層から出土。弥生時代中期後葉の大型脚台付鉢の脚部片である。外面には未完通の矢羽透かしが、残存状況から復元して、20方向に施されていたと判断できる。据部には棱が明瞭に入る沈線状の凹線が施される。それに対し、輪部の凹線は凹凸の境が緩く横ナデによ

り施される。

2 トレンチ （図19-左、写真29、30）

城北団地正門の南側にある統合車庫北半東側に位置する。管路部分は表土層のI層（I-1層はアスファルト層、I-2層は砂利層）におさまるが、掘削深度の深い樹部分で、城北団地造成以前の2枚の旧水田層、その下層で自然流路を確認できた。

団地造成以前の旧水田層は、文京遺跡全域における基本層序のII層であり、II-1～3層に分層できる。II-1層は、灰黄色砂質シルト層で、下層のII-2層との

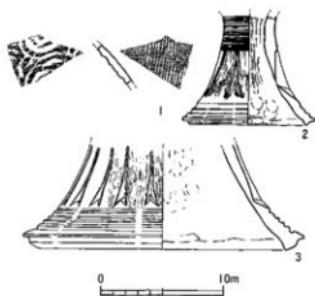


図18 99511-1トレンチ出土遺物実測図（縮尺1/4）

境界には厚さ1cmほどマンガン・鉄の集積部分がある。城北団地が造成される直前の旧水田層である。II-2層は、黒褐色砂質シルト層で、小礫・小石を多く含む。他の地点で見られるIII層と同質のものであるが、砂礫が多く、層順からIII層の2次堆積層と考えた。II-3層は、明褐色砂質シルトの水田層である。

II層の下層には、上部からかなり締まった灰色砂礫層、灰色粗砂層が互層状態で堆積する。下部には、にぶい黄橙色細砂層、褐色細砂がブロック状に混じるにぶい黄橙色細砂層が混じる。自然流路を埋める砂礫層であるが、出土遺物はなく、流路の時期は不明である。

3 トレンチ (図19右、写真31)

3 トレンチは、城北団地南東部の法文学部講義棟から工学部本館を繋ぐ管路部分である。ほとんどの部分で、造成土である表土層I層(I-1層はアスファルト

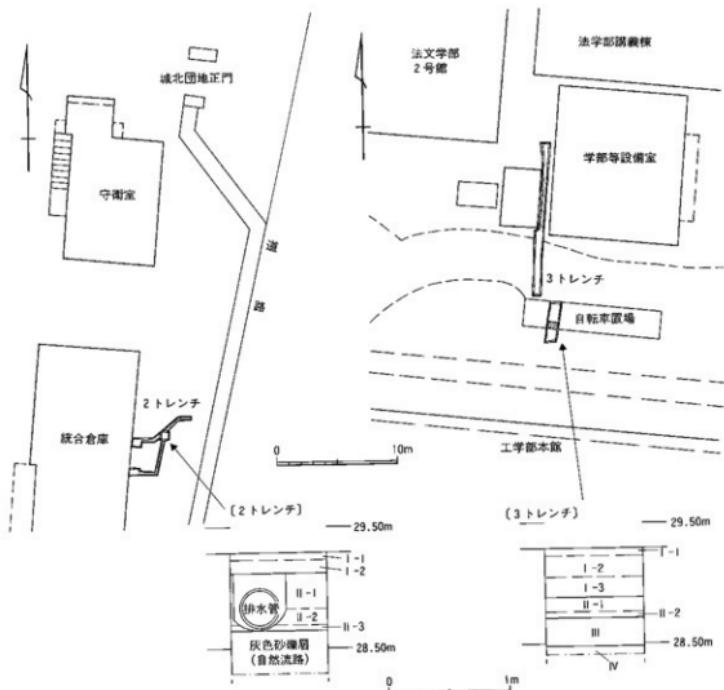


図19 99511-2・3トレンチ位置および土層柱状図（縮尺1/400、1/40）



写真29 99511-2トレンチ全景（北西から）

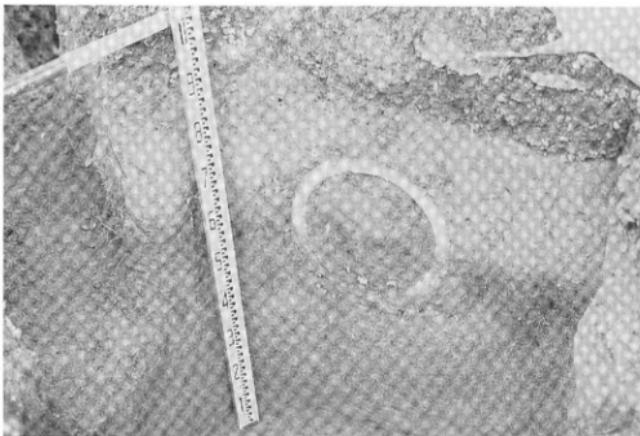


写真30 99511-2トレンチ枠部分土層

層、I-2層は砂利層、I-3層は造成土）までに掘削面がおさまるが、学部等設備室の南側の自転車置き場で、部分的にG.L.-0.55mで、黒褐色(10YR2/2)粘質シルト層が現れた。文京遺跡全域での基本層序のIII層である。厚さ20~25cmを測る。

III層の上位には厚さ15cmほどの灰黄色砂質シルト層があり、基本層序のII層にあたる。上部のII-1層はシルト質の旧耕作土部分、下部のII-2層には鉄・マンガンの集積が著しい床土部分。また、III層下は、黄褐色(2.5Y5/4)砂質シルト層で、基本層序のIV層。遺物は出土していない。

【調査後の対応と問題点】

調査終了後、工事を続行した。

さて、今回の調査を行うきっかけとなった工事は、年度当初の計画にはあがっておらず、年度末に施設部から埋蔵文化財調査室に突然提示された。しかし、埋蔵文化財調査室では、地域共同研究センター建設に伴う文京遺跡13次調査を継続中で、その調査スケジュールを変更して対応することとなった。そのため、延べ6日間もの間、13次調査を中断せざるを得なかった。今後、こうした突然の工事計画の提示と立会調査の実施は、計画的な発掘調査の支障となる。今後施設部には、この点の改善を強く望みたい。（田崎・山村）

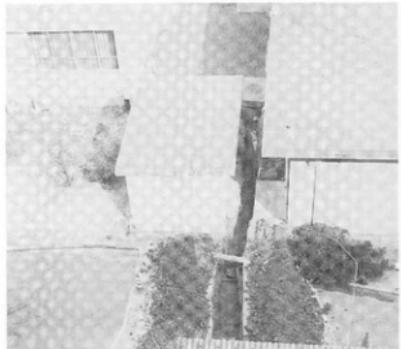


写真31 99511-3トレンチ全景（南から）



写真32 99512-1・2トレンチ（北から）



写真33 99512-1トレンチ土層断面

99512 城北団地事務局ガス管改修工事に伴う調査

調査地点 松山市道後横又10-13

愛媛大学城北団地構内

調査面積 2m²

調査期間 1996年3月11日

調査の種別 立会調査

調査担当 田崎博之

調査補助 宮崎直栄・橋本麻紀

依頼文書

【調査にいたる経緯】

城北団地北東部に所在する事務局建物から南側道路までのびるガス管路の改修が行われることとなった。しかし、周辺では、既往の調査がないこともあり、施

設部と協議し、事務局建物南東側の植栽地点と事務局正門守衛室付近の2地点（写真32）と計3ヶ所で、埋蔵文化財に影響が及ばない掘削深度を確認の上で工事を進めることとした。3ヶ所の調査地点は、南から北側の事務局建物に向かって、1・2・3トレンチとした（図20）。

【調査の記録】

1トレンチ

表土層であるI層下で、厚さ30cmほどの暗灰黄色(2.5Y4/2)紗質シルト層を検出した。厚さ1cmほどのマンガンの沈着層が確認され、1cm大的の炭化物が少量混じる。城北団地造成以前の水田層で、文京遺跡全域における基本層序のII層にあたる。II層下では、G.L.-

1.25mまで掘り下げたが、1～3mmほどの角礫が混じるにぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土層が現れた。基本層序のIV層である。遺物は出土していない。（写真33）。

2 トレンチ

G.L.-0.75mまで掘り下げたが、造成土である表層のI層が続く。遺物は出土していない。

3 トレンチ

G.L.-0.8mまで掘り下げたが、造成土である表層のI層が続く。遺物は出土していない。

【調査後の対応】

調査終了後、下水桿本体部分は工事を続行し、管路部分の掘削に際しては慎重工事を依頼した。（田崎）

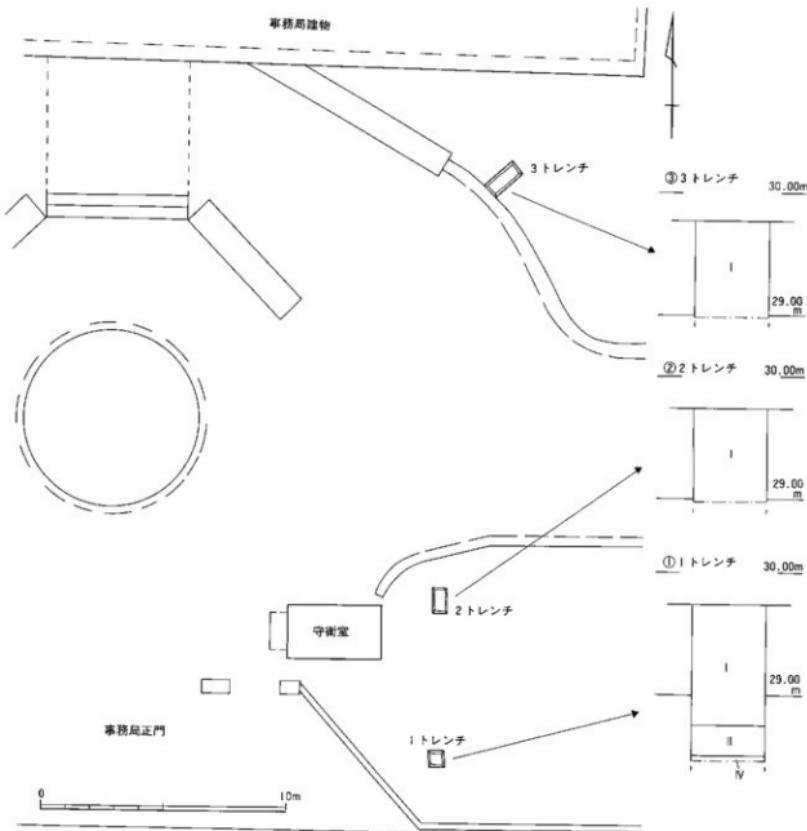


図20 99512-1～3トレンチ位置および土層柱状図（縮尺1/400、1/40）

II 1996年度の調査

1996年度には、城北団地において、工学部校舎新営（II期）工事に伴う全面調査（文京遺跡14次調査）を行うとともに、今後の城北キャンパス再開発に向けた資料提供を目的とする遺跡範囲の確認調査（文京遺跡15次調査）を実施した。この他に、梅味団地で3件の試掘調査と、持田団地で1件の立会調査を実施している

（図21～23）。なお、文京遺跡13次調査が4月上旬まで継続されている。

この年度より、吉田・三吉が着任し、調査体制が2パーティー制になったとはいえ、吉田・三吉班は、予想以上の遺構密集により、文京遺跡14次調査に丸1年を費やすこととなった。それでもようやく工学部校舎

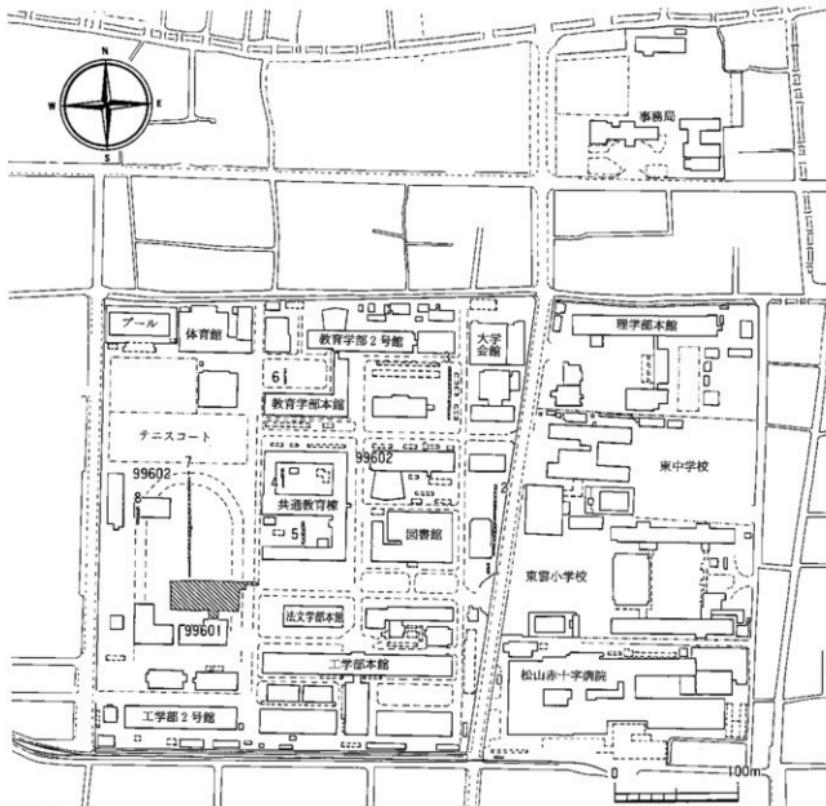


図21 1996年度城北団地調査地点（縮尺1/4,000）

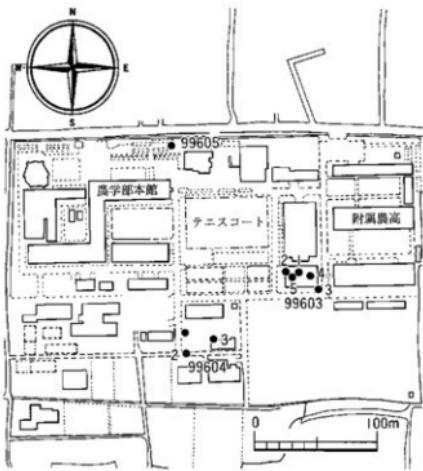


図22 1996年度椿味団地調査地点（縮尺1/4,000）

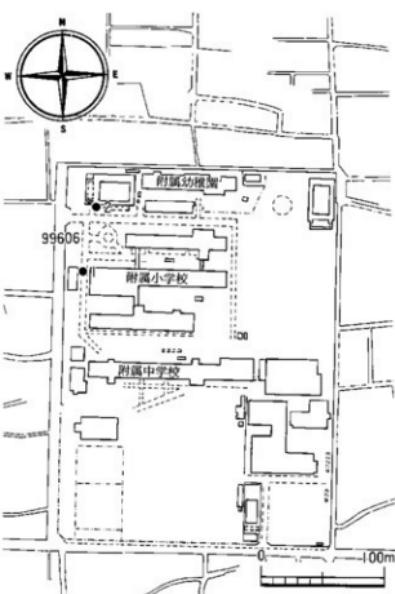


図23 1996年度持田団地調査地点（縮尺1/4,000）

新営工事II期分のみを完了したに過ぎない。残りのIII期分に関しては、発掘計画を変更して、次年度に持ち越さざるを得ない状況となった。

一方で、今後のキャンパス再開発計画に有用なデータ提示を目的とする、遺跡範囲の確認調査を実施することができ、埋蔵文化財の保存に新たな方向性が与えられたことは評価すべきであろう。

ただし皮肉にもその結果、本来整理作業に専念すべき田崎・宮崎班も調査にかなりの日数を費やすことと

なり、加えて上記したような文京遺跡14次調査の状況である。2パーティの調査体制とはいえ、数年来の調査過多の状況はなお来年度に持ち越すこととなっている。

（吉田）

99601 工学部校舎新営（II期）工事に伴う調査 (文京遺跡14次調査)

調査地点 松山市文京町3番

愛媛大学城北団地構内

調査面積 1,349m²

調査期間 1996年5月20日

～1997年3月31日

調査の種別 全面調査

調査担当 吉田広・三吉秀充

依頼文書 愛大工発第367号（平成7年7月5日）

【調査にいたる経緯】

工学部校舎新営I期工事に引き続いで、II期工事、さらにはIII期工事が行われることとなり、これに先だって、II期工事部分とIII期工事部分の一部を含めた範囲の埋蔵文化財調査が行われることになった。面積は1,950m²に及ぶ。

ところが、予想以上の遺構密集により、II期工事全体着手までにこの全体を終了させることができず、II期工事部分についてのみ文京遺跡14次調査として完了

させ、残りのIII期工事部分については、16B次調査として1997年度に調査を継続して行うこととなった。それでも、14次調査区の面積は、1,349m²に達する。

【調査の記録】

12次調査時から、本調査域における遺構の密集が大いに予想されたが、その予想を更に上回って、弥生時代中期後葉～後期中葉と古墳時代後期の堅穴式住居・掘立柱建物・貯蔵穴・土壙・溝などの遺構が、地山面すら確認できないほどの極度の密集状態で検出された（付図1、写真34、35、51～54）。

(1) 練兵場時代の遺跡

文京遺跡は、旧練兵場遺跡とも称されるように、戦前、陸軍の練兵場が所在した場所である。旧グラウンドの真砂土や搅乱土層を取り除くと、まず練兵場時代の演習用塹壕や一部建物の基礎などが現れる（写真36）。特に塹壕は、直線ばかりではなく、まさに陣地を意識した弧状のものもあり、また底が2段に掘られているものなども存在する。そしてこのような塹壕の埋土に混じって、当時の演習用鉄弾の薬莢が1点出土している（写真37）。なお、当時のこのような塹壕掘削によって、文京遺跡発見の端緒が作られたことも付記しておきたい。

(2) 古墳時代の遺跡

これまで文京遺跡と言えば、弥生時代の遺跡として注目されてきたが、今回の14次調査では、古墳時代の集落遺跡としての評価も加えることができるようになった。むしろ14次調査地点では、古墳時代遺構の方が、弥生時代の遺構を凌駕する勢いである。

検出した堅穴式住居跡は68棟にのぼり、すべてが平面方形ないし長方形である。そのうち、多数を平面方形が占め、一辺3～6mとややばらつきがあるものの、一辺4～5mの規模が最も多い。またこれら方形堅穴式住居跡は基本的に4本主柱穴で、一辺の中央壁際に造り付けカマドをもつことが通例である（写真43、44）。また、一部小型の2本主柱穴の堅穴式住居でも、カマドを有することがある。ただし、これらカマドの造り付け位置については、堅穴式住居群自身の方向性との一致も含めて、まだ明確な単位を見出せてはいない。出土遺物の詳細な時期判定を待って再検討しなければならない課題である。なお、カマドについては、造り付けのみではなく、移動式カマドも遺物として出土している。

古墳時代の堅穴式住居跡の典型として、SC-136と

-137を示しておく（写真38～41）。SC-136は一辺約4mの2本主柱穴（東西並）の小型堅穴式住居であり、西辺中央に造り付けカマドがある。このSC-136が、4本主柱穴で一辺6m弱の大型堅穴式住居SC-137を切る。両者とも、床面で十分な柱穴の精査が行えず、床造成土を掘り下げたところ、住居掘削時の斑状の鉄痕が明瞭に検出され、同時に主柱穴の同定も可能になった。なお、SC-137の主柱穴の一つからは、滑石製紡錘車1点が出土し（写真42）、またカマド付近では土玉1点も出土しており、廐屋にあたって何らかの儀礼行為が存在したことが窺える。

これら方形の堅穴式住居に対して、平面長方形のものは、長辺3～4m・短辺2～3mと小型の傾向があり、2本主柱穴になるらしい。主として大型の堅穴式住居を核にした重複する住居群の中にあって、その縁辺部に位置することが多いようである（写真51）。

古墳時代の遺構については、堅穴式住居跡以外にも、掘立柱建物5棟以上、大型の土壙1基、溝3条、柱穴多数を検出している。特に大型土壙は皿状の土壙で、完形の須恵器が多数出土している。また溝は、堅穴式住居群との関係で、集落内区画の意味も想定でき、今後集落の展開を考える材料となろう。

古墳時代の遺物としては、土師器・須恵器はもちろんのこと、滑石製紡錘車や同形の土製紡錘車、土玉、そして刀子などの鉄器がある。そして特に目立つのが鉄滓であり、フイゴ羽口も包含層から出土しており、調査区内あるいは近在で鉄器生産が営まれていたことを窺える。すると、その候補として、13次調査で出土した鍛冶炉の存在は大いに注目できよう。

以上の古墳時代の遺跡は、調査区南西側に集中する傾向が認められ、そのすべてが6世紀代に収まると考えられる。様相の不明な部分が多い古墳時代集落の良好な調査例として、今後遺物の検討などから、詳細な集落変遷状況などを明確にしていきたい。

(3) 弥生時代の遺跡

弥生時代については、堅穴式住居跡46棟を検出している。その平面形は円形のものが多く、6～7本主柱穴で径5m前後であることが多い。ただし、10本主柱穴で径9mを越える大型の住居跡も存在する。そしてこれらはいずれも、中央土壙を有することが通例であり、その埋土から石器剝片やガラス小玉が出土する場合がある。一方、方形ないし長方形、あるいは梢円形の堅穴式住居跡もあるが、これらは長辺でも3～4m

ほどで2本主柱穴である場合が多く、円形住居跡に比べて小型の傾向にある（写真46、47）。

弥生時代の堅穴式住居の1例としてSC71を示しておこう（写真45）。SC71は、北西部に張り出し部をもつ直径約7mの円形堅穴式住居である。中央土壇をもち、7本主柱穴。調査時点では確認できなかったが、整理段階で3軒が切り合つことが判明した。南東部は基盤層か砂質土のため未確認だが、壁際には周溝を巡らしているらしい。中央土壇埋土は、炭化物を大量に含み、焼土が若干混じる。そして、これと一連の炭層が、中央土壇の北側の床面上に東西幅約2mに広がり、この中からガラス小玉2点が出土している。ガラス小玉はこの他に、中央土壇内から1点、住居埋土から1点出土しており、合計4点の出土となる。散発的な出土状況であり、廐屋に伴う祭祀に使用された可能性が考えられる。なおこの住居は、出土土器から、弥生時代中期後葉から後期初頭に位置づけられる。

堅穴式住居跡以外には、多くの土壇、柱穴を検出している。柱穴については、時期決定も容易でなく、また古墳時代の遺構に切られて、掘立柱建物を明確に復元できていない。土壇には、貯藏穴として掘削されたと思われる深く大型で、完形に近い土器を出土する土壇や、小型の不定形の土壇がある（写真49、50）。

弥生時代の遺構については、調査区内でも、東側にやや密集する傾向にある。場合によっては、先行する遺構を埋め立てて新たな住居跡を造成する場合もあり（写真47）、埋め立てられた遺構からは押しつぶされたような状態で大型壺が出土している（写真48）。分銅形土器製品などの特殊遺物の偏在傾向とともに、調査区東方の大型掘立柱建物群との関連が想定できる状況と言えよう。

弥生時代の遺物では、膨大な弥生土器が出土しており、その中には、各種の搬入土器や模倣土器もあり、遠くは吉備地域や南九州地域、そして西南四国地域からの搬入土器も存在する。今後、土器の生産と搬入を考える良好な資料になると考えられる。

土器以外には石器も豊富な出土を見ている。まず目につくのが、結晶片岩製石器であり、石庖丁・柱状石斧・扁平片刃石斧がある。とりわけ、石庖丁は、その素材から製品に到る各段階のものが出土しており、三

波川帯以南の石材を遺跡内に持ち込んだ石庖丁生産を復元できることになる。石材の獲得という点においては、打製石鏽や刃器として出土しているサヌカイト、そして打製石鏽として赤色硅質頁岩もあり、文京遺跡をめぐる流通状況を石器資料はよく語っている。この他に、磨製石鏽・石鍤・砥石・凹石・台石・磨石などがあげられる。

特徴的な土器製品としては紡錘車や土鍤などの生産活動に関わる遺物と、分銅形土器製品やミニチュア土器などの祭祀関連遺物がある。分銅形銅製品は、4点の出土を数えている。

金属器・ガラスについては、鉄器を少なからず出土している。ただし、古墳時代の鉄器との鑑別が難しい。現時点で確実に弥生時代の鉄器と言えるものに、完形の袋状鉄斧1点と大型無茎凹基式鉄鏽1点がある。ガラスについては、ガラス小玉14点を現時点では確認している。

以上の弥生時代の文京遺跡については、出土土器から、その時期を中期後葉から後期初頭にほぼ限定できる。後期中葉の複合口縁壺も出土しているが、少ない。確実にこの時期まで下がる住居跡は、現時点で円形堅穴式住居跡1棟のみである。先に述べた、遺構の密集度が、時間幅の短さによって、更に過密な状況となるのである。ここに文京遺跡の弥生時代集落としての大いな特徴をみることができる。

【調査のまとめ】

今回の調査区は、東側の大型掘立柱建物域と指呼の間にあり、また地形的にも、その大型掘立柱建物域を上方に仰ぐ微高地の尾根線上にあたり、弥生時代集落のまさに中核にあたるものと推測される。このことは、出土した遺構の密集と時間幅によく表れている。今後個々の遺構の具体的な検討を通じて、弥生集落の展開状況の復元的考察に進まなければならまい。加えて、予想しなかった結果として、この地が弥生時代だけでなく、古墳時代後期においても、極めて高い密集度を誇る集落を形成していたことが明らかになった。松山平野における該期の集落研究に大きく貢献できる資料を得たとともに、文京遺跡の新たな一面を発見することができたと評価できよう。

（吉田・三吉）

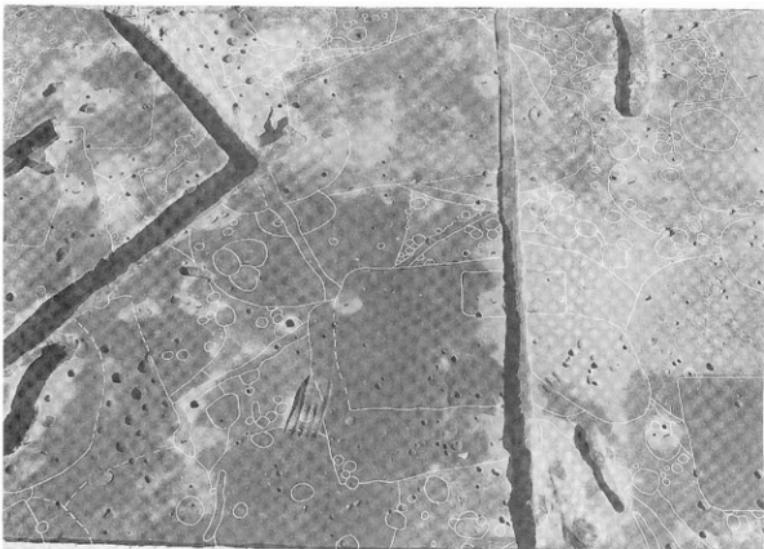


写真34 99601（文京遺跡14次調査）中央部造構検出状況（南から）

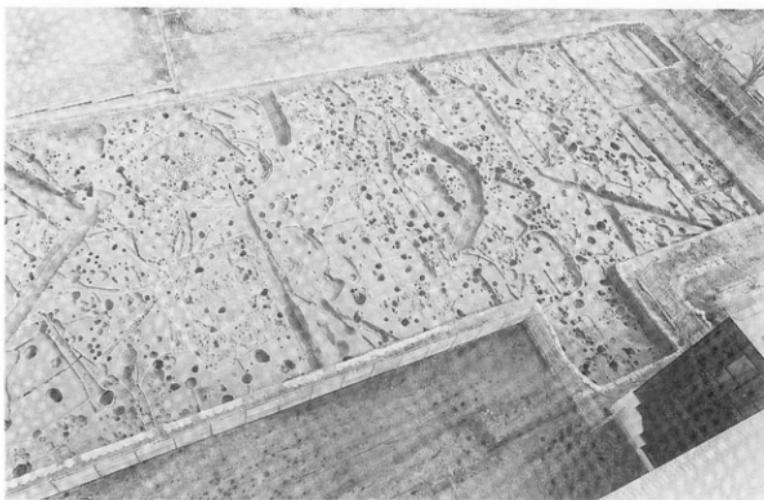


写真35 99601（文京遺跡14次調査）完掘全景（南西から）

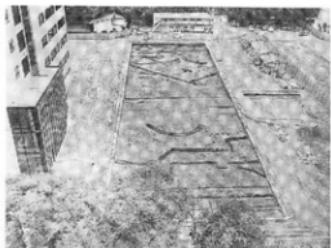


写真36 99601（文京遺跡14次調査）
表土除去後全景（東から）



写真37 99601（文京遺跡14次調査）表土出土菜莢



写真38 99601（文京遺跡14次調査）
SC-I36、I37床面検出状況（北東から）

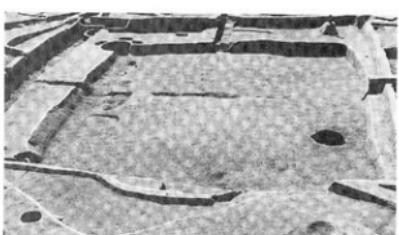


写真39 99601（文京遺跡14次調査）
SC-I36鋪痕検出状況（北東から）

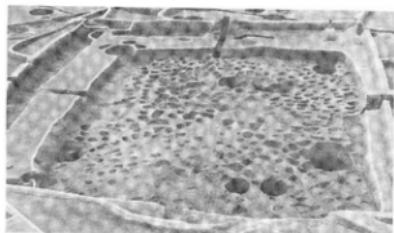


写真41 99601（文京遺跡14次調査）
SC-I36完掘状況（北東から）



写真40 99601（文京遺跡14次調査）
SC-I36北東部勘痕検出状況（北から）

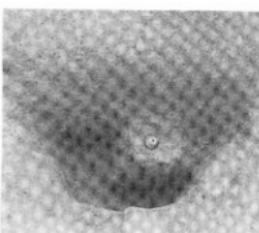


写真42 99601（文京遺跡14次調査）
SC-137P41滑石製鋤車
出土状況（北から）

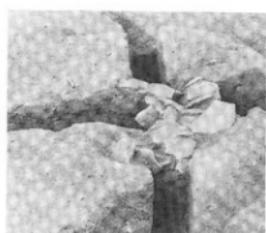


写真43 99601（文京遺跡14次調査）
SC-61カマド土器
出土状況（東から）

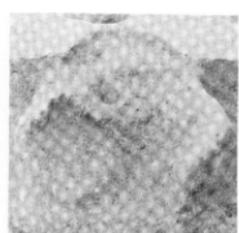


写真44 99601（文京遺跡14次調査）
SC-50カマド検出状況
(西から)

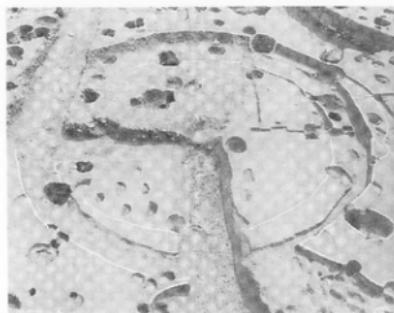


写真45 99601（文京遺跡14次調査）
SC-71・96・97発掘状況（北から）

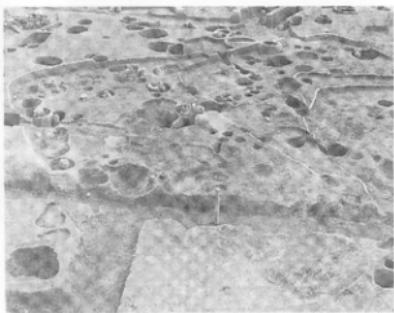


写真46 99601（文京遺跡14次調査）
SC-17、-18発掘状況（東から）

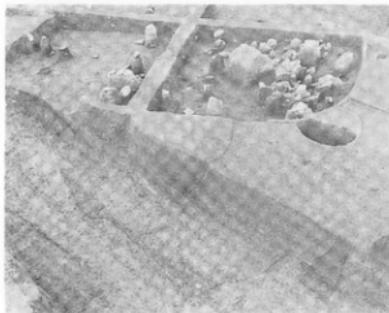


写真47 99601（文京遺跡14次調査）
SC-51造成状況（南西から）

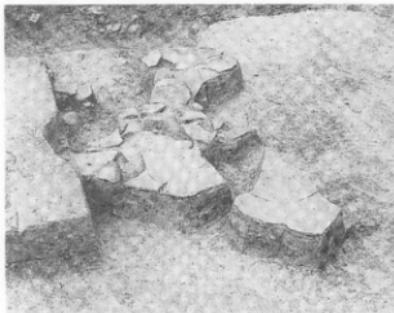


写真48 99601（文京遺跡14次調査）
SC-94土器出土状況（西から）



写真49 99601（文京遺跡14次調査）
SK-67、-68、-69、-70土器出土状況（北から）



写真50 99601（文京遺跡14次調査）
SK-53土器出土状況（北から）

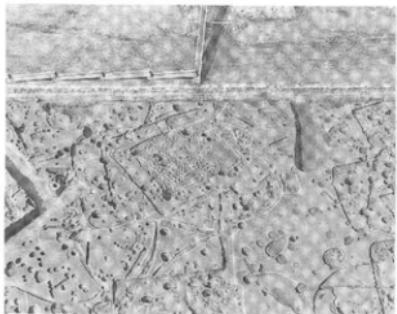


写真51 99601（文京遺跡14次調査）
西側北半部完掘状況（南から）

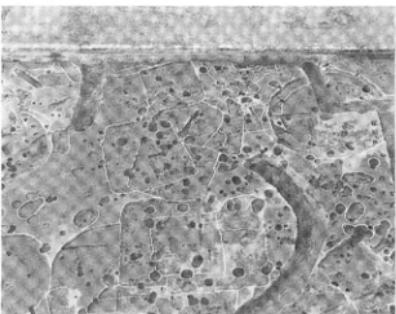


写真52 99601（文京遺跡14次調査）
中央北半部完掘状況（南から）



写真53 99601（文京遺跡14次調査）
西側南半部完掘状況（南から）



写真54 99601（文京遺跡14次調査）
完掘状況（北西から）



写真55 99601（文京遺跡14次調査）
現地説明会風景



写真56 99601（文京遺跡14次調査）
現地説明会風景

99602 1996年度構内遺跡確認調査 (文京遺跡15次調査)

調査地点 松山市文京町3番
愛媛大学城北団地内
調査面積 252.9m²
調査期間 1996年11月13日～12月9日
調査の種別 確認調査
調査担当 田崎博之
調査補助 宮崎直栄・橋本麻紀

【調査にいたる経緯】

現在、再開発が本格化しつつある城北団地内は、文京遺跡として周知化されてきた。これまでの調査では、縄文時代後期の野外炉や遺物が出土し、弥生時代前期や弥生時代中期後葉～後期中葉には大規模な集落が営まれ、古墳時代前期と後期の集落や鍛冶炉、中世の自然流路などが確認されている。とくに、弥生時代中期後葉～後期中葉の大規模な集落は、「松山平野の中心的集落」という位置付けがなされるようになってきた。これに伴って、愛媛大学には、遺跡の保存・活用を望む声が学外から高まってきており、こうした社会的要望に対して、愛媛大学としても対応が迫られる状況にある。

しかし、現実的には、城北団地の面積が狭く、再開発を行う場所は限られている。また、比較的面積が広い調査地点が団地南部に偏っており、団地全域での埋蔵文化財の分布・密度や全体像を掴め切っていないのが現状である。

こうした埋蔵文化財にかかる問題点は、1996年7月10日に開かれた愛媛大学埋蔵文化財調査委員会でも、議題として取り上げられた。そこで、埋蔵文化財調査室長(下條信行・法文学部教授)から、以下の2つの提案がなされた。

①埋蔵文化財調査室は、1996年度事業の一つとして、城北団地全域での遺跡範囲確認調査を実施し、既往の調査成果を含めて、より精度の高い遺跡の範囲・分布状況を把握・報告すること。

②この遺跡の分布状況も勘案しつつ、すでに計画が決定しているものを除き、遺構密度が高い地区などをグリーンゾーンに変更するなど再開発計画の調整で、遺跡の現状保存を図ること。

これに対して、確認調査の実施が認められると同時に、委員長(三木吉治学長)からは、調査成果がまとまり次第、城北団地の長期計画策定の参考とするために、早めに調査成果を報告してもらいたいとの要望が寄せられた。

以上の埋蔵文化財調査委員会の議を経て、1996年度の確認調査の予算が了承され、調査を11月に実施することとなった。また、調査成果は、1997年7月10日の埋蔵文化財調査委員会で報告された。

【調査の記録】

城北団地における既往の発掘調査は、団地南西部に比較的面積の広い調査例が集中している。他は宮繕工事等に伴う試掘・立会調査の形式で、工事の掘削面までしか調査を実施しない小規模で部分的な調査例ばかりである。こうした調査状況を考慮して、調査例が少ない団地東辺と北部を中心として調査区を設定した。加えて、団地南西部に位置する運動場部分は、今後、工学部などの建物建設が予定されているため、運動場部分にも調査区を設定することとした(図33)。調査にあたっては、遺物包含層である基本層序III層を掘り下げ、基本的に遺構内部の調査は行わず、IV層上面で遺構の平面検出にとどめた。遺構番号は各トレンチごとに通し番号で付した。

1トレンチ (図24、写真57)

1・2トレンチは、城北団地東辺の遺跡の分布状況を把握するため、正門付近から北側へ向かって長さ9mの1トレンチ、7m北側に離れて長さ57.5mの2トレンチを設定した。

1・2トレンチでは、現地表下0.75～1.1mで、文京遺跡全域における基本層序のIII層にあたる黒褐色シルト層を確認した。下層のIV層は、2トレンチ中央で緩やかに高まっている。この高まり上にあたる2トレンチ南半～中央部では、IV層上面で溝や土壤・小穴もしくは柱穴が確認できた。また、1トレンチ～2トレンチ南端、2トレンチ北半では、IV層の高まりを挟んでIII層が次第に厚く堆積し、III層を切る東西方向に流れる2条の自然流路(SR-01、02)を検出した。

(I) 自然流路

SR-01は、1トレンチ中央の北寄りで南東から北西

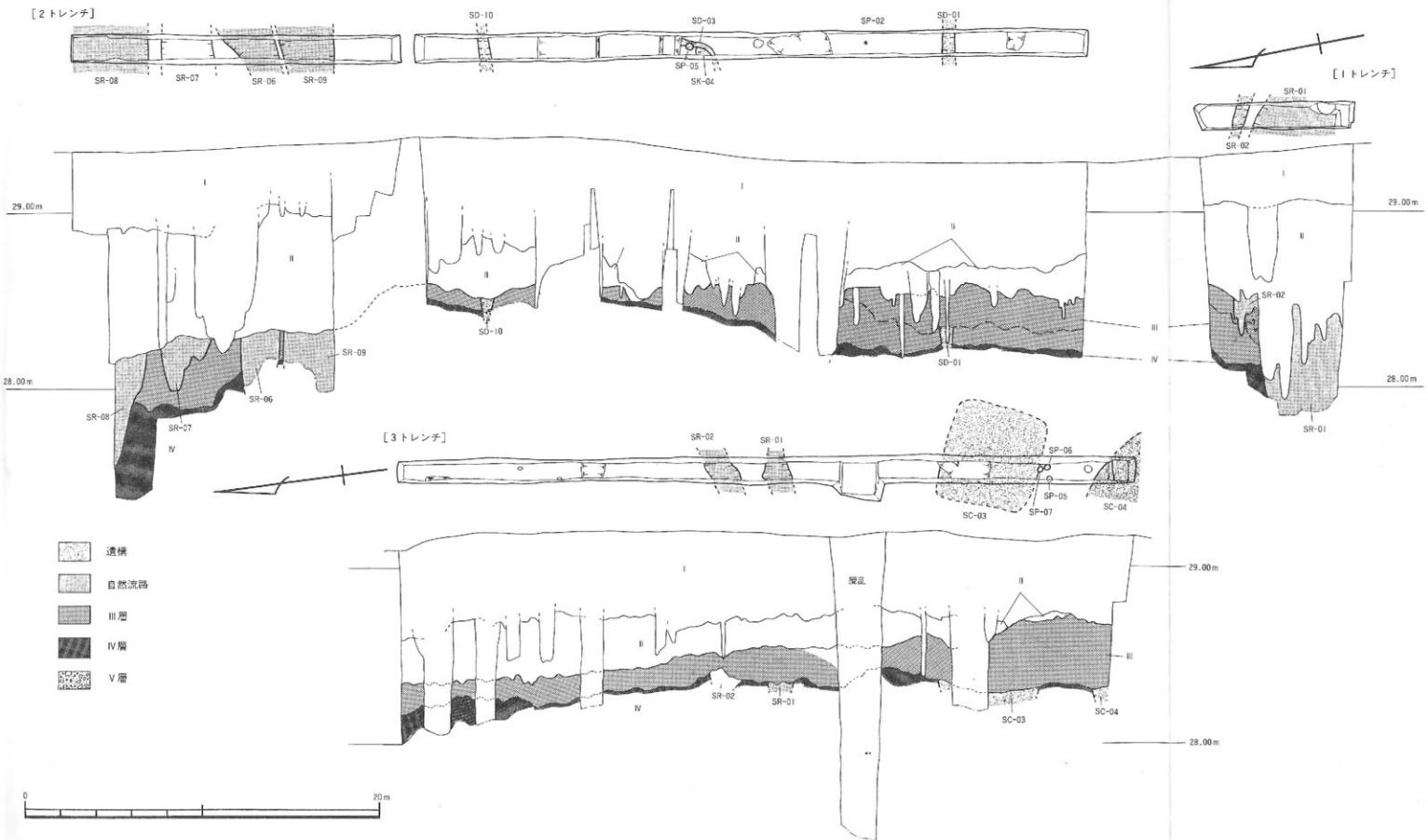


図24 99602(文京遺跡15次調査)-1~3レンチ 造構配置および土層断面図(縮尺1/200、1/20)

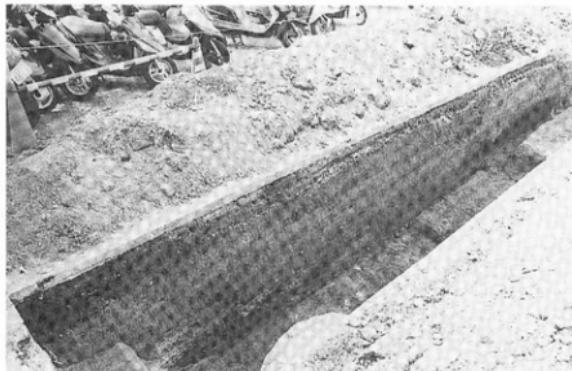


写真57 99602 (文京遺跡15次調査) -1トレンチ西壁土層

へ向かって流れる流路の北側肩部を確認した。最上部には、小石や小礫を多く含む灰黄褐色砂質土や、褐色砂と灰黄褐色砂が混じる砂礫層がみられ、その下層には、にぶい黄褐色シルト、灰黄褐色シルト、小石や礫を多く含む灰黄褐色砂層が互層状態で堆積する。さらに下層は、小指~親指大の小石や礫を多く含むにぶい黄褐色砂層へ変化する。現地表下1.5mまで掘り下げたが、最下部のにぶい黄褐色砂層から、瓦質碗の高台部分の小片が出土した(図25)。

SR-02は、トレンチ北半に位置する。SR-01にはば平

行して南東から北西へ向かってのびる。III層中部で幅60~70cmの溝状の落ち込みを確認できたが、落ち込み内に堆積する灰黄褐色砂層は、南側へもひろがり、SR-01の最上部の堆積物と近似しているので、一連の流路と考えられる。

2 トレンチ (図24、写真58~60)

2 トレンチでは、溝(SD-01、03、10)、土壤(SK-04)、柱穴・小穴(SP-02、05)、自然流路(SR-06~09)を検出した。この中で、トレンチ北半に集中する4条の自然流路は、いずれもIII層上面を切り込んでおり、流路内



写真58 99602 (文京遺跡15次調査) -2トレンチ全景 (南から)



写真59 99602 (文京遺跡15次調査) -2トレンチ南端 (北から)



写真60 99602 (文京遺跡15次調査) -2トレンチ北端 (南から)

の堆積物も近似しており、一連の流路帯と考えられる。

(1) 溝

SD-01は、トレンチ南半部に位置するほぼ東西にのびる溝である。III層の中位で検出した。幅75cmほどを測る。灰褐色粗砂に、III層の黒褐色粘質シルトや、IV層のにぶい黄褐色粘質シルトの小指先大の小塊が多く混じる。トレンチ中央のやや南寄りでは、SD-03を確認した。他の溝や自然流路と異なり、北東から南西へ緩やかに弧を描きながらのびる。埋土も黒褐色粘質シルトである。溝幅は20~40cmで、SP-05に切られ、SK-04を切る。IV層上面で平面形を確認したのみで、出土遺物はない。

(2) 土壙

トレンチ中央のやや南寄りで、SK-04を検出した。SD-03に切られる。トレンチ西壁近くで、土壙の角にある部分を確認した。埋土は黒褐色粘質シルトである。IV層の上面で平面形を確認したのみで、遺物は出土していない。

(3) 柱穴・小穴

SP-02は、2トレンチ南半部に位置する。直径16~17

cmの黒褐色粘質シルトを埋土とする小穴である。SP-05は、2トレンチ中央のやや南寄りに位置し、SD-03を切る。直径37~40cmの歪んだ不整円形の小穴である。

(4) 自然流路

SR-06は、トレンチ南半に位置する。流路内には、親指先大～拳大の小円礫とオリーブ褐色砂礫が堆積する。III層部分の厚さに対応する深さまで掘り下げたが、出土遺物はない。

SR-07は、トレンチ北端近くに位置する。流路幅は2.8m前後を測る。比較的浅い流路で、III層部分を掘り下げる過程で、流路の底面を確認できた。埋土は灰黄色の粗砂層で、最上層には親指先大の小石が集積し、下底部には黄褐色細砂層が縦状にみられる。遺物は出土していない。

SR-08は、トレンチ北端部で確認した自然流路である。流路内には、オリーブ褐色砂礫層を堆積するが、厚さ2~5cmの小円礫層が互層状態でみられる。また、上層には、暗灰黄色粗砂、オリーブ褐色細砂、暗灰黄色粗砂層が縦状に堆積する。遺物は出土しなかった。

SR-09は、トレンチ北半部、SR-06の南側に位置す

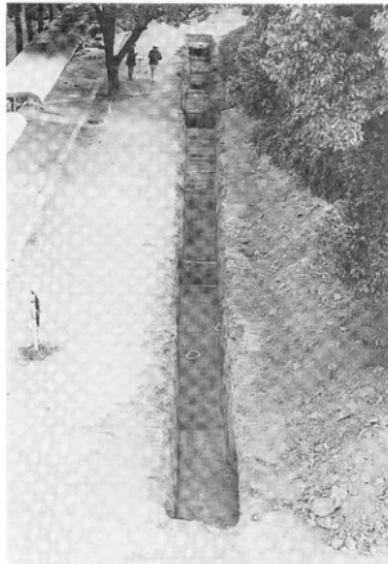


写真61 99602（文京遺跡15次調査）-3トレンチ
全景（北から）

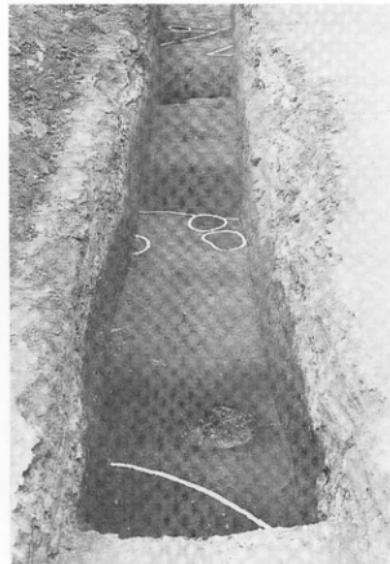


写真62 99602（文京遺跡15次調査）-3トレンチ
南端（南から）

る。流路内には、オリーブ褐色細砂層、暗灰黄色粗砂層、オリーブ褐色砂礫層、暗灰黄色砾層が互層状態で堆積する。III層部分の厚さに対応する深さまで掘り下げたが、遺物は出土していない。

3 レンチ (図24、写真61、62)

城北団地の東北部では、既往の調査は試掘・立会形式の小規模な調査がほとんどで、遺構の分布など明確でない。そこで、比較的調査範囲を広くとれる教育学部4号館東側に、南北長40mの調査レンチを設定した。

城北団地全域の基本層序に対応する表土にあたる造成土のI層、造成以前の水田層のII層、弥生土器もしくは土師器の細片がごく少量出土する暗褐色のIII層、にぶい黄褐色砂質シルトであるIV層を上位から確認した。III・IV層は、他の地点と比べて、砂礫が多く混じり砂質が強い。

また、III層は、北側に向かって次第に落ち込む。下位のIV層も同様で、レンチ中央に傾斜の変換点がある。こうしたIII・IV層が比較的高くなつたレンチ南半部では、竪穴式住居跡(SC-03、04)や柱穴(SP-05～07)、高まりの肩部にあたるレンチ中央部分では自然流路(SR-01、02)が確認できた。これらの遺構は、いずれもIV層上面で検出した。

(1) 竪穴式住居跡

SC-03は、レンチ南半部のIV層上面で検出した一辺約5.5m前後の方形の竪穴式住居跡である。埋土は暗褐色粘質シルトである。北側の擾乱壙の壁面でIV層上面から5～7cmほど残存していることが観察できた。しかし、平面形を確認しただけで、遺構内部は調査しておらず、遺物出土もなく、時期を確定できない。SC-04は、レンチ南端のIV層上面で確認した。埋土は暗褐色粘質シルトで、埋土上面から弥生土器片が出土した。平面の輪郭線は緩やかに弧状をなす。円形の竪穴式住居跡と考えられる。

(2) 柱穴・小穴

SP-05は、SC-03南側で、レンチ西壁に沿った位置にある。直径30cmほどで、埋土は暗褐色粘質シルトである。SP-06は、SC-03南側に近接した位置にある。直径30～35cmの暗褐色粘質シルトを埋土にもつ。SP-07は、SC-03を切る直25×30cmの楕円形の柱穴である。埋土は暗褐色粘質シルトである。

(3) 自然流路

SR-01は、III・IV層の高まりが低くなつていくレン

チ中央部に位置する。北東から南西へ向かって流れ、幅は1.2～1.4mを測る。流路内には、小指先～拳大の円礫が多く混じる砂礫が堆積している。遺物は出土していない。SR-02は、SR-01の北側に北東から南西へ向かってほぼ平行して流れる流路である。幅1.5m前後で、小指先～拳大の円礫の多い砂礫が堆積している。平面の輪郭線を確認したのみで、遺物は出土していない。

4 レンチ (図26上、写真63、64)

4・5レンチは、これまで調査が行われていない共通教育棟(旧教養部本館)部分の遺構の有無や分布状態を把握するために、南北2ヶ所の中庭に設定した。調査順に、北側を4レンチ、南側を5レンチとした。

4レンチは、ほぼ南北方向に15mで設定した。I層が造成される以前の旧水田層であるII層の直下には、暗灰黄色ないし灰黄褐色の砂質シルト層が堆積し、その下位には、基本層序のIII・IV層ではなく、砂礫層のV層があらわれた。とりわけ、II層直下の砂質シルト層は、上部の砂礫が比較的多く混じる暗灰黄色土層と、下部の砂礫が少ない灰黄褐色土層に細分される。上部の暗灰黄色土層は、1レンチや2レンチ北端の自然流路の上面に堆積するII'-1層と土質・土色が近似し、これらに対応する土層と考えられる。また、下部の灰黄褐色土層には、薄く綾状に鉄・マンガンの沈着層が綾状に発達しており、水田層と考えた。後述する7レンチ北半でみられるII'-1層下部の水田層と対応する土層で、II'-2層とした。

こうした4レンチの堆積状況は、後述する7レンチの北半部分で確認された谷状地形と対応するものと考えられる。また、いずれの層位でも、遺構・遺物は出土しなかつた。

5 レンチ (図26下、図27、写真65、66)

共通教育棟(旧教養部本館)の南側中庭で、ほぼ南北方向に長さ18.5mの5レンチを設定した。レンチの中央部分は、ゴミ穴で搅乱されている。造成以前の旧水田層であるII層の直下には、弥生時代～古墳時代の遺物を包含するIII層はみられず、レンチ中央～南半部分では、SR-06とした礫や小石が混じる砂質土層が、北半部分では基本層序のIV層にあたる黄褐色シルト層があらわれた。このSR-06を切り込む溝(SK-01、07)、土壤(SK-05、08)、小穴(SP-04)が検出された。また、SR-06下ではSR-02、03を確認した。

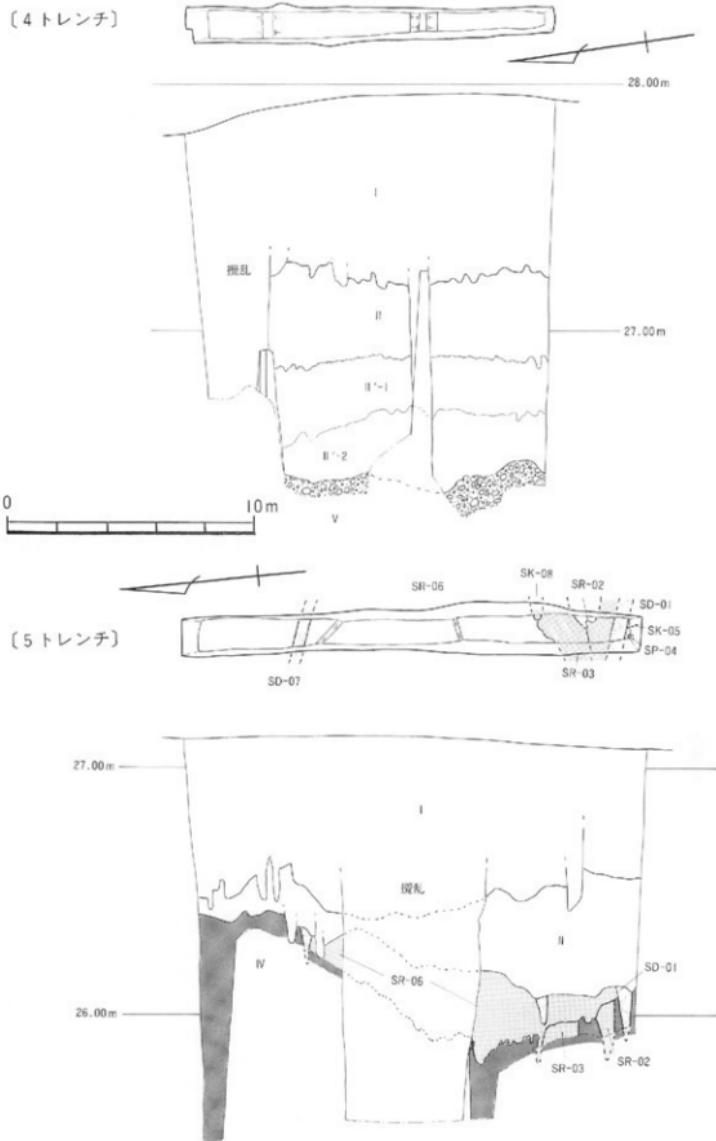


図26 99602（文京遺跡15次調査）-4・5トレンチ遺構配置および土層断面図（縮尺1/200、1/20）



写真63 99602（文京遺跡15次調査）-4トレンチ
全景（南から）



写真65 99602（文京遺跡15次調査）-5トレンチ
全景（東から）



写真64 99602（文京遺跡15次調査）-4トレンチ
東壁土層

(1) 溝

SD-01は、トレンチ南端に位置する。後述のSD-07とはほぼ平行して南東から北西へのびる溝である。溝幅55~60cmを測る。埋土は、直径2~3cm大の円礫が多く混じる灰黄褐色砂質土である。細片化した土器が多く出土した。SD-07は、トレンチ北半部に位置する。SD-01と同じく南東から北西へ向かってのびる。溝幅は35~40cmを測る。埋土はにぶい黄褐色砂質シルトである。遺物は出土していない。

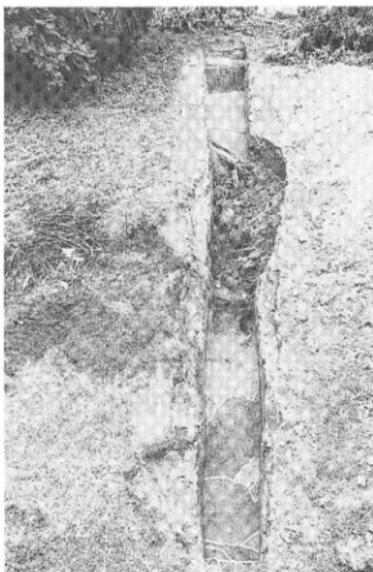


写真66 99602（文京遺跡15次調査）-5トレンチ
出土遺構（南から）

(2) 土壙

SK-05は、トレンチ南端で、SD-01に切られた土壙である。埋土は黒褐色粘質シルトで、直径5cmほどの褐色粘質シルトの丸い塊が軒々と混じる。SK-08は、トレンチ南半部で、東壁の土層を精査中に確認した土壙で

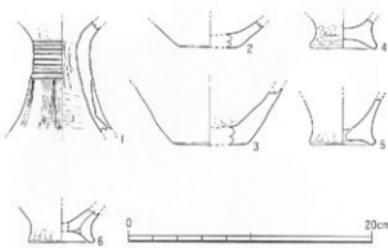


図27 99602（文京遺跡15次調査）-5トレンチ出土遺物実測図（縮尺1/4）

ある。SR-06を切る。暗褐色粘質シルトを埋土とする。埋土中からは、弥生土器もしくは土器部の細片が出土した。

（3）柱穴・小穴

トレンチ南端でSP-04を検出した。SK-05を切る。長径30cm、短径20cmほどの不整梢円形の小穴で、粘質の強い暗褐色粘質シルトを埋土とする。小さな炭化物粒が含まれている。

（4）自然流路

SR-02は、トレンチ南端付近に位置し、SR-06の直下で検出した。SR-03を切り、埋土は暗褐色砂質シルトである。流路とするには、埋土には砂礫が少なく、平面形も不整形である。後述するSR-03に伴う何らかの水利施設である可能性を残す。SR-03は、トレンチ南端付近に位置する。SR-06の直下、SR-02の南側で検出した。流路幅は1.2~1.5mを測る。埋土は暗褐色砂質シルトで、砂礫があまり混じらない。埋土から考えると、自然流路とするには無理があるかもしれない。両肩部が浸食されたように凹凸が著しいので、一応、自然流路として報告しておく。調査では、SR-02、03から、弥生時代中期後葉の壺や甕の底部片が出土した（図27-2~5）。

SR-06は、トレンチ中央～南半部分のはほぼ全域に、直径1~3cmの小石が多く混じるにぶい黄褐色砂質土、暗褐色粘質土、灰黃褐色砂質土が、互層状態でみられる堆積層である。流路は、南東から北西へ向かってのび、南肩はSD-01、北肩はSD-07と重なり、幅は12.5~13mを測る。炭化物や土器片が点々と出土し、とくに、底面からは弥生時代中期後葉の壺の底部や高环が出土した（図27-1、6）。

6 トレンチ（図28、写真67、68）

城北団地北西部の教育学部本館北側に設定した南北11.5mの調査トレンチである。4トレンチと後述する7トレンチ北半部分で確認した谷状地形の南北幅を把握するために、4・5トレンチの北側の延長線上に設定した。

団地全域の基本層序であるI~IV層を上位から確認できた。III層は黒褐色粘質シルトで、トレンチ南半では粘性が強いが、北端近くになると砂礫が混じり始める。また、IV層はにぶい黄褐色シルト層で、III層から漸移的に変化する。IV層上面で、2基の柱穴または小穴（SP-01、02）を検出した。

（1）柱穴・小穴

SP-01は、トレンチ南半で検出した直径15cmほどの小穴である。埋土は、III層と共通する黒褐色粘質シルトである。SP-02は、トレンチ南端に位置する。埋土は、黒褐色粘質シルトで、黄褐色砂質シルトの親指先大の

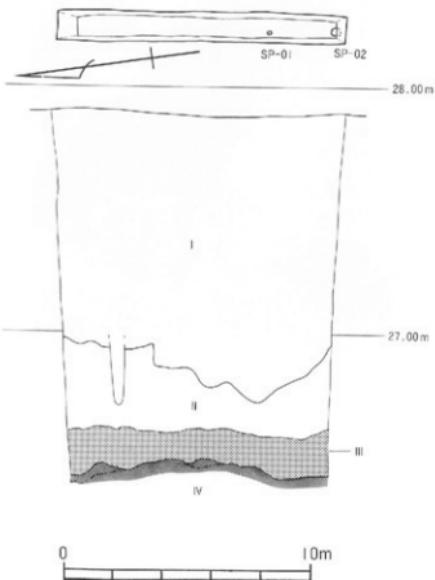


図28 99602（文京遺跡15次調査）-6トレンチ
遺構配置および土層断面図
(縮尺1/200、1/20)

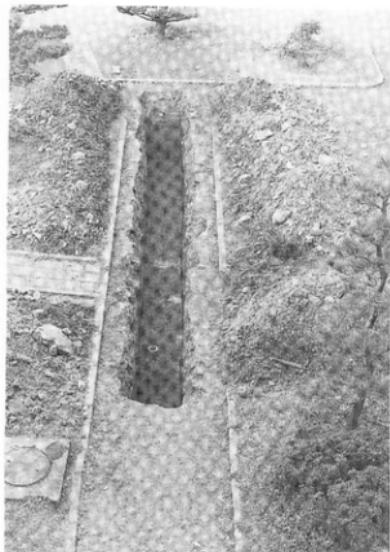


写真67 99602（文京遺跡15次調査）-6トレンチ
全景（北から）

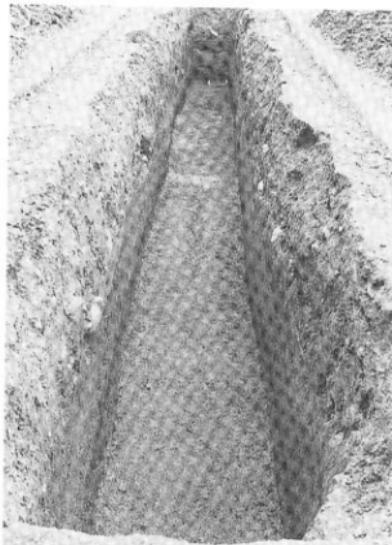


写真68 99602（文京遺跡15次調査）-6トレンチ
出土遺構（南から）

丸い小塊が軒々と混じる。短径32cm、長径35cm以上の梢円形の平面形をもつ。調査範囲が狭いために確定できないが、一応、柱穴と考えておく。

7トレンチ（図29～31、写真69、70）

7・8トレンチは、今後、再開発の中心的範囲となる団地南西部の運動場部分に設定した。運動場南部に位置する文京遺跡12・14次調査区（調査番号：99410・99601）では、既設の散水管路を利用して、運動場のほぼ中央で、南北方向の土層断面を観察した。本次調査でも、散水管路の延長線上に、南北90mの7トレンチを設定した。

基本層序のV層がトレンチ中央南より高まりをつくり、トレンチ南半ではIV層がV層部分の窪地部分に堆積している。また、弥生土器と須恵器が出土するIII層は、トレンチ南半～中央付近までしかみられない。トレンチ北半では、V層が急激に落ち込んで、谷状の地形をつくる。この谷状の地形は、前述した4トレンチからのびてきたもので、他の調査地点でIV層の下部を構成する黄褐色砂質土や砂質シルト層が薄く堆積し、さらにII'層が重なる。

II'層は、オリーブ褐色砂質シルト層で、上部のII'-1層には砂疊が多く混じる。下部のII'-2層との層界部分は、小さな凹凸にとんだ不整合面をなす。この凹凸には、水路や吐群と考えられる部分があり、また、II'-2層下部には鉄・マンガンの沈着層が鰯状に認められ、II'-2層は水田層、II'-1層はこれを覆う流水による堆積物と考えられる。なお、調査の最終段階には、植物珪酸体分析を行い、水田層であることを追認するために、土壤サンプルを採集している。

II'-2層の水田が営まれた時期は、II層とII'-1層の層界部分から出土した中世と考えられる土師器壺の細片（図30-1）、II'-1層から出土した土師器の細片、II'-2層の土師器や須恵器の壺もしくは高壺の細片から、古墳時代後期～中世と考えられる。

遺構は、トレンチ南半のV層が高まった部分で、堅穴式住居跡5棟（SC-13、15、16、21、26）、溝2条（SD-23、25）、土壤4基（SK-09、20、24、28）、柱穴・小穴15基（SP-01～08、10～12、14、17～19、22）、自然流路1条（SR-27）を検出した。擾乱部分が多いが、遺構の分布密度は高く、7トレンチの南側の文京遺跡12次調査

区北半部分や14次調査区に匹敵する。また、遺構検出のためIII層を掘り下げ中に、弥生時代中期後葉～後期前葉の壺・甕・高坏の破片（図30-4～7、11）、古墳時代後期の須恵器坏（図30-12）などが出土した。

（1）竪穴式住居跡

SC-13は、トレントの中央南よりに位置する。SC-26とSP-12に切られ、輪郭線の一部しか確認できなかつた。わずかに弧状となっているため、円形の竪穴式住居跡と考えた。砂礫が多く混じる暗褐色砂質土が埋土である。外面がナデ調整、内面をケズリ調整した弥生土器の細片が出土した。

SC-15は、方形の竪穴式住居跡の角部分にあたると考えた。埋土は黒褐色砂質土である。遺物は出土していない。

SC-16は、トレント中央に位置する。攢乱部分で大部分が失われている。外郭線がわずかに弧状となっており、円形の竪穴式住居跡である可能性が強い。攢乱部分の壁を観察すると、検出面のV層上面から10cmほどが残存している。埋土は暗褐色砂質土で、砂礫を多く含む。検出面で、外面をナデ調整し内面をケズリ調整する弥生土器の甕胴部片が出土した。

SC-21は、トレントの中央北よりで検出した方形の竪穴式住居跡である。V層上面で確認した。埋土は、暗褐色砂質シルトに、にぶい黄褐色砂質シルトの小塊が混じる。弥生時代中期後葉の甕口縁部片（図30-2）と、上面に擦り痕が残る扁平な花崗岩の台石（図31）が検出面で出土した。

SC-26は、トレントの中央南よりに位置する。V層上面で検出した。一辺7mほどの方形の竪穴式住居跡である。埋土は砂礫を含む黒褐色砂質土である。遺構直上のIII層部分から、弥生時代中期後葉～後期前葉の底部片（図30-8）、検出面から、外面にハケメ調整し内面をナデ調整した甕胴部片、内外面をミガキ調整した壺の肩部片、花崗岩の角礫が出土した。

（2）溝

SD-23は、トレントの中央北より、V層が北に向かって急激に落ち込む際に位置する。V層上面で検出し、北東から南西へ向かってのび、幅は105～110cmを測る。埋土は暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトが混ざる。親指大の炭化物片や弥生土器ないし土師器の細片が2点出土した。

トレントの中央南よりで、ほぼ東西にのびるSD-25を確認した。両端を攢乱壙で切られているため、西壁

際を部分的に掘り下げて、溝幅を確認し、2.1m前後を測る。埋土は、暗褐色砂質シルトで、砂礫が多く混じる。遺構上部のIII層部分・遺構検出面・埋土中から、弥生時代中期後葉～後期初頭の壺（図30-3）、底部片（図30-9、10）が出土した。

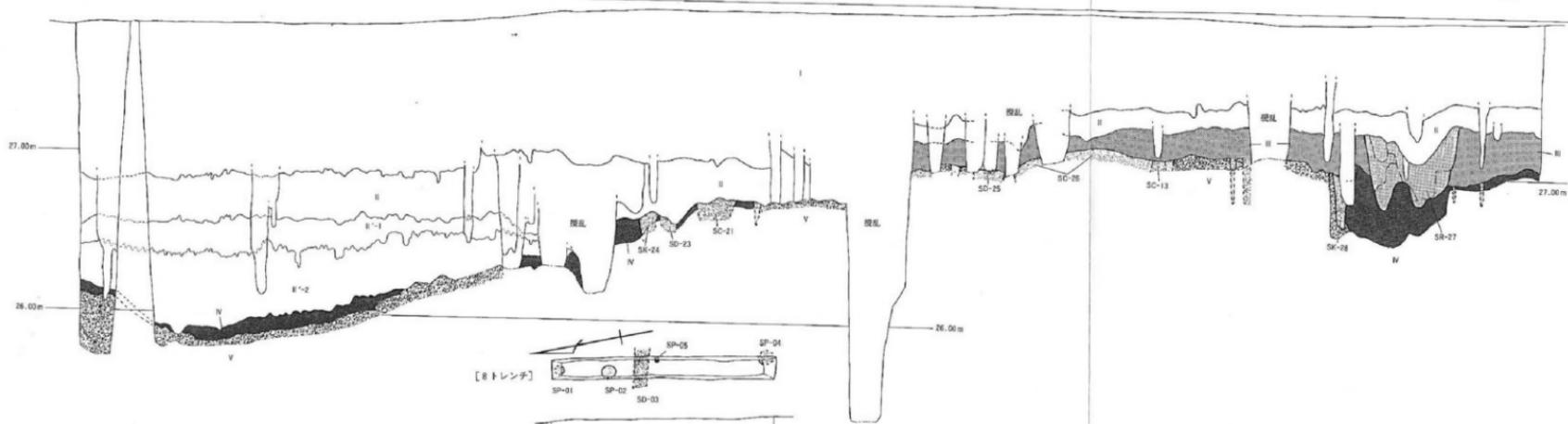
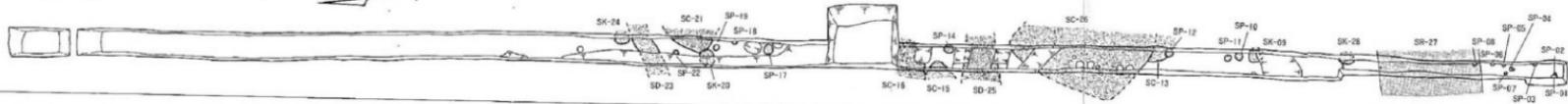
（3）土壤

SK-09は、トレント南半の東壁際に位置し、南側を擾乱壙に切られる。砂礫を多く含む暗褐色砂質土を埋土とする。弥生土器の甕胴部片が出土した。SK-20は、IV層の黄灰色細砂層の上面で検出した不整構円形の土壤である。短径85cm前後。埋土は暗褐色砂質シルトである。直径5cm大の炭化物片が出土した。トレントの中央北よりSD-23の北側にSK-24を確認した。隅丸方形の土壤で、一辺85cm前後を測る。埋土は黒褐色砂質シルトである。埋土上部からは、外面を擦過調整し内面はケズリ調整した弥生土器の胴部片が出土している。また、トレント南半のSR-27の南側では、トレント壁面の清掃中に確認したSK-28がある。埋土は黒褐色粘質土である。

（4）柱穴・小穴

SP-01は、トレント南端に位置する。SP-02を切る。埋土は、黒褐色砂質シルトで、部分的に粘質土の小塊が混じる。上部III層部分から、弥生時代後期前葉の壺の大型破片が出土した（図30-13～15）。SP-02は、トレント南端に位置する。SP-01に切られる。黒褐色砂質シルトの埋土をもち、炭化物の小片が出土。SP-03は、トレント南端付近の東壁際に位置する。黒褐色砂質シルトの埋土をもつ。SP-04は、トレント南端付近に位置する直径20cm前後の小穴である。小石や角礫が混じる黒褐色砂質シルトの埋土をもつ。SP-05は、トレント南端付近の東壁際に位置する。黒褐色砂質シルトの埋土で、部分的に粘質土の小塊が混じる。SP-06は、トレント南端付近の東壁際に位置する。黒褐色砂質シルトの埋土をもつ。SP-07は、トレント南端付近に位置する直径15cm前後の小穴である。礫が混じる黒褐色砂質シルトの埋土で、炭化物の細片が出土した。SP-08は、トレント南端付近の東壁間に位置する。大振り角礫が多く混じる黒褐色砂質シルトの埋土をもつ。SP-10は、トレント南半に位置する不整形の小穴である。砂礫が多く混じる暗褐色砂質土を埋土とする。SP-11は、トレント南半に位置する直径35～37cmの小穴である。砂礫を多く含む暗褐色砂質土を埋土とする。SP-12は、トレントの中央南よりに位置し、SC-13を切っている。砂礫を多く含

[7トレーニ]



- 遺体
- 自然流路
- III層
- IV層
- V層



— 49 —

図29 99602(文京道路)15次調査 -7・8トレーニ 遺構配置および土層断面図(縮尺1/200、1/20)



写真69 99602（文京遺跡15次調査）-7トレンチ全景
(南から、手前は文京遺跡14次調査区)

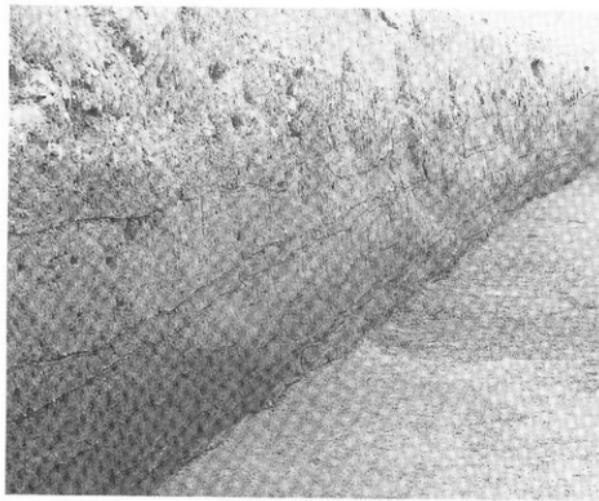


写真70 99602（文京遺跡15次調査）-7トレンチ北半部の土層

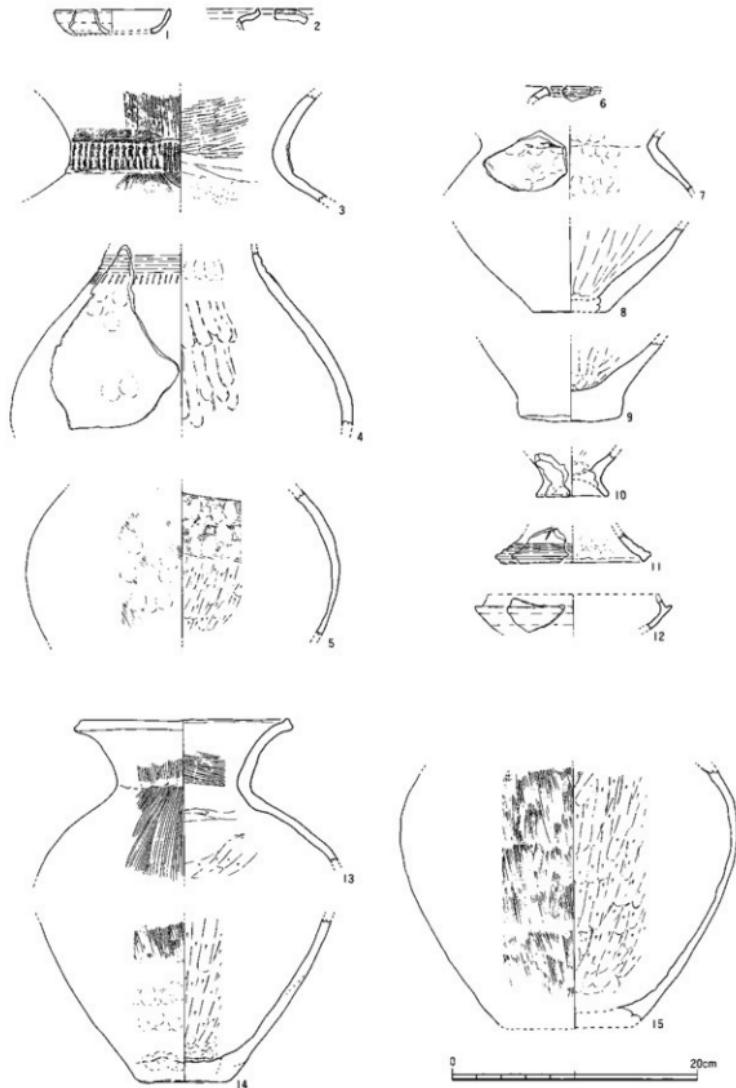


図30 99602 (文京遺跡15次調査) -7トレンチ 出土遺物実測図(I) (縮尺1/4)
 (1 : II層、2 : SC-21、3・9・10 : SD-25、4～7・11・12 : II層、8 : SC-26、13～15 : SP-01)

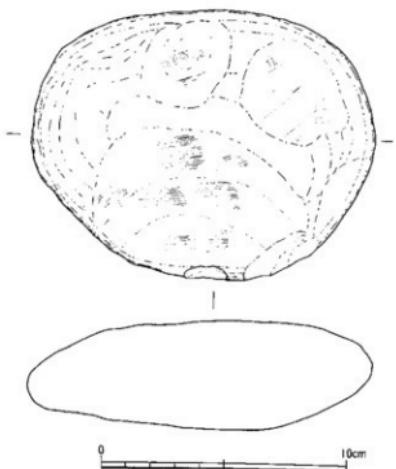


図31 99602(文京遺跡15次調査)-7トレンチ出土遺物実測図(2) (縮尺1/4)

む暗褐色砂質土を埋土とする。埋土中から弥生土器の細片が出土。SP-14は、トレンチのほぼ中央に位置する。不整楕円形の柱穴で、礫や小石を多く含む黒褐色砂質土を埋土とする。SP-17は、トレンチの中央北よりに位置する直径55cmの柱穴である。にぶい黄褐色砂質シルトを埋土とする。弥生土器の細片が出土した。SP-18は、トレンチの中央北よりに位置し、埋土は暗褐色砂質シルトである。SP-19は、トレンチの中央北よりに位置する直径35cmの柱穴である。暗褐色砂質シルトの埋土をもつ。SP-22は、トレンチの中央北よりに位置する25×35cmの小穴である。埋土は暗褐色砂質シルトである。

(5) 自然流路

SR-27を、トレンチ南端付近のトレンチ壁面精査中に気が付いた。III層を切り込む幅5.7mの自然流路で、灰褐色細砂・灰褐色砂礫・灰褐色砂質土が互層状態でみられる。また、最上部には灰黃褐色砂質シルトが堆積する。

8 トレンチ (図29)

前述した7トレンチでは、II'層とIII・IV層との関係は、攢乱部分にかかり、もう一つ明らかにできなかっ



図32 99602(文京遺跡15次調査)-8トレンチ出土遺物実測図(縮尺1/4)

た。また、7トレンチ南半へ中央では、かなりの密度で遺構が分布するが、運動場西辺での遺構の広がりを確認できていない。そこで、運動場の西辺のほぼ中央に、南北方向に13.8mの8トレンチを設定した。

8トレンチでは、城北団地全域における基本層位のI・II・IV・V層を確認したが、III層はみられない。また、トレンチ北半部では、7トレンチ北半部分と同じく、II層の下面にII'層が分布する。II'層はオーブー褐色砂質シルトで、上位のII'-1層と下位のII'-2層に細分できる。II'-1層は砂礫を多く含み、II'-2層との層界は不整合面をなす。II'-2層下部では、鉄・マンガンの沈着部分が部分的に薄い縞状となっている。また、II'-2層の下部からは、土師器の細片が出土した。

遺構は、IV層の上面で、溝1条(SD-03)、柱穴4基(SP-01、02、04、05)を確認した。

(1) 溝

トレンチの中央北よりで、SD-03を検出した。南東から北西方向へのびる幅1m、深さ32cmの溝である。埋土はにぶい黄褐色砂質土で、直径0.5~2cm大的の角礫・小石を多く含む。

(2) 柱穴・小穴

SP-01は、トレンチ北端に位置する直径50cmほどの柱穴である。埋土は、黒褐色粘質シルトで、にぶい黄褐色の小塊が少量混じる。0.5~1cm大的炭化物片、弥生時代中期の壺の底部片(図32)や弥生土器の胴部細片が出土した。SP-02は、トレンチ北半部のSD-03の北側に位置し、直径83cmを測る。埋土は、暗褐色粘質シルトで、にぶい黄褐色の小塊が少量混じる。SP-04は、トレンチ南端の壁面清掃中に確認した。推定直径70cm前後。暗褐色粘質シルトに褐色の小塊が混じる埋土をもつ。土師器の壺底部片と胴部細片、炭化物片が出土した。トレンチ中央のSD-03の南側で、SP-05を検出した。直径30cmほどを測る。埋土は、暗褐色粘質シルトで、にぶい黄褐色の小塊や小指先大の角礫や小石が少量混じる。

【調査のまとめ】

今回の調査と既往の調査の成果を整理して、城北団地を南北に横断する土層断面図（図33、34）を作成した。これをもとに、城北団地における遺跡の分布状況をまとめると、以下のようなになる。

城北団地は、石手川がつくる扇状地上に位置する。現況では、東から西へ向かって緩やかに傾斜する比較的平坦な地形面となっている。しかし、既往の調査成果や、現在の等高線をみると、扇状地上の東西方向にのびる微高地列と、微高地列に挟まれた谷状の地形を復元できる。こうした微地形は、扇状地を構成する疊層の最上面にあたる基本層序のV層の凹凸を反映し、弥生時代～古墳時代の旧地形とはほぼ一致するものと考えられ、当該期の遺構の分布を規制している。

谷状地形の分布をみると、運動場北半～テニスコート部分に幅80m前後の東西にのびる谷状地形を4・7トレンチで確認できた。この谷状地形の中には、古墳時代後期～中世と考えられる水田が営まれている可能性が強い。

また、3トレンチ北半部分でも、谷状の地形を確認

した。文京遺跡8次調査で理学部内において確認された谷状地形とつながるものと考えられる。さらに、1トレンチと2トレンチ南端付近でも、東西方向の比較的浅めの谷状地形と、その中を流れる中世段階の自然流路を確認した。

こうしてみると、城北団地北半部には、比較的大きな谷状地形がはしり、その間には比較的幅の狭い微高地が分布する。3トレンチの調査成果からは、こうした微高地には竪穴式住居跡などの生活関連の遺構が分布し、微高地に挟まれた谷状の地形内には自然流路が流れ、微高地から谷状地形への落ち際には人工の溝が開削されている。

これに対して、城北団地南半部では、比較的幅の広い東西にのびる微高地列が形成されている。この微高地には、文京遺跡12・14次調査や7トレンチ南半部・8トレンチで調査・確認された弥生時代中期後葉～後期中頃と古墳時代後期の遺構が密集する。こうした遺構が密集する範囲は、団地南辺の工学部敷地から運動場の北部まで広がることが、7・8トレンチの調査で確認できた。

(田崎)

99603 附属農業高等学校新校舎新設工事に伴う調査

調査地点 松山市博味3丁目5番7号

愛媛大学博味団地内

調査面積 21.7m²

調査期間 1996年11月28日、12月11・12日

調査の種別 試掘調査

調査担当 田崎博之

調査補助 宮崎直栄・橋本麻紀

依頼文書 愛大農発第433号（平成8年8月26日）

【調査にいたる経緯】

博味団地東側の農学部附属農業高等学校体育館とグラウンドの間に、校舎建設が計画され、遺跡の有無を確認するために事前試掘調査を実施した。

計画予定地は温室・駐車場が設けられており、11月28日には、その隙間をぬって3ヶ所に1～3トレンチを設定して試掘調査を行った。しかし、調査範囲が狭く部分的であったため充分な確認がとれず、12月11・12日に再度、予定地中央に東西方向の4・5トレンチを設定して調査を実施した。

【調査の記録】

試掘トレンチの中で、1・2トレンチと、4・5トレンチは、おのおの延長線上に設定しており、調査結果を1・2トレンチ、3トレンチ、4・5トレンチにまとめて報告する。

1・2トレンチ（図35）

表土層にあたる造成土（I層）の下に、厚さ45～60cmほどのグリアイ化した水田層（II層）を確認した。灰色（7.5Y4/1）粘質シルトで、下部は水田床土層で鉄・マンガンが沈着している。上部の耕作土部分をII-1層、下部の床土層をII-2層とした。

II層の下位には、1トレンチではG.L.-1.23m以下に、オリーブ褐色（2.5Y4/4）、黄褐色（2.5Y5/3）の粗・細砂層が互層状態で堆積している。2トレンチでも同様な堆積物を確認でき、その下部は部分的にIV層の黄褐色（10YR5/6）粘質シルトのブロックが混じる黄褐色（10YR5/3）粗砂層がみられる。この粗・細砂層は河川堆積物と考えられ、SR-1とした。1・2トレンチでII層直下で確認した粗細砂の互層をSR-1-1層、2ト

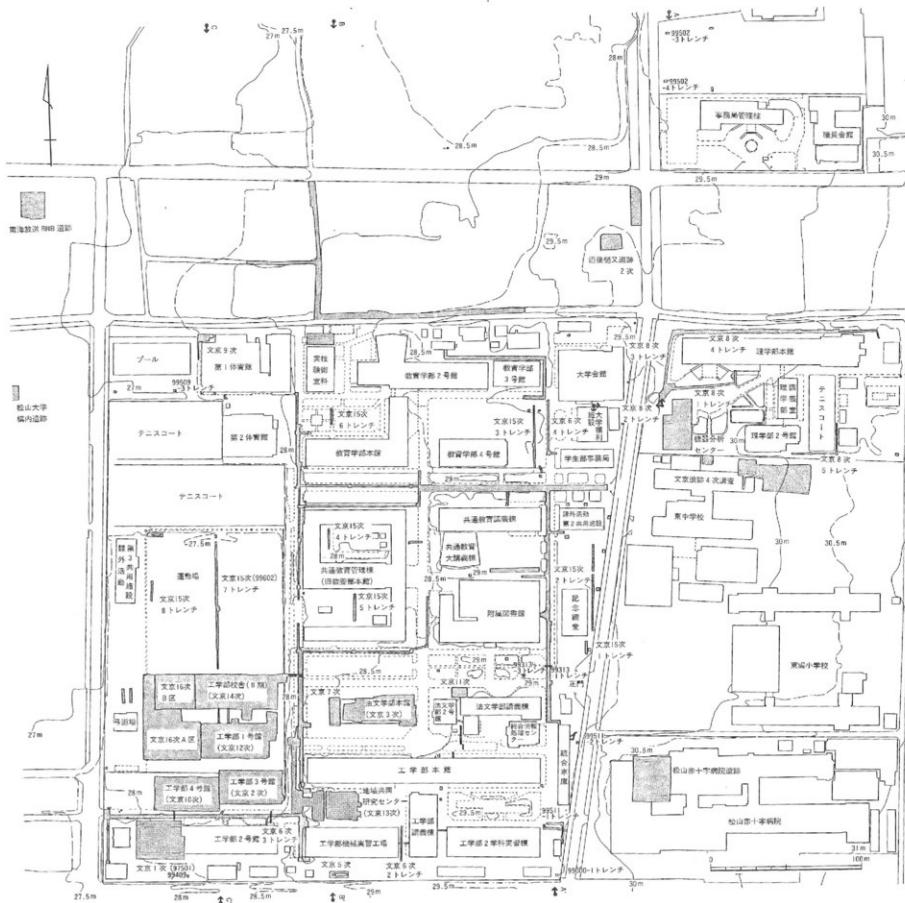


図33 城北団地および周辺の既往の調査地点位置図
(縮尺 1/2,500、5桁の数字は愛媛大学における構内遺跡調査番号)

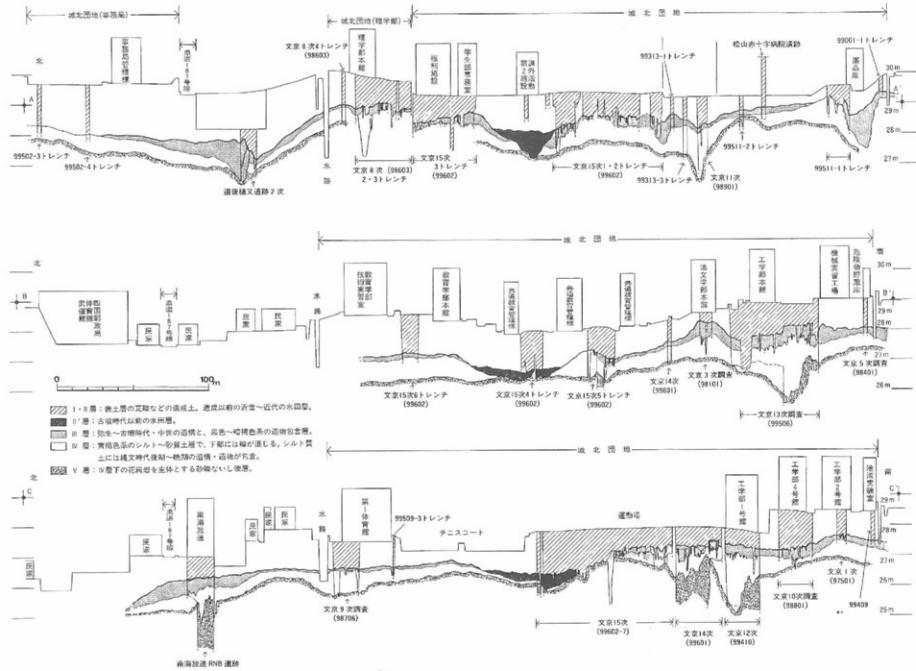


図34 城北団地および周辺の土層断面図（縮尺 1/2,500, 1/125、調査地点は図33と対応する）

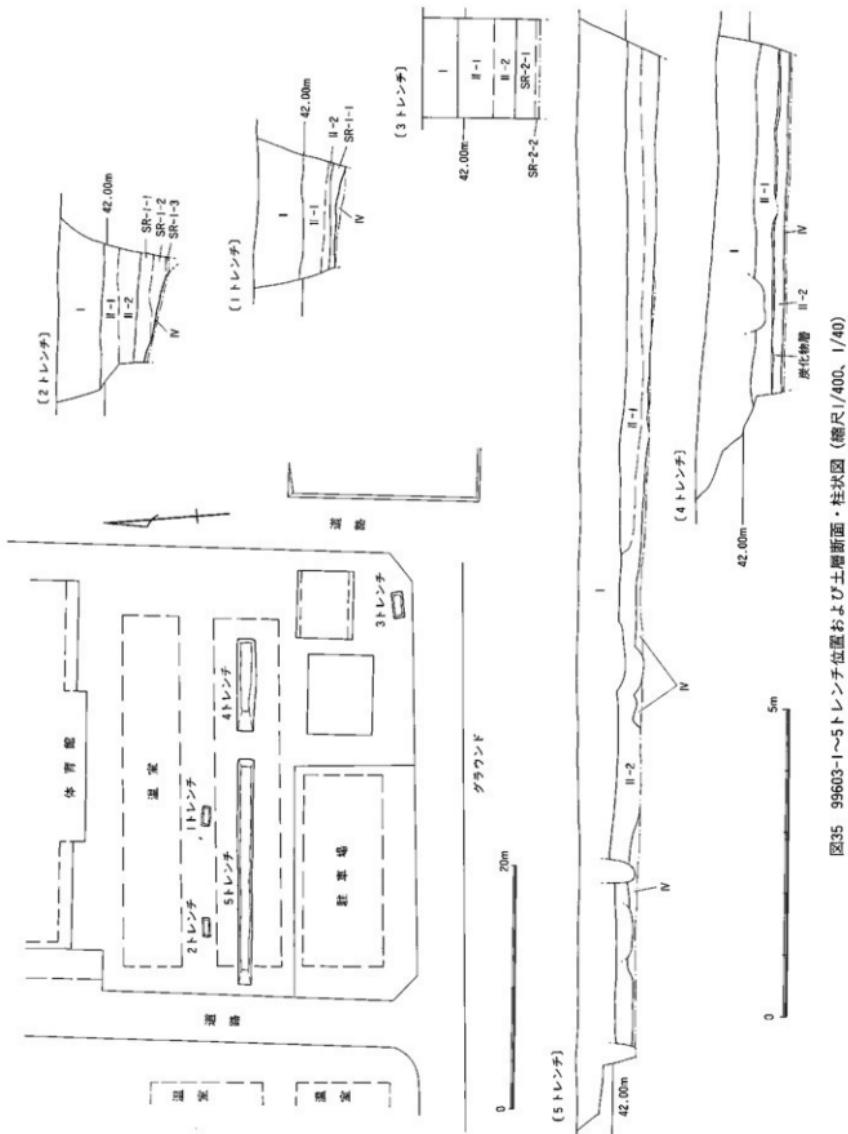


図35 99603-1～5レンチ位置および土層断面・柱状図 (縮尺1/400、1/40)



写真71 99603-3トレンチ土層



写真72 99603-5トレンチ全景（西から）

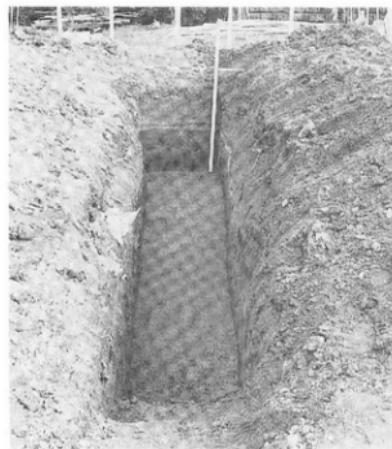


写真73 99603-4トレンチ全景（西から）

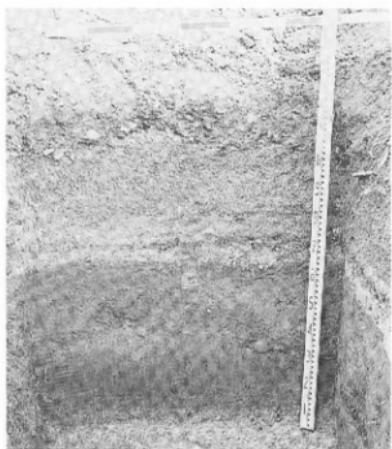


写真74 99603-4トレンチ東壁土層

レンチでその下部に堆積した粗砂層をSR-1・2層とした。SR-1・1・2層を除去すると、黄褐色(10YR5/6)粘質シルトのIV層が現れた。IV層の上面は、1トレントでは東に向かって緩やかに傾斜するが、2トレントでは急激に東へ落ち込む。遺物は出土していない。

3トレント (図35、写真71)

校舎建設予定地の南東隅に設定した。表土層にあたる造成土(I層)、水田層(II層)の下層のG.L.-1.5m以下で、灰黄褐色(10YR5/2)細砂、暗灰黄色(2.5Y5/2)粗砂、灰色(7.5Y4/1)シルトが薄い縞状の互層堆積をなす。G.L.-1.83m以下には暗灰黄色(2.5Y4/2)粗砂に花崗岩の円礫が多く含む砂礫層が出土した。とともに河川堆積物と考えられる。1・2トレントのSR-1とは異なる流路として、SR-2とする。上部の粗・細砂・シルトの互層堆積をSR-2-1層、下部の花崗岩の円礫を多く含む暗灰黄色砂礫層をSR-2-2層とする。SR-2-2層からは湧水があり、トレント壁が倒壊する危険が生じたため、G.L.-1.9mまで掘り下げを中止した。II層から染め付け碗の小片が出土した。

4・5トレント (図35、写真72~74)

4・5トレントは、1・2トレントの南側、工事予定地を東西に横断する位置に設定した。表土層の造成土(I層)下の水田層(II層)は、1・2トレントと同様にII-1・2層の2枚の水田層を確認した。ただし、4トレントでは、II-1・2層間に、薄い炭化物層を挟む。II層を除去すると、1・2トレントで確認したSR-1に対応する砂礫層はみられず、IV層の黄褐色(10YR5/6)粘質シルトが現れた。IV層上面は、西から東に向かって緩やかに傾斜し、4トレントの東端では、花崗岩の円礫を含む部分がみられる。これは、樽味遺跡の他の調査地点で確認しているIV層下部に相当する。

IV層上面を精査したが、遺構は確認できなかった。ただし、5トレントの東側で、II層とIV層の境界部分で弥生土器の甕小片が出土した。

【調査のまとめ】

1~5トレントで確認した水田層(II層)は、3トレントで出土した遺物から、近代の水田層と考えられる。また、いずれのトレントでも、樽味遺跡における基本層序III層にあたる黒褐色系の遺物包含層は確認できなかった。さらに、4トレント東端では、IV層下部に相当する花崗岩の円礫が混じる黄褐色シルト層がみられる。III層や深度の浅い遺構は、近世の水田(II層)が造成される際に削平されている可能性が強い。

しかし、1~2トレントで確認したSR-1と、3トレントで確認したSR-2の流路では、井堰などの灌漑施設が遺存する可能性がある。5トレントで出土した弥生土器も、出土状態が悪いが、周囲に遺構が分布することを示している。

さらに、南東に10~20m離れた調査番号:98703地点ではIII層(遺物包含層)、西北に90m離れた樽味遺跡1・2次調査地点など(調査番号:98704・99101・99302地点)では弥生時代および14~16世紀の集落跡が確認され、集落域が樽味団地全域に広がっていることが考えられる。

【調査後の対応】

以上から、農学部附属農業高等学校校舎が建設される予定地内には、部分的ではあるが、当該期の遺構が分布することが予想される。以上の調査成果をとりまとめ、附属農業高等学校校舎建設にあたっては、予定地全面の発掘調査が必要なことを施設部に報告した。

(田崎)

99604 附属農業高等学校温室新設工事に伴う調査

調査地点 松山市樽味3丁目5番7号

愛媛大学樽味団地内

調査面積 5.1m²

調査期間 1996年11月29日

調査種別 試掘調査

調査担当 田崎博之

調査補助 宮崎直栄

依頼文書 愛大農発第433号(平成8年8月26日)

【調査にいたる経緯】

農学部から、新たに温室を建設する計画が提示され、事前に試掘調査を実施することとなった。予定地は、樽味団地のほぼ中央に位置する。植栽や温室をさけて、予定地の北西角、南西角、東端付近の3ヶ所に調査トレントを設定した。調査順に、北西角を1トレント、南西角を2トレント、東端を3トレントとした。

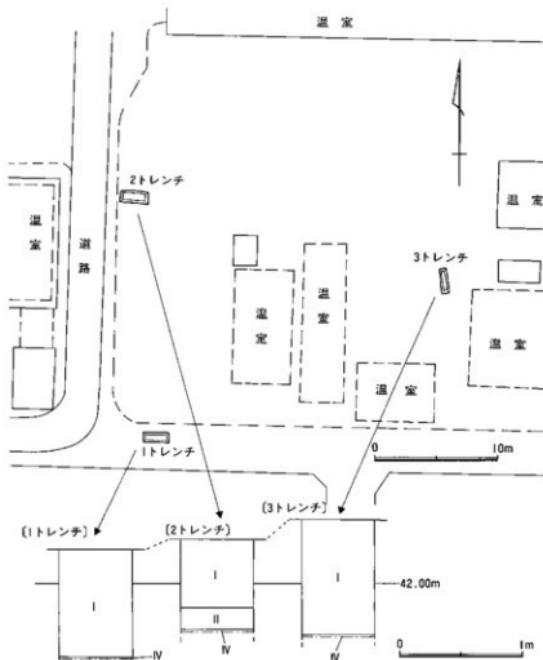


図36 99604-1～3トレンチ位置および土層柱状図（縮尺1/400、1/40）

【調査の記録】

各トレンチとともに、造成土であるI層、もしくは造成以前の旧水田層のII層の下面、G.L.-0.7～0.95mで、梅味園地全域にわたる基本層序のIV層にあたる黄褐色粘質シルト層があらわれた(図36、写真75、76)。遺物は出土しなかったが、1・3トレンチでは、IV層上面で黒褐色粘質シルトを埋土とする直径20～30cmの柱穴ないしは小穴を検出した。

温室建設予定地の50～60mほど北西へ離れた鳴味道跡2次調査地点(調査番号：99101)では、中世の集落遺

跡が調査されている。今回の調査で検出した柱穴もしくは小穴も、こうした中世の集落遺跡と関連した遺構と考えられる。

【調査後の対応】

今回の試掘調査の結果から、施設部にG.L.-0.7m以上を掘削する場合には、建設予定地の全面調査が必要であることを報告し、協議の上、埋蔵文化財に影響がないように、温室の建設時の掘削深度をG.L.-0.7m以内におさめることとなつた。(田崎)

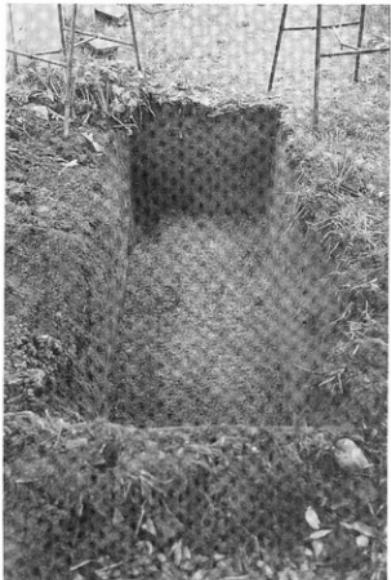


写真75 99604-1トレンチ（西から）



写真76 99604-2トレンチ（西から）

99605 農学部構内光ケーブル敷設工事に伴う調査

調査地点 松山市樽味3丁目5番7号

愛媛大学樽味団地内

調査面積 1m²

調査期間 1996年11月29日

調査の種別 試掘調査

調査担当 田崎博之

調査補助 宮崎直栄

依頼文書 愛大絆情発第20号（平成8年7月23日）

【調査にいたる経緯】

愛媛大学では、学術情報センターが構築・運営しているSINETの高度化・高速化に対応した学内ネットワーク環境の整備を進めている。そのATM-LAN(高速マルチメディアネットワークシステム)の設置工事が、樽味団地でも計画され、まず引き込み管路の設置工事が実施されることとなり、工事に先立ち試掘調査を行った。

【調査の記録】

調査地点は、樽味団地北辺のほぼ中央に位置する。造成土のI層を除去すると、G.L.-0.55mで、樽味団地全域で設定された基本層序のIV層にあたる黄褐色粘質シルトがあらわれた。このIV層上面で、黒褐色粘質シルトを埋土とする直径25cmほどの柱穴もしくは小穴を確認できた。ただし、遺物は出土していない（図37）。

今回の調査地点から、10～20m南東に離れた樽味遺跡1次調査地点（調査番号：98704）では、弥生時代～中世の集落遺跡が調査されている。今回、確認できた柱穴もしくは小穴も、こうした集落遺跡と関連する遺構と考えられる。

【調査後の対応】

今回の工事に伴う掘削面は、G.L.-0.35mまでで、工事によって埋蔵文化財が影響を受けることはないと判断できるので、慎重工事を依頼した。（田崎）

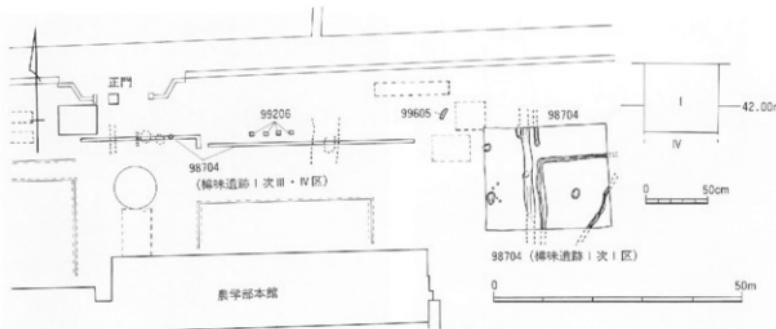


図37 99605調査地点位置および土層柱状図(縮尺1/400、1/40)

99606 教育学部附属中学校プール改修その他工事に伴う調査

調査地点 松山市持田町1丁目5番22号

愛媛大学持田団地内

調査面積 3.6m²

調査期間 1997年2月4日

調査の種別 立会調査

調査担当 田崎博之

調査補助 宮崎直栄

依頼文書 愛大施発第2号(平成9年1月13日)

【調査にいたる経緯】

教育学部附属中学校プールの改修に伴って、排水管および電線管を取設する位置と掘削深度が、施設部から提示された。管路部分の掘削深度はG.L.-0.7mであり、周辺の既往の調査成果(調査番号:99309-1・2)から、埋蔵文化財には影響がないものと判断できた。しかし、排水桿と電線管地中箱部分では、掘削がG.L.-1.0~1.4mにおよぶことから、立会調査を実施することとした。

【調査の記録】

排水桿と電線管地中箱が取設される地点は、プール周囲の隣接した3ヶ所、南へ約50m離れた1ヶ所である。後者の地点を1トレンチとして調査を始めた。前者のプール周囲では、もっとも掘削深度が深い排水桿部分を2トレンチとして調査したが、G.L.-1.4mまで造成土がみられ、周囲はプール建設時に余堀で擾乱されているものと考えた。他の2ヶ所についても、2ト

レンチと同様と判断し調査を終了した。

1トレンチでは、①層の表土層である造成土がG.L.-0.6mまでみられ、下層には暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土が堆積しており、これを②層とした。②層下部からは、近代の底部焼きの高台付皿の破片が出土した。既往の調査(調査番号:99309)の1トレンチの②層に対応する土層である。②層の層厚は45cmほどで、下層には③層とした暗灰褐色(10YR4/2)砂質土がみられる。③層は、既往の調査(調査番号:99309)の1・2トレンチの③層と対応する(図38、写真77)。

また、2トレンチは、G.L.-1.4mまで造成土である表土層の①層がみられ、遺物も出土しなかった。

【調査後の対応】

調査終了後、工事を続行した。

(田崎)



写真77 99606-1トレンチ南壁土層

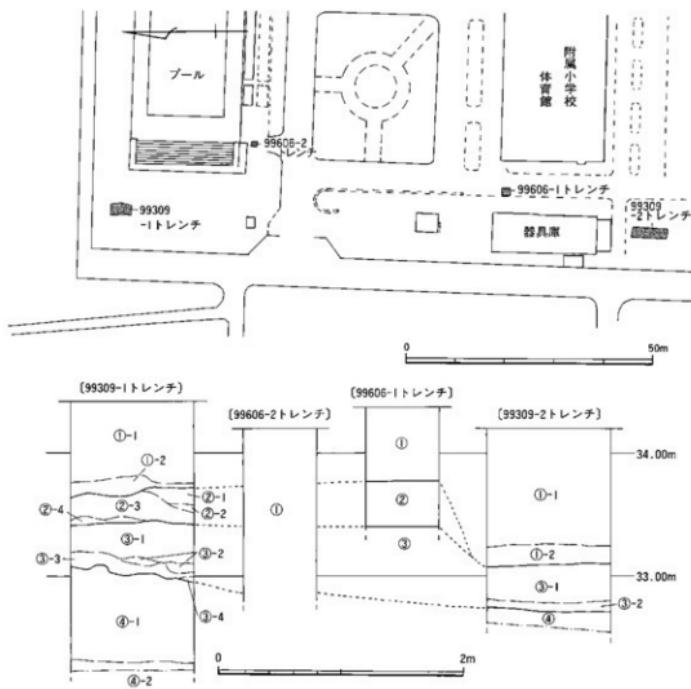


図38 99606調査地点位置および土層柱状図（縮尺1/400、1/40）

卷 末 表

愛媛大学構内における調査一覧

参考文献

愛媛大学構内における調査一覧(2001年3月現在)

調査番号	遺跡名	所在地	工事調査名	調査種別	調査機関(調査担当者)	面積(m ²)	調査期間	出版回数	参考文献
EU-97501	文京遺跡1次	城北	工学部海洋工学科舍新工事に伴う調査	全面	松山市教育委員会(長井歴史科)	750	1975/08/01 ~1976/08/24	7-24	1
EU-98001	文京遺跡2次	城北	工学部資源化学科舍新工事に伴う調査	全面	松山市教育委員会(西尾幸則)	600	1980/07/08 ~1980/09/30	7-24	5
EU-98101	文京遺跡3次	城北	法文学部校舎新工事に伴う調査	全面	松山市教育委員会(西尾幸則)	800	1982/01/10 ~1982/03/25	7-24	5
EU-98301	文京遺跡	城北	雨水管・污水管・ガス埋設工事に伴う調査	立会	松山市教育委員会(西尾幸則)	1,374	7-18-24		
98302	文京遺跡	城北	教育学部校舎建設に伴う調査	立会	松山市教育委員会(西尾幸則)	—	1983年	7-18	
EU-98401	文京遺跡5次	城北	工学部危険物貯蔵庫新工事に伴う調査	全面	松山市教育委員会(西尾幸則)	18	1984/10/26 ~1984/11/28	7-24	5
EU-98601	文京遺跡6次	城北	城北地区基幹整備事業に伴う調査	全面	人類考古学研究室(下條信行)	99	1986/10/00 ~1986/09/00	7-18-24	
98602	文京遺跡7次	城北	法文学部校舎増築工事に伴う調査	全面	人類考古学研究室(下條信行)	142	1986/08/00 ~1986/09/00	7-24	9
98603	文京遺跡8次	城北	城北地区基幹整備事業に伴う調査	全面	人類考古学研究室(下條信行)	854	1986/11/25 ~1987/02/18	7-19	3
98604	樟味遺跡	樟味	連合農業研究科舍新工工事に伴う調査	試掘	人類考古学研究室(下條信行)	5	1987/01/09		
98605	鷹子遺跡	鷹子	国際交流会館新工工事に伴う調査	試掘	人類考古学研究室(下條信行)	47	1987/01/16		
EU-98701	鷹子遺跡1次	鷹子	国際交流会館新工工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	962	1987/07/20 ~1987/09/20	2	
98702	樟味遺跡	樟味	連合農業研究科舍新工工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(下條信行)	18	1987/08/20 ~1987/09/21	7	
98703	樟味遺跡	樟味	附属高等学校課外活動施設新工工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	6	1987/07/20	7	
98704	樟味遺跡1次	樟味	連合農業研究科舍新工工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	684	1987/10/28 ~1987/12/17	2	
98705	文京遺跡	城北	城北地区プール超り浄化装置新設工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	2	1987/11/13	7-18	7

調査番号	遺跡名	所在地	工事調査名	調査種別	調査機関(調査担当者)	面積(m ²)	調査期間	図版	参考文献
EU-98706	文京遺跡9次	城北	城北地区アーチ橋り淨化装置増設工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	62	19880111 ~19880129	7-18	3
EU-98801	文京遺跡10次	城北	工学部情報工学科校舎新設工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	1,075	19880119 ~19880303	7-24	4
98802	文京遺跡	城北	城北地区基準点等設置工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	5	19880103	7-18-24	7
98803	文京遺跡	城北	工学部講義棟高庄ケーブル埋設工事に伴う調査(その1)	試掘	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	2	19881208	7-24	7
98804	文京遺跡	城北	工字型講義棟高庄ケーブル埋設工事に伴う調査(その2)	試掘	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	1	19881212	7-24	7
98805	文京遺跡	城北	工学部情報工学科校舎排水施設取扱工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	6	19890207	7-24	7
98806	文京遺跡	城北	工学部情報工学科校舎取扱工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	3	19890209	7-24	7
EU-98901	文京遺跡11次	城北	法文字部講義棟壁際用昇降機取扱工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	85	19890801 ~19890829	7-24	3
98902	文京遺跡	城北	城北地区電波障害用の外線工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	2	19900303	7-24	7
EU-99001	文京遺跡	城北	城北地区閉鎖工事及び教育学部自転車置場新設工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3	19900808	7-18-24	7
EU-99101	桜味遺跡2次	桜味	農字部研究実験棟新設工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	506	19920107 ~19920228		6
99102		津田山	教育学部附置愛媛学舎日常生活訓練施設建設工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(下條信行)	13	19910608		7
99103	文京遺跡	城北	城北地区団体障壁(II期)改修及び外灯改修工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(下條信行)	36	19910821	7-18-24	7
EU-99201	桜味遺跡	桜味	農字部室外ガス本管改修工事に伴う調査	立会	埋蔵文化的調査室(田崎博之)	6	19920526		7
99202	文京遺跡	城北	城北地区東側団体改修工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化的調査室(田崎博之)	3	19920730	7-19	7
99203	桜味遺跡	桜味	教育学部図書室部分新設工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1	19920826		7
99204		重信	医学部附属病院病翼新設工事に伴う調査(その1)	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3	19920826		7
99205	文京遺跡	城北	城北地区東側開闢改修工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化的調査室(田崎博之)	3	19920730		7

調査番号	遺跡名	所在地	工事調査名	調査種別	調査機関(調査担当者)	面積 (m ²)	調査期間	図版 図面	参考文献
EU-99205 99206	榎味遺跡 榎味遺跡	山越 榎味	1992年度櫛内遺跡確認調査(その1) 農学部石垣兼他自伝車置場新設工事に伴う 調査(その1)	確認 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之) 埋蔵文化財調査室(田崎博之)	57 3	19920828 19920921	7-2-5	7 7
99207	榎味遺跡	城北	農学部石垣兼他自伝車置場新設工事に伴う 調査(その2)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	2	19920921	7	
99208 99209 99210 99211	文京遺跡 持田・岩崎遺跡 重信 重信	持田 持田・岩崎遺 城北	城北園地外灯設備改修工事に伴う調査 教育学部附属小学校給水設備工事に伴う調査 医学部附属病院駐車場販設工事に伴う調査 1992年度櫛内遺跡確認調査(その2)	立会 立会 試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之) 埋蔵文化財調査室(田崎博之) 埋蔵文化財調査室(田崎博之) 埋蔵文化財調査室(田崎博之)	2 11 40 11.8	19930126 19931026 19921027 19930308 ~19930309	7-18 7 7 7-24	7 7 7 7
99212	文京遺跡	城北	城北園地情報通信設備工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	6.8	19930322	7	
99213			医学部附属病院病歴室新設工事に伴う調査 (その2)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	33.3	19930323	7	
99214	榎味遺跡	城北	榎味園地自伝車置場取扱その他工事に伴う 調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	2	19930324	7-24	7
99215	文京遺跡	城北	城北園地交通規制遮断機取扱工事に伴う調 査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	20	19930324	7	
EU-99301	重信 榎味	重信 榎味	医学部看護学科新宿工事に伴う調査 附属図書館農学部分館新宿工事(樹木移植)	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之) 埋蔵文化財調査室(田崎博之)	14	19930624 ~19930625	7	
	榎味遺跡	城北	農学部自伝車置場取扱工事に伴う調査 附属図書館農学部分館新宿工事に伴う調査	試掘 全面	埋蔵文化財調査室(田崎博之) 埋蔵文化財調査室(田崎博之)	80.8 258.5	19930627 ~19931006	7	
	榎味遺跡 3次	榎味	城北園地大学会館前通り道路整備(樹木移植)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	2	19931109	7-18	7
	文京遺跡	城北	附属図書館農学部分館新宿(外灯設備管路)	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3	19931124	7	
	榎味遺跡	榎味	城北園地他情報通信電気設備工事に伴う調 査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	7	19931124	7	

調査番号	遺跡名	団地	工事調査名	調査類別	調査機関(調査担当者)	面積(cm)	調査期間	図版	図幅	参考文献
EU-98308	文京遺跡	城北	城北团地他情報通信電気設備工事に伴う調査(その2)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	7.9	19931125	7-24	7	
99309	持田・岩崎遺跡	持田	1993年度櫛内遺跡確認調査	確認	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	39	19931224	7-32-38	7	
99310	文京遺跡	城北	城北团地情報機器更新電源容量増設工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3.7	19940118	7-24	7	
99311	梅味遺跡	梅味	農学部附属図書館新館(排水管理設)工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	19.8	19940119	7-24	7	
99312	梅味遺跡	梅味	農学部附属図書館新館(自転車置場)工事に伴う調査(その2)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	29.7	19940208	7		
99313	文京遺跡	城北	城北团地基幹整備(屋外環境)工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	14.8	19940209	7-24	7	
99314	文京遺跡	城北	工学部研究実験棟の建設に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	37.9	19940210	7-24	7	
EU-99401	梅味・桑原遺跡	北吉井	東長戸他環境整備(駐車場整備・配管設置)工事に伴う調査(その1)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	54.5	19940329	7-24	7	
99402		東長戸	東長戸他環境整備(駐車場整備・配管設置)工事に伴う調査(その2)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	9	19940513	7-24	7	
99403	梅味遺跡	梅味	環境整備(附属高等学校自転車置場)工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	7.8	19940524	7		
99404	文京遺跡	城北	城北团地他環境整備(自転車置場整備)工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1.4	19940607	7-24	7	
99405	文京遺跡	城北	城北团地他環境整備(自転車置場設置)工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	81.3	19940608	7-18	7	
99406	文京遺跡	城北	城北团地他環境整備(自転車置場・排水管設置)工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	5.3	19940610	7-19	7	
99407	文京遺跡	城北	城北团地他環境整備(排水樹及び管路敷設)工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	5.9	19940601	7-18	7	
99408	文京遺跡	城北	城北团地他環境整備(電気配管路取)工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3.2	19940801	7-18	7	

調査番号	遺跡名	所在地	工事箇所名	調査種別	調査機関(調査担当者)	面積(m ²)	調査期間	図版図幅	参考文献
EU-99409 99410	文京遺跡 文京遺跡12次	城北 城北	工学部岩盤切削試験設置工事に伴う調査 工学部校舎新宮(1期)に伴う調査	立会 全面	埋蔵文化財調査室(田崎博之) 埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1,11,183	19940927 ~19950726	7-24 7-24	7 7
	99411	津田山	教育学部附属實驗学校外施設(東屋)設置工事に伴う調査	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	33	19950127	7	
EU-99501	文京遺跡	城北	教育学部運動場内鉄筋移設工事に伴う調査	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	48	19950411 ~19950412	本書7~10頁	
	99502	文京遺跡	城北	教養部テニスコート(事務局北側)改修工事に伴う調査	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	9	19950801	
99503	文京遺跡	城北	工学部南側開闢工事に伴う調査	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3	19950801	本書10~11頁	
99504	文京遺跡	城北	理学部構内井戸工事に伴う調査	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	4	19950802	本書11~12頁	
99505	文京遺跡13次	山越	山越園地防護ネット取扱工事に伴う調査	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	7	19950802	本書12~13頁	
99506	文京遺跡	城北	地域共同研究センター新宮工事に伴う調査	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	890	19951017 ~19960412	本書13~18頁 本書18~19頁	
99507	梅味遺跡	梅味	公共下水道敷設工事に伴う調査	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	2	19951114	本書18~19頁	
99508	梅味・桑原遺跡	北吉井	北吉井宿公会下水道敷設工事に伴う調査	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	2	19951115	本書19~20頁	
99509	文京遺跡	城北	城北園地(北西)通用門改修工事に伴う調査	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3	19951116	本書20~22頁	
99510	文京遺跡	城北	埋蔵文化財調査室改修工事に伴う調査	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1	19960131	本書22~23頁	
99511	文京遺跡	城北	城北園地基幹整備(電線管等)工事に伴う調査	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	34	19960213 ~19960220	本書23~28頁 本書28~29頁	
99512	文京遺跡	城北	城北園地事務局ガス管改修工事に伴う調査	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	2	19960311		
EU-99601	文京遺跡14次	城北	工学部校舎新宮(11期)工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)	1,349	19960520 ~19970331	本書31~37頁	
	99602	文京遺跡15次	城北	1996年度構内通路確認調査	確認	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	225	19961113 ~19961209	本書38~58頁
99603	梅味遺跡	梅味	附属農業高等學校新宮工事に伴う調査	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	21.7	19961128 ~19961211	本書54 * 59~61頁	
99604	梅味遺跡	梅味	附属農業高等學校新宮工事に伴う調査	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	5	19961129 19961129	本書61~63頁 本書63~64頁	

調査番号	遺跡名	所在地	工事調査名	調査範囲	調査機関(調査担当者)	面積 (m ²)	調査期間	図版	図版 参考文献
EU-99606	持田・岩崎遺跡	持田	教育学部附属中学校プール改修その他工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3.6	1997/02/04		本書64・65頁
EU-99701	文京遺跡	境北	工学部校舎新館(III期)工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1,384	1997/04/28 ～1997/12/22	9	
99702	文質遺跡	境北	工学部校舎新館(III期)工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)	627	1997/04/09 ～1997/07/29	9	
99703	梅味遺跡	境北	ATMネットワーク工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	131	1997/04/14 ～1997/04/17		
99704	文京遺跡	持田	事務局棟内板取扱工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)	3	1997/08/04		
99705	持田・岩崎遺跡	持田	持田地区北側閉障改修その他工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)	5	1997/08/04		
99706	持田・岩崎遺跡	持田	農学部附属農業高等學校校舎新宮工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)	6	1997/08/05 ～1997/08/06		
99707	梅味遺跡	梅味	梅味地区(佐野寮) 公共下水道設置工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)	12	1997/08/06 ～1997/08/07		
99708	梅味遺跡	梅味	工学部校舎新宮電気設備工事(その2)に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)	2	1997/08/07		
99709	文京遺跡	城北	北吉井宿外排水管改修工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)	100	1997/09/08 ～1997/10/31		
99710	梅味・桑原遺跡	北吉井	北吉井宿外ガス管改修工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)	32	1997/11/12 ～1997/11/18		
99711	梅味・桑原遺跡	梅味	農学部附属農業高等學校運動場東側防護ネット及 び第3棟東側フェンス増設工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)	1,168	1997/11/25 ～1998/02/04		
99712	梅味遺跡	4次	附屬農業高等學校運動場東側防護ネット及 び第3棟東側フェンス増設工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)	6	1997/12/18 ～1998/02/04		
99713	梅味遺跡	梅味	附屬農業高等學校運動場東側防護ネット及 び第3棟東側フェンス増設工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)	187	1998/02/04 ～1998/02/06		
99714	梅味遺跡	梅味	附屬建物整備工事(機械庫及び車庫)に伴 う調査						

調査番号	遺跡名	所在地	工事調査名	調査種別	調査機関(調査担当者)	面積(m ²)	調査期間	図版	参考文献
EU-99715	文京遺跡	城北	1997年度繩内遺跡調査	確認	埋蔵文化財調査室 (田崎博之・吉田広・三吉秀充)	154	19980302 ~19980310		9
99716	柳味遺跡	城北	附屬農業高等学校運動場東側防護ネット及び第3棟東側フェンス埋設工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)	21	19970311 ~19970312		
99717	文京遺跡	城北	工学部校舎新宮に伴う外表施設整備工事	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)		19980217		
EU-99801	文京遺跡	城北	「大矢天皇お手植えの松」の移植を前提とした「櫛切り作業」の実施に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (田崎博之・吉田広)	1	19981104		
99802	文京遺跡18次	城北	総合解処理センター新宮工事に伴う調査	本格	埋蔵文化財調査室 (田崎博之・吉田広)	1,192	19981214 ~19990802		
99803	文京遺跡	城北	工学部本館等事務室改修機械設備工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広)	1	19981214		
99804	柳味遺跡	城北	遺伝子実験施設新宮その他工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室 (吉田広)	22	19990128 ~19990129		
99805	文京遺跡	城北	教育学部2号館南消火用水漏れ改修工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広)	3	19990311		
99806	文京遺跡	城北	理学部本館南消火栓管改修工事に伴う調査	本格	埋蔵文化財調査室 (吉田広)	979	19990316 ~19990721		
99807	柳味遺跡5次	城北	遺伝子実験施設新宮その他工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室 (吉田広)		19990331		
99808	重信	城北	医学部附属病院附属建設に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広)		19990401		
99809	文京遺跡	城北	学生会館ガス管改修工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広)		19980631		
EU-99901	文京遺跡19A次	城北	理工大等総合研究実験棟新宮電気設備工事(1期)に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室 (吉田広)	31	19990907 ~19990913		
99902	文京遺跡19B次	城北	理工大等総合研究実験棟新宮電気設備工事(2期)に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)	94	19991201 ~19991217		
99903	柳味遺跡	城北	農学部附属農業高等学校校舎新宮電気・機械設備工事(1期)に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広)	1	19991006		
99904	柳味遺跡	城北	農学部附属農業高等學校校舎新宮電気・機械設備工事(2期)に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広)	25	19991025 ~19991029		

調査番号	遺跡名	所在地	工事調査名	調査種別	調査機関(調査担当者)	面積(m ²)	調査期間	図版図幅	参考文献
EU-99905	梅味遺跡	梅味	農学部附属農業高等学校校舎新宮電気・機械設備工事(3期)に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(吉田広)	31	1999.11.24 ~1999.11.28		
99906	梅味遺跡	梅味	農学部附属農業高等学校校舎新宮電気・機械設備工事(4基)に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(吉田広)	3	2000.01.28		
99907	文京遺跡	城北	「大正天皇お手植えの松」移植工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	20	2000.01.25		
99908	文京遺跡	城北	理工学等総合実験棟新宮電気設備工事(その2)に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	8	2000.02.01		
99909	文京遺跡	城北	総合情報処理センター新宮電気設備工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之・吉田広)	8	2000.02.08		
99910	文京遺跡20次	城北	サテライト・ベンチマーク・ビジネス・ラボラトリーエネルギー新宮工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(吉田広・三吉秀充)	588	2000.02.14 ~2000.06.20		
99911	文京遺跡	城北	電灯移設工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	9	2000.02.16		
99912	文京遺跡	梅味	農学部冬期間における水田の貯水状態での生態観察実験のための仮説水田の設置に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1	2000.02.16		
99913	梅味遺跡	城北	埋蔵文化財調査室(吉田広)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1	2000.03.10		
99914	文京遺跡	城北	(城北)大学会館改修設備工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	19	2000.03.13		
99915	文京遺跡	城北	法文学部講義棟空調電源工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1	2000.03.13		
EU-00001	文京遺跡	城北	(城北)大学会館改修機械設備工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	9	2000.08.29 ~2000.09.30		
00002	文京遺跡	城北	(教育学部)クレイティニスコート改修工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(吉田広・三吉秀充)	2	2000.09.13		
00003	文京遺跡	城北	基礎科学総合研究棟新宮工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(田崎博之・吉田広・三吉秀充)	1,870	2001.01.15 ~複数回中		
00004		山越	山越運動場上水管修理工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(吉田広・三吉秀充)	7	2001.01.15		
00005	文京遺跡	城北	2000年度構内道路整備調査	確認	埋蔵文化財調査室(吉田広・三吉秀充)	33	2001.01.23 ~2001.01.24		
00006	文京遺跡	城北	(城北)ニースコート改修工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(吉田広・三吉秀充)	1	2001.01.23 ~2001.01.24		

調査番号	遺跡名	所在地	工事調査名	調査種別	調査機関(調査担当者)	面積 (m ²)	調査期間	図版 図幅	参考文献
EU-00007	文京遺跡	城北	法文学部掲示板設置工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀光)	5	20010315		
00008	御幸	御幸寮外灯設備改修その他工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀光)	3	20010316			

[参考文献]

- 森光靖・大山正風ほか 1976：文京遺跡、松山市文化財報告書、11
- 宮本一夫編 1989：鷹子・梅味遺跡、愛媛大学埋蔵文化財調査報告、I
- 宮本一夫編 1990：文京遺跡第8・9・11次調査、愛媛大学埋蔵文化財調査報告、II
- 宮本一夫編 1991：文京遺跡第10次調査、愛媛大学埋蔵文化財調査報告、III
- 栗田茂樹編 1992：文京遺跡—第2・3・5次調査、松山市文化財報告書、28
- 田崎博之編 1993：梅味遺跡11次調査、愛媛大学埋蔵文化財調査報告、IV
- 田崎博之編 1996：愛媛大学構内遺跡調査集報 I、愛媛大学埋蔵文化財調査報告書、V
- 田崎博之編 1996：梅味遺跡11次調査、愛媛大学埋蔵文化財調査報告書、VI
- 愛媛大学埋蔵文化財調査室編 1998：文京遺跡シンポジウム－弥生・大集落の解明－

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

— 1995・1996年度 —
愛媛大学埋蔵文化財調査報告VII
2001年3月31日

発行 愛媛大学埋蔵文化財調査室
〒790-8577 松山市道後樋又10-13
TEL 089-927-9127

印刷 七牛株式会社
〒790-8686 松山市湊町7-7-1
TEL 089-945-0112
